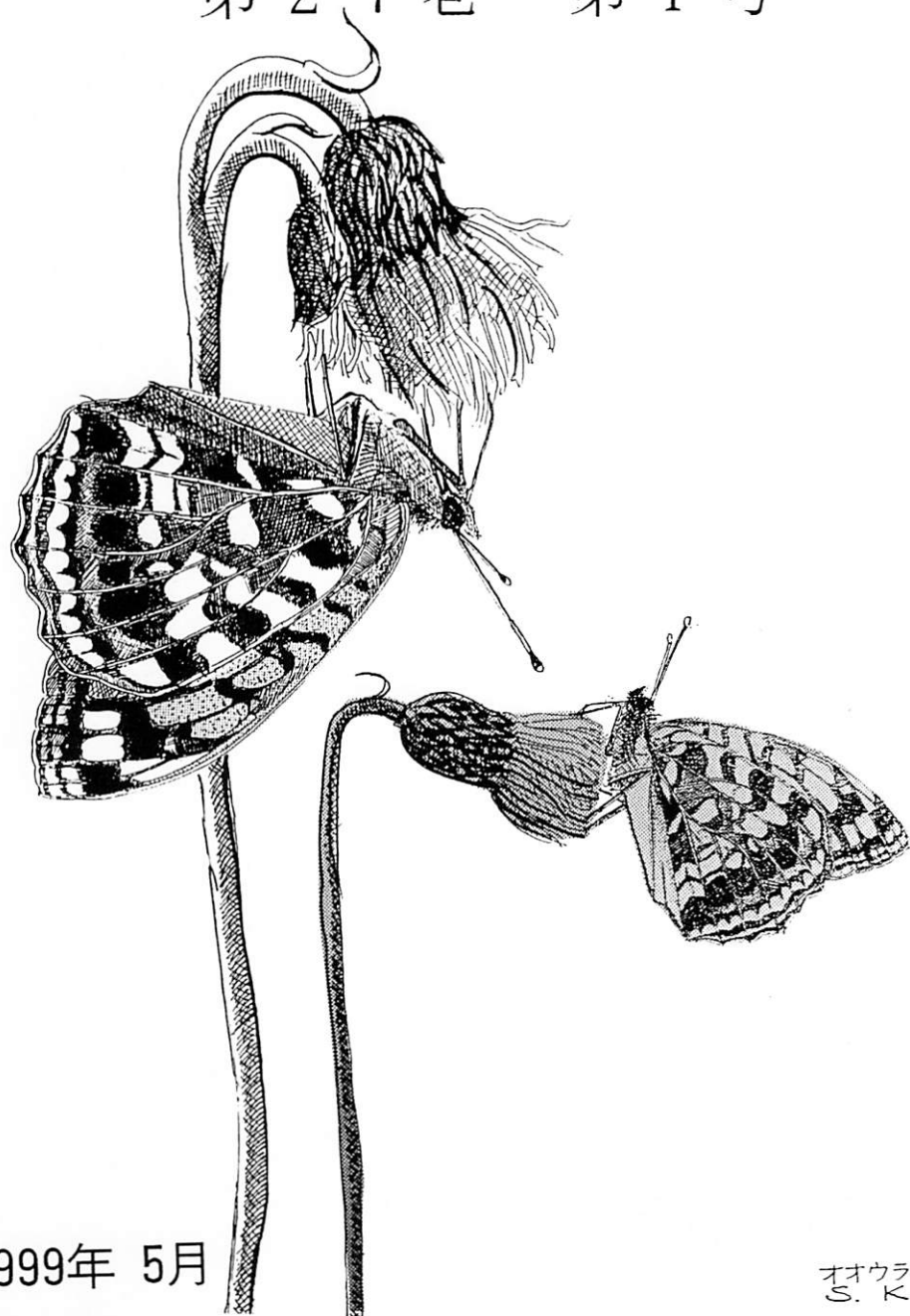


きべりはむし

第27巻 第1号



1999年 5月

兵庫昆虫同好会

オオウラギンヒョウモン
S. K.

兵庫県におけるオサムシの分布(2)

高橋 寿郎

9. *Carabus yaconinus yaconinus* Bates, 1873

ヤコンオサムシ (図15,16)

原記載(Trans. ent. Soc. 1873—Part. II: 231—232)には, "Nagasaki and Hiogo"産となっている。

石川良輔, 久保田耕平によると(動物分類学会誌, 50号, 1994), 本種は長崎のような九州のはるか西方に位置する地域に分布しないとある。Hiogo(Kobe)産のlectotypeはMuseum national d'Histoire naturelle in Parisに保管されていると。同時にこのヤコンオサムシを次の6亜種に分けている。即ち, *satai*(京都, 滋賀, 三重, 岐阜), *cupidicoris*(三重, 奈良, 大阪, 和歌山), *oki*(隠岐), *maetai*(中国地方北部), *yamaoki*(四国北部, 和歌山北西部), *seto*(愛媛県怒和島, 二神島)。

兵庫県の北部, 美方郡に産する本種は中国地方北部亜種*maetai*に当たるのかどうか詳しく調べが必要であろうと思われる。

井村有希, 水沢清行によれば(1996), オオオサムシ同様ヤコンオサムシの場合もミトコンドリアDNAを分析すると, 中部・関西地方のものと中国地方のものがそれぞれ別の枝に入ってしまうと述べている。

兵庫県における分布はオオオサムシ以上に広く分布, 個体数も県下のオサムシの中では一番多く見られる種であると考えられる。

産地. 淡路島[佐藤, 玉井, 1966]. 津名郡東浦釜口〜月山観音alt. 100~125m. 北淡町興隆寺上〜伊勢ヶ森alt. 250~510m, 津名町摩耶山南側alt. 350m[近畿, 1979], 常陸寺山[桂, 1971, 久松, 1973], 五色町鮎原吉田[川瀬, 1979], 東浦月ノ下観音[1♂1♀, 23.XI.1982, Mae-gawa, K, 石川, 久保田, 1994]. 洲本市柏原山〜竹原ダムalt. 250~509m, 先山alt. 440~420m, 440m, 80m, 200~270m, 300~400m, 400m(千光寺東側)[近畿, 1979]. 先山[桂, 1971, 久松, 1979, 堀田, 1976, 3♂2♀, 3.V.1969, T. Mizunuma leg., 石川, 久保田, 1994], 先山(1♂, 8.V.1977, Hotta leg.), 中川原町, 安乎町, 大日ダム[堀田, 1978], 下加茂[川瀬, 1979], 洲本市鮎屋, 納, 内田, 天川[川瀬, 1979]. 洲本市先山〜無線中継塔, 先山下内

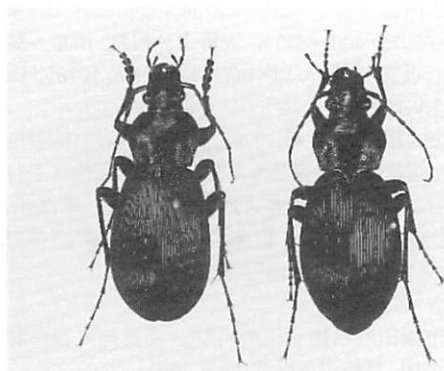


図15. *Carabus yaconinus yaconinus* Bates, 1873
ヤコンオサムシ

左 ♂ 神戸市西区伊川谷 19.V.1989.
右 ♀ 龍野市神岡町 19.V.1988.

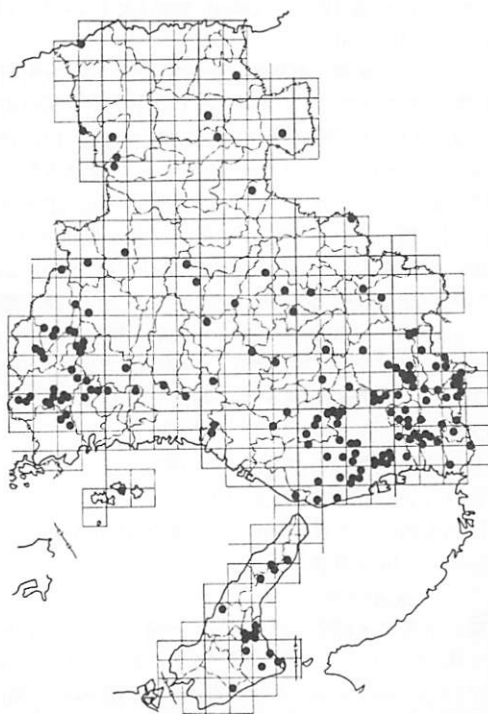


図16. ヤコンオサムシの分布

膳, 上内膳分岐[富永,1998]. 三原郡輪鶴羽山, 柏原山~竹原ダム[桂,1971, 石川,久保田,1994].

川辺郡猪名川町大野山~一本松alt.650~700m, 柏原alt.390~400m, 上肝川奥~鳥脇山尾根alt.250~300m, 上阿古谷三草山(南斜面)alt.400m, 三草山(東稜線)~神山alt.400~330m, 大野山~柏原, 清水~島alt.190m[近畿,1979], 上阿古谷[仲田,1970,1978], 槻並(1♂,4.V.1979).

川西市舍羅林山[近畿,1979], 山下初谷川(能勢川合流谷)[近畿,1979], 笹部大昌寺, 笹部, 久代3丁目春日神社alt.35m, 新田井之向286 alt.50m, 笹部alt.110m[近畿,1979], 見野, 笹部, 横地, 大和, 芋生[仲田,1970,1978,1982]. 笹部(1♂,9.IV.1978).

伊丹市[河上,1984].

尼崎市園田町旧猪名川河川敷, 猪名川町自然林[近畿,1979]. 尼崎市西南部[新家,1991].

宝塚市[中根,1953]. 大原野中部alt.120m, 波豆西方[近畿,1979]. 玉瀬竜岩林道入口, 切畑口alt.200m, 洗川(西岸)alt.80m, 洗川(西川)~夫婦岩alt.100~150m, 大原野中部, 西部宝山寺, 南下田脇alt.220m, 波豆清之瀬橋西竹林alt.180m, 同新大橋, 南東詰アカマツ林alt.180m[近畿,1979], 大峰山, 安倉[大平,1992], 切畑(1♀,18.II.1979).

西宮市北部山地, 有馬地区, 六甲山地, 東南部[日浦,瀬戸,宮武,1972], 戸崎町[五十嵐,1979], 角石町[芦田,1983], 塩野町ウイルソン山麓, 生瀬, 甲山浄水場北alt.120m, 甲山東面alt.250~300m, 鷲林寺町~観音堂alt.260~330m, 東久保alt.250~300m, 玉ヶ辻山~田尻橋alt.350~320m, 船坂川~三ヶ森alt.310~330m, 山口町山口, 丸山南麓alt.290m[近畿,1979], 山口町船坂alt.390m, 鷲林寺, 同道路~バス停, 浄水場alt.120m, 甲山, 東久保alt.260~300m, 観音山alt.350~400m, 船坂谷[近畿,1979], 甲陽学院高校周辺[今井,1981], 甲東園[戸沢,1936], 西宮市甲山・甲山橋[富永,1998].

芦屋市奥池東方alt.510m[近畿,1979].

兵庫[Bates,1873, 小宮,1970].

Hyogo Pref. 1♂ (Lectotype) in M.N.H. in Paris [Bates-石川,久保田,1994].

神戸[Nakane,1962].

神戸市東灘区篠原北町3丁目[近藤,1979], 六甲山麓土橋[谷口,1938], 盤滝(2♀,10.VI.1987), 保久良山(3♂1♀,30.XII.1975), 六甲台町(1♂,24.III.1979), Mt. Rokkasan, 4♀2♂♂, IV.1938, K.Taniguchi leg.[石川,久保田,1994], Mt.Rokko, ♂, 3.IV.1961, ♀, 28.XII.1962,

S.Tsukaguchi leg.[井村,水沢,1996], 灘区長峰山南東麓alt.280~350m, 箕面町四丁目~摩耶ケーブル摩耶駅alt.150~240m, 200~300m, 葦合区稲妻坂~世継山alt.400m[近畿,1979], 市ヶ原(1♂1♀,6.V.1979), 鳥原貯水池(南)alt.100m, alt.100~200m, alt.170m, 鶴越~鳥原貯水池(西)alt.120m, 菊水山南東麓alt.280m, 菊水山南東麓~高座alt.250~200m[近畿,1979], 鳥原(10♂7♀,31.VII.1977,etc.), 鶴越(3♂,4.IV.1976), 神戸電鉄鈴蘭台駅(南)alt.300~350m, 長尾町下上津(熊野神社)alt.170~200m, 田栗谷(西)alt.230m, 日西原(天満神社)alt.170m[近畿,1979], 押部谷木見(1♀,23.VII.1980), 雄岡山(1♂,23.III.1981), 藍那(5♂12♀,17.III.1993,etc.), 長田区池田町~高取山alt.100m, 130~200m, 200~500m, 夢野墓地alt.80m[近畿,1979], 須磨白川(11♂10♀,25.IV.1979), 垂水[中瀬,1953], 西舞子alt.10~15m[近畿,1979], 山の街西方alt.350~400m[近畿,1979] (3♂2♀,20.III.1977,etc.), 鈴蘭台大山公園(1♂,16.IV.1987), 伊川谷(1♂,19.V.1988), 道場, 道場駅, 道場クリ畑, 石峯寺[近畿,1979], 神戸市淡河町石峯山, 山田町餓鬼ノ嶺[家永,1973], 淡河町諭破山(西峠), 山田町alt.150m, 山田町鈴蘭台道場水野北東及び南alt.150m, 道場町飛瀬(南)百間滝入口alt.150m, 下上津熊野神社alt.170~200m, 淡河町北曾尾(東)alt.180~160m, 山田町下衝原(西)alt.110~140m, 草谷(南西)alt.200~250m, 西脇山(東)alt.250~280m, 200~250m[近畿,1979].

明石市明石公園(3♀,15.VI.1975,etc.).

高砂市鹿島神社, 牛谷[嵯峨,1986].

三田市羽束山々麓, 尼寺~花院山alt.250~300m, 志手原, 長尾山法尊院alt.220~250m, 波豆川南八坂神社alt.220~240m, 波田~東本庄(国道横)alt.190m, 酒井(北西)友杉寺alt.240~260m[近畿,1979].

美濃郡吉川町(2♂,26.VII.1955,etc.), 奥山(1♂3♀,17.V.1986).

三木市吉川町根原(北)alt.90m, 蓮花寺alt.130~

150m[近畿,1979], 細川中(1♀,30.V.1985), 口吉川町(1♂,16.V.1986), 笹原(1♀,3.X.1986), 三木市加古川, 美濃川合流点左岸[富永,1998].

小野市榊(1♀,16.V.1987).

加東郡東条町森(1♂1♀,11.V.1984,Y.Hachitani leg.), 滝野町光明寺alt.200m, 社町清水寺(南斜面)alt.400~490m[近畿,1979, 家永他,1973].

加西市河内町普光寺alt.180m[近畿,1979].

多可郡中町中村町alt.120m[近畿,1979], 加美町三谷(1♀,24.V.1975), 八千代町笠形山[嵯峨,1986].

朝来郡山東町小谷alt.160m[近畿,1979].

神崎郡大河内町長谷alt.280~340m[近畿,1979], 大河内町川上(1ex.,6.VIII.1979). 市川町播但自動車道市川インターチェンジ[富永,1998].

姫路市千本[中臣,1970], 広峰山奥平野alt.100m, 書写山下, 太尾[近畿,1979].

飾磨郡家島(1♂,26.V.1978,etc. T.Ueda leg.).

龍野市神岡町(1♀,26.V.1988,etc.), 菖蒲谷alt.250~300m[近畿,1979].

揖保郡新宮町下野[家永,春沢,1973].

相生市三濃山(1♂,7.V.1972,etc.), 矢野瓜生, 矢野釜出, 矢野榊[大貝,1998].

赤穂郡上郡(4♂7♀,20.XII.1975), 上郡, 山野里~高嶺神社(下方)alt.40~80m, 150~210m, 上郡alt.50~80m, 惣尻alt.50m, 上郡50~80m[近畿,1979], 13♀5♂, Hirano 30~35m, Yamamoto-sato, Kamigori-cho, 17~19, 1988 (R.&F. Ishikawa) [石川,久保田,1994].

赤穂市富原, 周世, 牟礼, 谷口, 上郡町高山, 行頭, 八保, 金出地, 富満, 作用谷, 奥, 高田台[大貝,1998].

佐用郡上月町久崎, 三日町町広山alt.160~180m, alt.200~260m, 広山~下筋原alt.260~200m, 三日月alt.140~160m, 湯浅口~高蔵寺~徳平alt.140~200m, 南光町中三河(西方)alt.200~300m[近畿,1979], (1♂4♀, Kuzaki, 65m, Kozuki-cho X.18, 19.1988, R.&F. Ishikawa), 3♀1♂, Enkoji, Kozukicho X.18~19, 1988 (R.&F. Ishikawa) [石川,久保田,1994]. 佐用郡佐用alt.160m, 大願寺160~220m, 東徳久alt.60~80m, 西徳久alt.180~200m, 大撫山alt.200~400m, 上月町, 中上月~寄延alt.150m[近畿,1979], 大撫山(13♂12♀, 6.XII.1975, etc.), 佐用町日名倉山奥海岨下[富永,1998].

宍粟郡千種町千草~岩野辺alt.380m[近畿,1979], 山崎町alt.250~280m, 葛根alt.250~280m[富永,春沢,1973, 近畿1979], 水谷(1♂,17.VII.1981).

多紀郡篠山町[岸田,辻,1975], 篠山町郡家alt.240m, 西紀町東大部alt.220m, 山南町金屋, 丹南町[近畿,1979].

氷上郡市島町樽井alt.80m[近畿,1979], 氷上郡[山本,1958], 山南町若林(1♂,24.III.1975, K.Kuramoto leg.).

出石郡出石町有子山[高橋,1963,1982].

豊岡市高尾金山稻荷神社alt.80m[近畿,1979].

城崎郡日高町国分寺alt.80m[近畿,1979].

養父郡八鹿町上小田(南西)alt.40m, 関宮町大久保alt.70m[近畿,1979].

美方郡美方町鍛冶屋, 鉢伏山頂ブナ林[近畿,1979],

扇ノ山[岸田,1963, 辻,岸田,1973, 高橋,1982], 浜坂町城山[黒井,1995].

10. *Damaster blaptoides blaptoides* Kollar, 1836

マイマイカブリ (図17,18)

この基亜種は長崎産で記載されている(Ann.Wien. Mus. I, 1836, p.334, t.53, f.1).

ReyはD.Lewisiiなる学名で"Found at Shimabara i. Kushi, and Hiogo, in Nippon; both sandy districts"を記載している(Entom. Monthly Mag. Novem, 1872, p. 131.). これは小型の集団でコマイマイカブリと呼ばれているが, 他地域からも知られ, 分類群とは考えられないとある(石川良輔, 1985).

近畿以西屋久島に至る地域に分布するものである.

兵庫県下にも広く分布しており, 個体数もそれほど少なくない.

産地. 津名郡常陸山[久松,1973], 五色町鮎屋吉田[川瀬,1979], 淡路町釜口~月山観音alt.100~350m, 北淡町興隆寺上~伊勢ヶ森alt.250~510m[近畿, 1979], 岩屋[藤富,1995].

洲本市先山(南側)alt.420m, 柏原山~竹原ダム, 先山alt.440m, 中川原町市原(淡路岳), 横尾トンネルの南alt.200m[近畿,1979], 中川原町厚浜[藤富,1995], 先山, 安乎町[堀田,1976,1978], 先山, 竹原ダム~柏原山[桂,1971], 下加茂, 納, 先山, 内田[川瀬,1979].

三原郡南淡町稲田, 福良[川瀬,1979], 輪鶴羽山[桂, 1971], 輪鶴羽山山頂南側alt.570~600m[近畿,1979].

川辺郡猪名川町柏原alt.390~400m, 大野山~一本松alt.650~700m, 大原山~柏原alt.450m[近畿,1979].

川西市笹部大昌寺, 満願寺上, 笹部~大阪府豊能郡豊能村(東能勢村)初谷川alt.150m側溝上[近畿, 1979], 笹部, 花折橋付近, 西畦町[仲田,1970,1978, 1982].

伊丹市[河上,1985].

宝塚市立合新田~僧川alt.200~240m, 島脇阪急バス停下, 夫婦岩~中山寺奥ノ院alt.250~300m, 洗川(西岸), 中山寺alt.120m[近畿,1979], 香合新田, 米谷[大平,1992].

西宮市北部山地有馬地区, 六甲山地東南部[日浦, 瀬戸,宮武,1972], 山口町畑山稜線alt.500~550m, 山口町丸山山頂~六伝alt.350~300m, 船坂川~三ヶ森alt.310~330m, 船坂~船坂峠alt.450~550m, 550~663m, 上ヶ原甲山浄水場北alt.120m[近畿,1979], 角石町[芦田,1983], 仁川清溪橋(河原)[近畿,1979].

芦屋市トビワリ~東お多福山バス停alt.480m[近

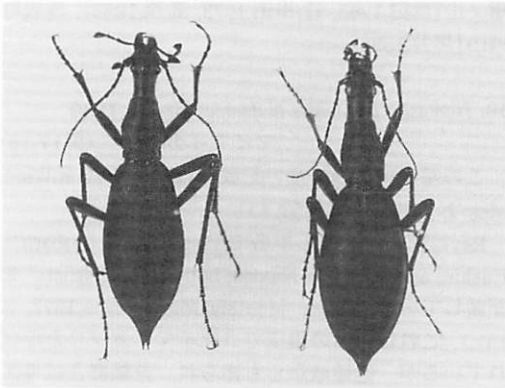


図17. *Damaster blaptoides blaptoides* Kollar, 1836
マイマイカブリ (Hachitani Photo)

左 ♂ 神戸市兵庫区鳥原産 5.V.1985. 体長43mm
右 ♀ 神戸市兵庫区鳥原産 16.VIII.1987 体長46mm

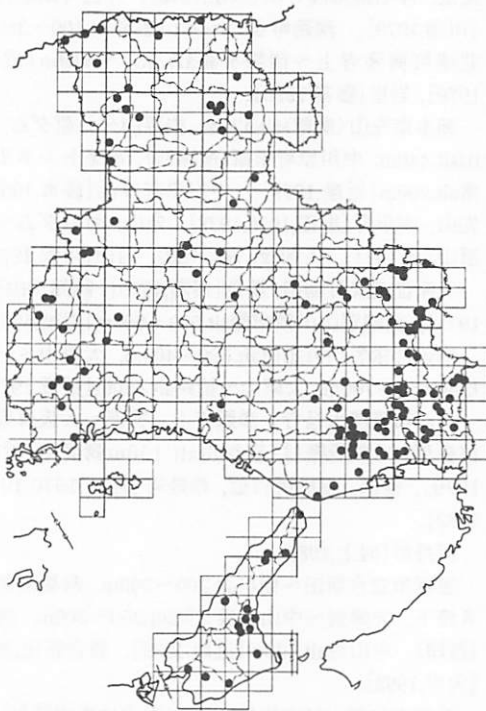


図18. マイマイカブリの分布

畿, 1979].

Hiogo [Bates, 1873, 1883, Lewis, 1880].

神戸市御影 [関, 1934], 保久良山 (2♂1♀, 30.XII.1975), 鳥原 (5♂3♀, 13.VIII.1977, etc.), 山の街 (3♂3♀, 30.III.1975, etc.), 山の街 (西方 alt. 350~400m) [近

畿, 1979], 藍那 (2exs., 10.XI.1981, etc.), 谷上 (1♀, 1.II.1976), 道場 (1♀, 13.IV.1974), 箕谷 (1♂4♀, 4.XII.1991), 多井畑 [谷口, 1938] (1♂, 19.VII.1990, etc.), 灘区箕面町4丁目~摩耶ケーブル摩耶駅 alt. 150~240m, 北区道場町静ヶ池~水久野 alt. 350m, 飛瀬北方 alt. 150m (河岸ガケ), 秀ヶ辻山北畑 alt. 350m (湿った朽木中), 淡河町論破山 (西峠), 南中池 (南) alt. 200m, 妙賀山北斜面 alt. 410~430m, 鳥原貯水池 (南)~鴨越 alt. 100~200m, 鴨越~鳥原貯水池 (西) alt. 120m, ヨモシロ谷 (入口)~猪鼻橋 alt. 560~530m, 東山橋~上唐櫃 alt. 370~390m, 稚子ヶ墓山 (南東山麓) alt. 300m, 下唐櫃おしゃもじ観音 alt. 320m, 西脇山 (東) alt. 250~280m [近畿, 1979], 北区下谷上 (1♂, 30.X.1979, etc.), 岩谷峠 (8exs., 20.XI.1981), 北鈴蘭台 (2exs., 20.XI.1981), 北区山田町西下 alt. 150m, 丹生山~坂本 alt. 400~500m, 再度山, 鈴蘭台 [近畿, 1979], 北区八多町屏風 (1ex., 6.V.1993, etc.), 舞子 (1♀, 25.VI.1982).

三田市永沢寺奥ノ院 alt. 530~570m, 川原 (南西) alt. 230~300m, 香下羽束山 (西麓), 雑木林, 香合新田~大磯 alt. 340m, 大磯 alt. 290m [近畿, 1979].

美濃郡吉川町 (2♂1♀, 26.VII.1985, etc.).

三木市吉川町蓮花寺 alt. 130~150m [近畿, 1979].

高砂市鹿島神社 [嵯峨, 1986].

加古川市志方町大藤山 [嵯峨, 1986].

加東郡社町清水寺 [富永ほか, 1973].

多可郡白山 [西脇, 1965].

神崎郡笠形山 (2♀, 6.XI.1976), 大河内町砥ノ峯 alt. 800m, 同柄原谷, 大河内町長谷 alt. 260m [近畿, 1979].

姫路市千本 [中臣, 1970].

相生市三濃山 (1♂, 6.V.1973, etc.).

赤穂郡上郡町大富字富満 (1ex., 2.V.1978), 上郡 alt. 50~80m, 尾長谷~惣尻 50m [近畿, 1979].

赤穂市大泊, 谷口, 上郡町作用谷 [大貝, 1998].

佐用郡佐用町徳久 alt. 180m, 大撫山 alt. 200~400m [近畿, 1979], 大撫山 [富永, 春沢, 1973, 嵯峨, 1986]. 佐用郡佐用町延吉~豊富, 新田 [富永, 1998], 大撫山 (4♂4♀, 13.III.1976, etc.).

揖保郡 [大上, 1901], 新宮町福原 (1♀, 7.V.1992).

宍粟郡山崎町岩田神社~NHK塔, 千種町千草~岩野辺 alt. 380m, 千草~妙見社 alt. 400m [近畿, 1979], 音水 (1♂, 13.V.1973), 千種町西河内 [大貝, 1998].

多紀郡篠山 [岩谷, 1960, 岸田, 1975], 三嶽 [中臣, 1970], 多紀町江県東池上 alt. 50~70m, 城東町四十九 alt. 420m, 西紀町東大部 alt. 220m [近畿, 1979]. 篠山町郡家 alt. 240m, 篠山町浜谷春日神社 alt. 270m, 多紀町

板坂峠alt.310~330m, 天引峠(西方)alt.320m, 小金ヶ嶽, 畑山間の峠~小金嶽, 三嶽間の岐分峠alt.420m, 城東町籠坊alt.400m, 弥十郎岳下籠坊登り口alt.400m, 弥十郎岳下籠坊登山道alt.600m, 丹南町白髪岳北の峠alt.330~340m[近畿,1979].

氷上郡[山本,1958], 山南町味間奥~奥畑間の峠alt.300m, 金屋[近畿,1979].

出石郡出石町松ヶ枝[高橋,1979,1982].

朝来郡山東町小谷alt.160m, 生野町口銀谷姫神社~山神社alt.340m, 朝来町山内(東方)alt.150m[近畿,1979].

豊岡市神武山[高橋,1975,1982].

城崎郡日高町上郷円山川東, 同国分寺alt.60m[近畿,1979], 日高町日置, 竹野町切浜[高橋,1975,1982], 香住町大乘寺(1ex.,17.V.1970)[高橋,1982].

養父郡八鹿町上小田(南西)alt.40m, 世賀居(西)alt.400m[近畿,1979], 氷の山[高橋,1959,1982, 近畿,1979].

美方郡村岡町春來峠南下丸味alt.350m, 美方町熱田~氷の山(峠下)alt.950m[近畿,1979]. 浜坂町城山, 居組, 田井, 温泉町竹田, 美方町石寺, 村岡町蟠奥, 萩山, 祖岡[永幡,1994].

11. *Hemicarabus tuberculatus* (Dejean et Boisduval, 1829) セアカオサムシ (図19,20)

ユーラシア大陸東北部に比較的広い分布域を持つが, 地理的変異に関する検討は不十分であるという(井村,水沢,1996).

日本列島に広く産するが, 本州, 四国, 九州に産するものは一般にやや小型であるとのこと(石川,1985).

兵庫県下の分布は広いようだが, 記録はあまり多くない. 戦前, 六甲山上にて燈火にわりと飛来する報告がある. 筆者自身も六甲山上の電灯の下にある側溝で, 歩行中のものを採集したことがある. 近年, 大阪の淀川の河川敷で再発見されている. 県北部の円山川付近の河川敷にもいるのではないかといった報告がある(永幡,1994). 今のところ多産地というのはまだ見つかっていないように思われる.

産地. 宝塚市[小島,1976], 高司[大平,1992]. 芦屋市[東,1971]. 神戸市六甲山[関,1934, 谷口,1938], 六甲山(1ex.,27.VII.1939). 神崎郡神崎町藤が棚牧場生野峠alt.380m[春沢,1967, 近畿,1979]. 養父郡関宮町鉢伏山(1♂,6.VIII.1974,K.Kuramoto leg.), 福定[日浦,1982], 鉢伏高原(1♂,10.VII.1975,K.Fujiwara leg.)[高



図19. *Hemicarabus tuberculatus* (Dejean et Boisduval, 1829) セアカオサムシ (Hachitani Photo)

♂ 養父郡鉢伏高原産 10.VII.1975 体長18mm
藤原 均採集



図20. セアカオサムシの分布

橋,1983]. 美方郡兎和野[1♀,29.VII.1956,K.Yamamoto leg.], 扇ノ山[永幡,1994].

12. *Carabus kumagaii* Kimura et Komiya,1971

オオクロナガオサムシ (図21,22)

クロナガオサムシによく似ているが, 一般にやや

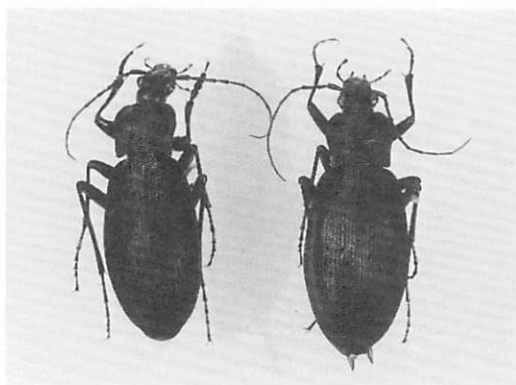


図21. *Carabus kumagaii* Kimura et Komiya, 1971
オオクロナガオサムシ
宝塚市切谷 ♂♀ 20.XI.1981

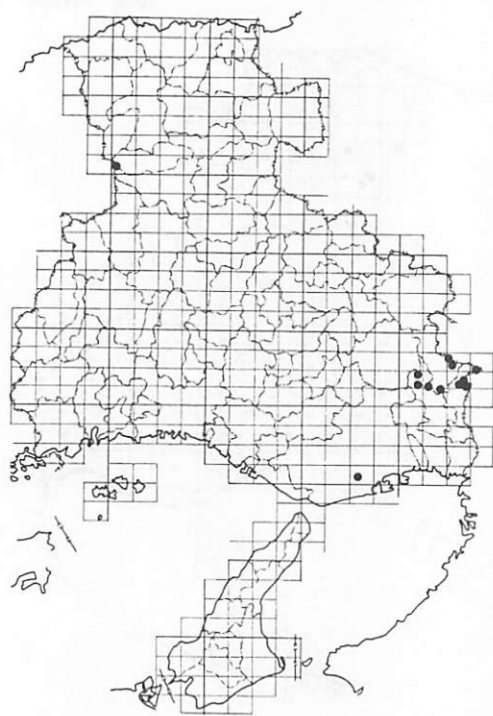


図22. オオクロナガオサムシの分布

大きい。1974年に"昆虫"誌上に(Vol.42, No.4, p.395-400, 1974) 新種記載されたものである。ただ、命名者は1971年に上記学名で *Insect Magazine*, 76, pp.85-86 に形態の記載をしているので、これが原記載と扱うべきであり、学名の表記は1971年とするべきである(井村, 水沢, 1996)。基準産地は静岡県富士宮市で、分

布は本州の東海～近畿地方に分布する。クロナガオサと比べて頂板の形態が異なる。

兵庫県の分布は、県の東部、武庫川より東に分布しているようで、県下にはクロナガオサムシの方が広く分布しているようである。ただ、氷の山の記録が若干気にかかる。そのあたり、もっと詳しく調べる必要がありそうである。

産地。川辺郡猪名川町猪名川[谷口, 1938]、猪名川町上肝川(奥) alt. 230m, 上阿古谷三草山(東南の谷) alt. 350m, 同三草山(東稜線)～神山[近畿, 1979]。川西市西畦野[近畿, 1979]、能勢高山(1♂1♀, 29.XI.1964, K. Matsumoto leg.)、大和、笹部、黒川[仲田, 1978, 1982]。宝塚市最明寺滝(北) alt. 150～180m, 切畑口 alt. 200m, 大原野中部(神社) alt. 210m, 玉瀬竜岩林道入口[近畿, 1979]、切畑[大平, 1992]。切畑(2♂3♀, 28.VI.1977, T. Okutani leg.)。神戸市[小宮, 1970]、鶴越[木村, 1970]。養父郡氷の山[小宮, 1970, 木村, 小宮, 1974]。

13. *Carabus kyushuensis nakatomii* Ishikawa, 1966

チュウゴククロナガオサムシ (図23, 24)

兵庫県に産するクロナガオサムシ、オオクロナガオサムシと比べてかなり大きい。九州に分布する基亜種と山陰地方にかけて分布するこのチュウゴククロナガオサムシとは、陰茎先端部がはるかに長い点で区別される。この亜種は、広島、島根、鳥取、岡山、兵庫県西部にかけて分布し、オニクロナガオサムシ(subsp. *cerberus* (Ishikawa))の分布域を囲んで分布している。

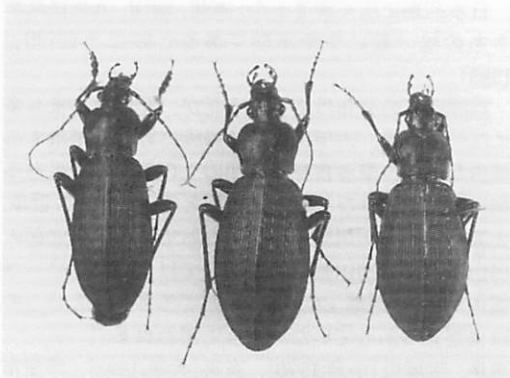


図23. *Carabus kyushuensis nakatomii* Ishikawa, 1966

チュウゴククロナガオサムシ (Hachitani Photo)

左より 佐用郡大撫山産 ♂, 13.III.1976 体長35mm
♀, 15.IV.1976 体長38mm
赤穂郡上郡産 ♀, 20.VII.1975 体長34mm

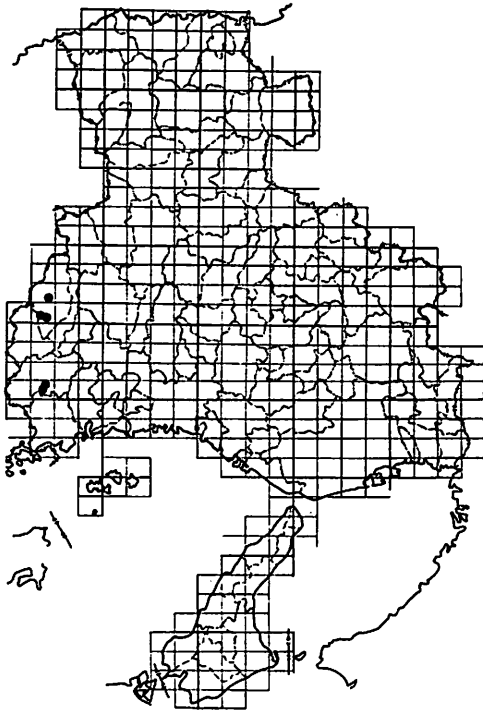


図24. チュウゴクロナガオサムシの分布

兵庫県では大撫山とその付近のみに産し、この亜種の分布の東限にあたる。大撫山ではかなりの個体が見られたが、現在どうなっているのか、他の近接地では極めて稀である。

産地。赤穂郡上郡町山野平野～大酒alt.40～50m, 上郡町山野里～高嶺神社(下方)alt.40～80m[近畿, 1979], 上郡高嶺神社(1♀, 20.XII.1975)。

佐用郡大撫山中～上部, 長尾～大撫山[富永, 春沢, 1973, 近畿, 1979], 佐用郡佐用町延吉～豊福新田[富永, 1998, *L.kyusuensis cerberus* (Ishikawa) の学名で記録されている]。大撫山[近畿, 1979], 大撫山(1♂1♀, 15.III.1975, 6♂13♀, 6.XII.1975, 8♂11♀, 13.III.1976, 5♂2♀, 25.IV.1976, etc.)。

14. *Carabus procerus procerus* Chaudoir, 1962

クロナガオサムシ (図25, 26)

フランスのショウドロールにより記載された種であるが、基準産地は不明であるとのこと。

本州と九州に分布している種である。

兵庫県にも広く分布していて、個体数はまず普通に見られるが、何処にでもいるといったものではない。神戸の山の街あたりのものは大変細長い個体に

なるが、石川(1985)によると中国地方では細形になるとのこと。九州に産するのは別亜種になる。

産地。川辺郡大野川～一本松alt.650～700m, 450m, alt.400～390m, 猪名川町杉生新田～天王南の峠alt.500～490m[近畿, 1979, 仲田, 1982]。

神戸市[木村, 小宮, 1974], 住吉[谷口, 1938], 御影[関, 1934], 鈴蘭台, 山の街, 山の街西方alt.350～400m[近畿, 1979], 山の街(7♂6♀, 23.III.1975, etc.), 藍那(4♂7♀, 14.XII.1975, etc.), 北鈴蘭台(7♂7♀, 20.XI.1971, etc.)。

加東郡社町清水寺[富永ほか, 1973]。

多可郡加美町三谷(1♂2♀, 18.IV.1975), 中町茂利alt.280m, 加美町清水口alt.280m, 清水～鳥羽alt.280m[近畿, 1979]。

加西市河内町普光寺alt.180m[近畿, 1979]。

神崎郡神崎町笠形山北麓alt.350m, 神崎町上大山(東方)alt.280m, 生野峠(東方)alt.380m, 大河内町城山(最明寺裏)alt.260～320m, 長谷alt.280～340m[近畿, 1979]。

佐用郡三日月町湯浅口～高蔵寺～徳平alt.140～220m[近畿, 1979]。佐用郡佐用町日名倉山奥海山岨下[富永, 1998]。

宍粟郡山崎町岩田神社～NHK塔[近畿, 1979], 山崎町山崎[富永, 春沢, 1973], 千種町千草～岩野辺alt.380m[近畿, 1979], 赤西(3♂1♀, 12.IV.1981, S.Ogura leg.), 千種町西河内[大貝, 1998]。

三田市羽東山[大平広士, 1972]。

多紀郡篠山町東浜谷春日神社alt.260m, 郡家alt.240m, 城東町四十九alt.420m, 多紀町天引峠(西方)alt.320m, 篠山町小金嶽, 三嶽間峠alt.520m, 火打岩東南方alt.260m, 西浜谷～東浜谷春日神社alt.270m[近畿, 1979]。篠山町[岩谷, 1961, 辻, 岸田, 1975]。春日神社(1♂3♀, 17.IV.1976), 西紀町(2♂1♀, 15.I.1977, K.Kobayashi leg., etc.)。

氷上郡[山本, 1958], 山南町金屋, 市島町多利(東方)alt.120m, 多利～神池寺alt.320m, 樽井alt.80m, 柏原町柏原, 入船山八幡神社alt.500m, 青垣町杉谷alt.260～270m[近畿, 1979], 山南町若林(1♂2♀, 7.I.1977, K.Fujiwara leg., etc.)。

出石郡出石町・[高橋, 1963, 1982], 出石町水石(東床尾山北麓)alt.100～140m, 鯉山峠alt.120m[近畿, 1979]。

豊岡市高屋金山稻荷神社60m, alt.80m[近畿, 1979]。

朝来郡朝来町青倉山青倉神社, 生野町alt.360m, 山東町小谷alt.160m, 生野町生野alt.340～380m, 口銀

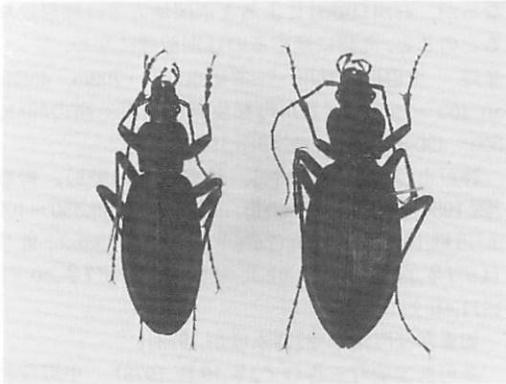


図25. *Carabus procerus procerus* Chaudoir, 1862
クロナガオサムシ
神戸市北区鈴蘭台大山公園産♂♀ 20.XI.1981

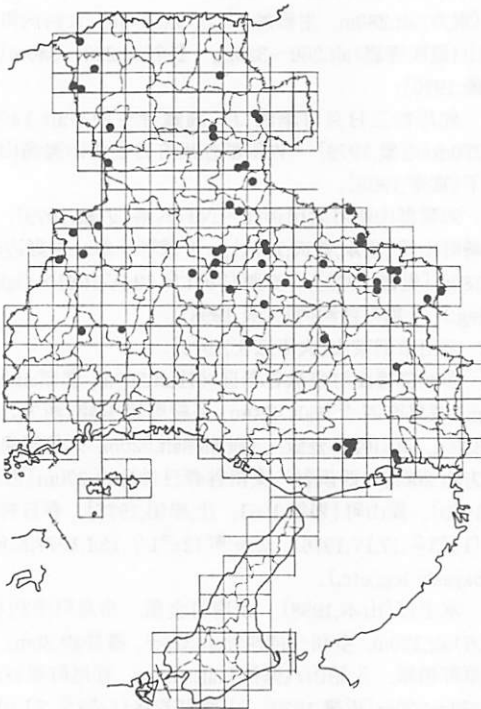


図26. クロナガオサムシの分布

谷alt.320~340m, 朝来町山内(南方)alt.150m[近畿, 1979]. 和田山町東谷(和田山南側), 柳原(和田山北東側)[富永, 1998].

養父郡八鹿町上小田(南西)alt.40m, 世賀居(西)alt. 40m, 大屋町須賀ノ山古生沼付近alt.1480~1460m,

八鹿町世賀居西alt.40m[近畿, 1979], 氷の山[木村, 小宮, 1974, 高橋, 1982].

美方郡浜坂町[黒井, 1995], 温泉町蒲生峠, 越坂の上神社, 美方町鍛冶屋alt.450m, 温泉町湯村西沼神社 alt.80~100m[近畿, 1979].

(附記)

脱稿後, 永幡嘉之氏による"但馬地方のオサムシの分布記録"の詳細が発表になった(IRATSUME, No.22: 10-19, 1998). 但馬地方での詳しい分布状況が示されている. 是非参考にして頂きたい(本報でキュウシュウクロナガオサの但馬での正式記録が示されている).

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

市川町瀬加地区における クロコノマチョウの採集記録 広畑 政巳

ナガサキアゲハ・イシガケチョウなど兵庫県下でかつては迷蝶と言われていた蝶が, 近年分布を広げその姿を良く見かけるようになった。本種もその一種である。

県下南部では1951年の初記録以来かなりの採集記録が報告されている。特に1977年以降はほぼ毎年採集記録の報告があり, 1980年代に入ると越冬したと思われる春季の記録も報告されている。そして1990年代にはいるとその数も飛躍的に増え, 近年は土着したと断言できるほどになってきている。

市川町瀬加地区での最初の記録は1980年で, その後同一場所で1993年, 1997年にも本種を確認しているが, 1998年は同地区内の各地で採集しているのでこれまでの記録と併せて報告しておく。

〈採集記録〉

市川町上牛尾半瀬	1♂	5-X-1980	広畑政巳
" "	1♀	9-X-1993	"
" "	1♀	10-X-1997	"
" "	1♂	12-IX-1998	"
" 下牛尾市場	1♂1♀	16-VIII-1998	"
" " 河内	1♀	22-VIII-1998	"
" 下瀬加茂地	1♂(目撃)	12-IX-1998	"

(HIROHATA MASAMI 姫路市白鳥台3-11-8)

兵庫県のタマムシ(3)*

高橋 寿郎

51. *Agrilus tibialis* Lewis, 1892

ホソアシナガタマムシ

体長, 4.5–7.0mm. 体色は青緑, 青, 紺, 唐金色と変化に富む. 内側隆線は弱く, 短く, 弧状で側隆線に結合しない. 上翅は翅端近くの会合部に沿って銀白色毛を生じる. シデ類, カシ類につく.

兵庫県下に広く普通に産する.

産地. 川辺郡猪名川町木間生[仲田, 1978, 1982], 内馬場[仲田, 1978, 1982]. 川西市一の鳥居, 笹部[仲田, 1978, 1982]. 宝塚市香合新田[伊藤, 1992]. 西宮市角石町[芦田, 1983]. 神戸市山の街(1ex., 1.VI.1958), 鳥原(1ex., 3.V.1983, etc.), 谷上(7exs., 25.V.1958), 藍那(4exs., 8.VI.1969). 龍野市神岡町(1ex., 26.V.1988, etc.). 相生市三濃山(1ex., 18.V.1974). 宍粟郡福知溪谷(1ex., 3.VI.1975, etc.), 赤西(1ex., 3.VI.1979, etc.). 多紀郡篠山町小金岳[辻, 1970]. 美方郡鉢伏山(1ex., 4.VI.1975, M.Yuma leg.), 扇の山[辻, 1970, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1982].

52. *Agrilus trinotatus* E.Saunders, 1873

ミツボシナガタマムシ

体長, 4.5–7.0mm. 前胸背には明瞭な中央溝をもつ.

内側隆線は弧状に湾曲し, 中央付近に達するが側隆線には結合しない. 上翅は中央付近に大きなぼやけた毛斑をもち, 後方1/3の会合部に小さな白色斑をもつ.

県下の分布はほとんど知られていないが神戸市内鳥原貯水池畔には極めて多く産する.

産地. 神戸市鳥原(1ex., 12.V.1980, etc.), 藍那(1ex., 26.V.1993). 赤穂市生島[相坂ほか, 1995].

53. *Agrilus viduus subviduus* Y.Kurosawa, 1957

ベニナガタマムシ

体長, 5.8–9.5mm. 複眼の内縁は波曲しながらわずかに下方へ収斂する. 頭楯は触角孔間で明らかに幅広, 内側隆線は短く強く湾曲する. ケヤキ, ハルニレにつくといわれているが県下からの記録は一例のみである.

産地. 宍粟郡赤西[1ex., 10.VI.1973, H.Hatanaka leg.].

54. *Agrilus viridiobscurus* E.Saunders, 1873

アオグロナガタマムシ

体長, 3.7–5.5mm. 顔面は前方へやや突出し, 複眼の内縁にほぼ平行, 内側隆線は波曲しながら前角近くにまで達し, 側隆線に結合する. 上翅は一様に金褐色短毛で被われ, 先端はやや裁断状. 前胸腹板突起の先端は3つに分ける.

ヒメヤシャブシ, イヌシデ, アブラチャン, オニグルミ, マンサク, ケヤキなどにつく. 兵庫県下には広く分布していそうである.

産地. 宝塚市香合新田[伊藤, 1992]. 神戸市鳥原(1ex., 2.VI.1974, etc.), 丹生山(1ex., 25.V.1958), 逢山峽(1ex., 24.VI.1989). 朝来郡生野(1ex., 8.VII.1956). 宍粟郡音水(1ex., 11.VI.1972, etc.)[辻, 1970], 赤西(1ex., 21.V.1972, H.Hatanaka leg.).

55. *Agrilus yamabusi* Miwa et Chujo, 1940

ヒコサンナガタマムシ

体長, 4.5–5.5mm. 三輪勇四郎・中條道夫両博士により安松京三博士が九州英彦山にて採集されたもので, 上記のごとく新種記載された種である(Nippon no Kochu, Vol.3, No.2, p.55, 63–64, pl.VII, f.9, 1940).

黒沢良彦博士が浦和市・埼玉県, 井ノ頭・東京, 大台ヶ原・奈良, 福智山・福岡県産で *Agrilus acastus nakanei* Y.Kurosawa (ナカネナガタマムシ) と記載された種(Bull. Nat. Sci. Mus. Vol.6, No.2, p.106, 1962). Type loc. Akane Rindo, Haranomachi, Fukushima Pref. によって遠山雅夫が新種記載した *Agrilus ohmomi* Toyama オオモモナガタマムシの両者すべて本種のシノニムになる.

三輪勇四郎・中條道夫両博士もカラー図説されているが(1940), 黒沢良彦博士も原色昆虫大図鑑第2巻(甲虫編)でナカネナガタマムシとしてカラーで図説されている(pl.77, f.22, p.154, 1963).

カシ類につく種とのこと. 兵庫県下には広く分布しているように思われる.

産地. 神戸市西区伊川谷(4exs., 19.V.1988, etc.). 龍野市神岡町(1ex., 26.V.1988). 宍粟郡赤西[♀-allotype, 24.VI.1975, M.Toyama leg. ♂-paratypes, 24.VI.1979, M.Toyama leg., Toyama, 1985. ♀, 26.VII.1982, M.Yagi leg., Toyama, 1985].

* 兵庫県甲虫相資料・349

56. *Agrilus yamawaki* Y.Kurosawa, 1957

コクロナガタマムシ

体長, 7.0–12.0mm. 福岡県の福岡山にて採集された標本をタイプとして, 黒沢良彦博士が記載された種である (Bull. natn. Sci. Mus., Tokyo 3(3):193–194, 1957). 複眼の内縁は強く波曲し, 下方へ収斂する。内側隆線は強く波曲し, 前方1/4付近で側隆線に結合する。上翅は灰色短毛からなる点紋を, 中央付近に波状帯を後方1/4にそなえ, 翅端も同様の短毛にて被われるが, これらの毛斑は時に消失する。カラスザンショウにつく。

県下の分布はあまり多くない。

産地. 川辺郡猪名川町槻並 [仲田, 1982]. 神戸市北区八多町屏風 (1ex., 4.VI.1993). 宍粟郡赤西 [辻, 畑中, 1973], 音水 (1♂, 11.VIII.1976, T.Takahashi leg, 遠山, 1980). 美方郡浜坂町城山 [黒井, 1995].

Subfamily *Cylindromorphinae* Portevin, 1931

ホソツツタマムシ亜科

Genus *Paracylindromorphus* Théry, 1928

ホソツツタマムシ属

57. *Paracylindromorphus japonicus* (E.Saunders, 1873)

ホソツツタマムシ

体長, 4–5.5mm. 頭胸部にはまるいあばた状の点刻を散布, 上翅の横じわは基半部で強く, 後方1/3ではほぼ消失する。翅端は不明瞭な微細な小歯を並べる。ススキの茎につく。県下の記録は少ないが, ススキを注意すればもっと見られると思う。

産地. 神戸市押部谷町木見 (1ex., 23.VI.1980). 美濃郡吉川町 (1ex., 27.VI.1985). 氷上郡 [山本, 1958].

58. *Paracylindromorphus richteri* Thery, 1936

アラメホソツツタマムシ

体長, 4–5mm. 前記種に似ているが細形, 前胸背板は後方に狭まり, 上翅の皺刻は強く粗, 翅端を除くほぼ全面に広がり, 腹端の溝の形が異なる。本種もススキにつくようである。

県下の記録は1例あるのみであるが, 調査不十分と考えられる。

産地. 龍野市神岡町 (1ex., 21.VII.1988).

Subfamily *Trachyinae* Gory et Laporte, 1840

チビタマムシ亜科

Genus *Aphanisticus* Latreille, 1810

ケシタマムシ属

59. *Aphanisticus congener* E.Saunders, 1873

クロケシタマムシ

体長, 3mm内外. 黒色, 短太, 顔面は浅くくぼみ, 中央に不明瞭な縦溝がある。頭胸部は大きく浅いあばた状の点刻を粗布する。上翅の点刻は前半で強く後半で不明瞭。

兵庫県下での記録は次のものがあるだけである。産地. 尼崎市武庫元町 [斉藤, 1991].

60. *Aphanisticus yasumatsui* Y.Kurosawa, 1954

ヤスマツケシタマムシ

体長, 3–4mm. 頭胸部は真鍮色が強く, 細かい絞肌状。複眼の内側は強く鋭く稜状に突出する。小楯板は背面より見えない。上翅には青銅緑色の紋があり, 基半部には2本の強い縦隆条を走らす。兵庫県下の分布はあまり知られていない。

産地. 宝塚市武田尾 [小田中, 1994]. 宍粟郡音水 (1ex., 11.VI.1972), 赤西 [秋山, 1980]. 氷上郡音垣町神楽 [高橋, 1960, 1962].

Genus *Endelus* Deyrole, 1864

エグリタマムシ属

61. *Endelus collaris* (E.Saunders, 1873)

キンイロエグリタマムシ

体長, 4.5–6mm. エグリタマムシ属は触角の先端6節が鋸歯状で脛節は自由。頭胸部は赤色ないし赤銅色を帯びることが多く, 浅い円形のあばた状点刻を散布する。

兵庫県下の記録は次の1例のみ。

産地. 城崎郡香住町香住岬 [29.IV.1974, Y.Kurosawa det. 高橋, 1976, 1982].

62. *Endelus pyrrosiae* Y.Kurosawa, 1985

アカガネエグリタマムシ

体長, 4–5.5mm. 複眼の内縁は稜状にならない。前胸背板の側縁は中央前で湾曲が強く不明瞭に段刻される。久松定成博士は *Endelus japonicus* Obenberger として洲本三熊山産を記録した (1974)。黒沢良彦博

士は真の *Endelus japonicus* は日本に産しないようだと言われた(甲虫ニュース,31/32:4,1975)。

黒沢良彦博士は上記学名で淡路島を分布にカラーで図説された(1985)。

伊藤 武は *Endelus* sp. アカガネエグリタマムシとして三熊山城趾の石垣にびっしりと生えたヒトシバ(うらぼし科)の葉上に多数見出すことができた(150exs.採集)報告された(きべりはむしVol.12, No.2, p.56, 1984)。

現在、兵庫県下で淡路島以外の産は知られていない。

産地。洲本市三熊山[久松,1974, 伊藤,1984], 淡路島[黒沢,1985]。

Genus *Trachys* Fabricius, 1801

チビタマムシ属

63. *Trachys auricollis* E.Saunders, 1873

クズノチビタマムシ

体長, 3-4mm. 頭楯の幅は長さの約1.3倍, 頭胸部の毛は金色, 上翅の毛は黒く銀白色, 顔面のえぐれは浅く, 肩部のくぼみも不明瞭, 肩部は強く張り出す。クズにつく。

兵庫県下では極めて普通に得られ, 広く分布している。

産地。三原郡南淡町福良[辻,1973], 諭鶴羽山[堀田, 1978]。川西市笹部, 芋生[仲田,1982]。伊丹市[河上, 1984]。宝塚市上佐曾利, 安倉北[伊藤,1992]。神戸市六甲山[Y.Kurosawa,1959] (3exs.,23.VI.1968)。摩耶山(1ex.,27.V.1953,etc.), 芦谷溪谷(1ex.,13.IX.1982), 石井ダム(2exs.,18.X.1991), 烏原(1ex.,11.VI.1967,etc.), 藍那(1ex.,4.VI.1986,etc.), 逢山峽(1ex.,17.V.1985), 北区八多町屏風(1ex.,4.VI.1993), 多井畑(1ex.,27.IX.1990,etc.)。美濃郡吉川(1ex.,29.VIII.1985)。多可郡烏羽(2exs.,29.IV.1972)。飾磨郡夢前町我孫子(2exs.,1.V.III.1980), 家島[上田,1981]。揖保郡新宮町福原(1ex.,22.VI.1992)。相生市三濃山(3exs.,3.V.1969,etc.)。宍粟郡福知溪谷(8exs.,20.VI.1976), 原(1ex.,11.V.1979), 音水(1ex.,13.VII.1959,etc.)。多紀郡篠山町天地山[辻, 1970], 雨石山[Hayashi,etc.]。水上郡[山本,1958], 山南町(3exs.,11.VII.1990,etc.)。養父郡水ノ山(5exs.,27.VII.1956)。

64. *Trachys broussonetiae* Y.Kurosawa, 1985

コウソチビタマムシ

体長, 2.7-3.0mm. 頭楯の幅は長さの約1.7倍。金褐色と銀白色毛を混じた毛斑がある。やや瘦形。コウソ, カジノキなどにつく。

兵庫県下に広く分布しているように思われる。

産地。川西市笹部[仲田,1982]。神戸市布引(2exs.,17.V.1959), 山の街(1ex.,7.VI.1959), 芦谷溪谷(2exs.,13.IX.1982), 烏原(1ex.,11.VI.1967,etc.), 伊川谷(1ex.,4.X.1988), 多井畑(2exs.,27.IX.1990)。三木市大村(1ex.,10.V.1990)。相生市三濃山(4exs.,3.V.1969,etc.)。宍粟郡音水(1ex.,5.VII.1990,etc.)。水上郡山南町(1ex.,5.VII.1990,etc.)。養父郡水ノ山(1ex.,27.VII.1956)。美方郡扇ノ山[辻,1970, 辻岸田,1972]。

65. *Trachys cupricolor* E.Saunders, 1873

ドウイロチビタマムシ

体長, 3.8-4.3mm. 明るい赤銅色。上翅には金褐色毛と銀白色毛による毛斑がある。頭楯の幅は長さの約2倍。ケヤキにつく。

兵庫県下での記録はわりと少ない。

産地。川辺郡猪名川町杉生新田[仲田,1982]。神戸市六甲山(1ex.,24.VI.1953), 二十渉(1ex.,26.VI.1953), 烏原(1ex.,24.V.1953,etc.), 山の街(1ex.,17.V.1953), 藍那(1ex.,10.VI.1978)。相生市三濃山(2exs.,20.V.1973)。宍粟郡音水(5exs.,31.V.1970,etc.)。

66. *Trachys griseofasciata* E.Saunders, 1873

ナミガタチビタマムシ

体長, 3.4-4.1mm. 体色は赤銅色を帯び, 毛はチョコレート色を帯び, 頭楯の幅は長さの約2倍。ムクノキ, エノキときにケヤキにつくと。

兵庫県下には広く分布している。

産地。伊丹市[河上,1984]。尼崎市西南部[新家,1991]。宝塚市佐曾利(1ex.,13.V.1983,YHachitani leg.)。神戸市御影[関,1933], 六甲山(1ex.,18.VI.1967), 山の街(3exs.,17.V.1953,etc.), 谷上(1ex.,25.V.1958), 丹生山(1ex.,18.V.1958), 太山寺(1ex.,3.V.1967), 烏原(1ex.,3.VII.1966,etc.)。多可郡烏羽(1ex.,1.VI.1975)。揖保郡新宮町福原(1ex.,10.VI.1992,etc.)。相生市三濃山(1ex.,7.V.1972)。宍粟郡福知溪谷(4exs.,20.VI.1976), 音水(1ex.,21.V.1972,etc.)。水上郡[山本,1958]。城崎郡城崎町来日[高橋,1959,1982]。

67. *Trachys incornspicua* E.Saunders, 1873

ウメチビタマムシ

体長, 2.5mm内外。紫銅色, 銀白色の毛斑がある。頭

楯の幅は長さの約1.5倍。ウメ、アンズ、スモモなどにつくと。

兵庫県下には広く分布しているようだ。

産地。川西市笹部[仲田,1978]。宝塚市売布神社[小田中,1994]。芦屋市[Kurosawa,1959]。神戸市六甲山(1ex.,8.V.1955),二十渺(1ex.,26.VI.1955),山の街(1ex.,17.V.1953),谷上(2exs.,29.IV.1958),逢山峡(1ex.,2.VII.1982),白川(1ex.,11.XI.1982),鳥原(1ex.,24.V.1953,etc.),伊川谷(3exs.,7.VI.1988,etc.)。相生市三濃山(4exs.,1.VI.1974)。宍粟郡音水(2exs.,13.VII.1958)。豊岡市京町[高橋,1975,1982]。

68. *Trachys inedita* E.Saunders,1873

マルガタチビタマムシ

体長,2.9-3.1mm。コウゾチビタマムシによく似ている種。円形で肩部の突出が弱く、頭楯の幅は長さの約1.5倍、上翅会合部の暗色部は顕著。エノキにつく。兵庫県下の分布はあまり知られていない。

産地。三原郡南淡町福良[辻,1973,久松,1973]。川西市笹部[仲田,1978,1982]。揖保郡新宮町福原(1ex.,10.V.1992,etc.)。宍粟郡赤西(1ex.,27.V.1979)。多紀郡篠山町[辻,1970]。

69. *Trachys mimuta salicis* (Lewis,1892)

ヤナギチビタマムシ

体長,2.5-3.8mm。頭楯の幅は長さの約1.3倍。上翅はときに青味を帯びる。ヤナギ類につく。

兵庫県下には広く分布していて普通に得られる。

産地。西宮市盤滝(7exs.,22.V.1987,etc.)。神戸市六甲山(1ex.,15.VII.1956),鳥原(1ex.,5.VI.1966,etc.),谷上(2exs.,29.IV.1958),藍那(1ex.,4.VI.1967),丹生山(1ex.,5.V.1966),八多町屏風(1ex.,12.V.1993)。三木市口吉川(1ex.,4.IX.1986)。多可郡三谷(2exs.,24.V.1975),鳥羽(2exs.,29.IV.1972,etc.)。神崎郡笠形山(1exs.,12.VI.1966,etc.),砥ノ峯(1exs.,15.VII.1977)。朝来郡生野(2exs.,8.VIII.1956)。揖保郡新宮町福原(1ex.,17.IX.1992)。宍粟郡音水(12exs.,10.V.1970,etc.)。多紀郡篠山町小金岳,篠山町[辻,1970],上籠坊[仲田,1982]。氷上郡[山本,1958]。出石郡床尾山[高橋,1982]。城崎郡日高町奈佐路(1ex.,25.X.1985,etc.)。養父郡氷の山(2exs.,25.VII.1955,etc.)[辻,1970,高橋,1982]。

70. *Trachys reitteri* Obenberger,1930

マメチビタマムシ

体長,2.4-3.0mm。ヌスビトハギチビタマムシに似ているが暗色。体はやや平圧され、複眼の内縁に沿って隆条がある。頭楯の幅と長さはほぼ等しい。ヤブマメ、タンキリマメ、ダイズ、クズなどにつく。

兵庫県下には広く分布しているようである。

産地。川辺郡猪名川町杉生新田[仲田,1979,1982]。西宮市船坂(1ex.,21.V.1987,etc.)。神戸市六甲山(1ex.,8.V.1955),鳥原(1ex.,24.V.1973),石井ダム(1ex.,18.X.1991),山の街(1ex.,17.V.1953),妙法寺(1ex.,11.XI.1978),谷上(1ex.,1.VI.1986,etc.),逢山峡(1ex.,17.V.1986,etc.)。多可郡鳥羽(1ex.,29.IV.1972)。揖保郡新宮町福原(1ex.,15.V.1992)。相生市三濃山(1ex.,7.V.1973,etc.)。赤穂市天和(1ex.,25.IX.1974)。宍粟郡音水(2exs.,13.V.1973,etc.)。多紀郡雨石山[Hayashi etc.,1995]。氷上郡柏原[山本,高橋,1961,1962]。

71. *Trachys robusta* E.Saunders,1873

サシゲチビタマムシ

体長,3.6-4.6mm。ダンダラチビタマムシに似ている。上翅の毛斑は金褐、銀白及び黒色の3色、前胸背板の側縁は直線的に狭まり、弧状を呈しない。スダジイにつくと。

県下での記録はあまり多くない。

産地。洲本市三熊山[久松,1974]。

神戸市鳥原(1ex.,24.V.1953,etc.),山の街(1ex.,13.VI.1954,etc.),丹生山(1ex.,5.V.1956,etc.)。相生市三濃山(1ex.,16.VI.1974)。宍粟郡音水(1ex.,21.V.1972,etc.)。豊岡市愛宕山[高橋,1975,1982]。

72. *Trachys saundersi* Lewis,1892

ソーナダースチビタマムシ

体長,3.3-4.5mm。頭楯の幅は長さの約1.8倍。頭胸部の毛は金色、銀白色を混じ上翅の毛は銀白色、ときに会合部に金色毛を混ぜる。ウツギにつく。

兵庫県下には広く普通に産する。

産地。三原郡諭鶴羽山[久松,1973]。川辺郡猪名川町上阿古谷[仲田,1978,1982]。神戸市六甲山(2exs.,8.V.1955,etc.),鳥原(1ex.,2.V.1954,etc.),逢山峡(1ex.,27.VI.1987),丹生山(1ex.,5.V.1956),谷上(2exs.,25.V.1958),北区八多町屏風(1ex.,10.VI.1993,etc.)。多可郡三谷(1ex.,26.VIII.1975),鳥羽(4exs.,29.IV.1972,etc.)。神崎郡砥ノ峯(1ex.,2.V.1977,etc.)。朝来郡生野(2exs.,8.VII.1956)。揖保郡新宮町福原(1ex.,10.VI.1992)。相生市三濃山(3exs.,7.V.1972,etc.)。宍粟郡福知溪谷(1ex.,16.VI.1975,M.Yuma leg.),原(6exs.,11.V.

1979), 音水 (5exs., 10.V.1970, etc.), 赤西 (2exs., 27.V.1979), 坂ノ谷 (2exs., 22.VII.1979), 水谷 (1ex., 17.VII.1981). 多紀郡篠山町 [辻, 1970]. 水上郡 [山本, 1958]. 城崎郡三川山 [高橋, 1975, 1982], 日高町奈佐路 (1ex., 19.VI.1986). 養父郡氷の山 [高橋, 1956, 1982, 辻, 1970, Y.Kurosawa, 1959]. 美方郡扇ノ山 [高橋, 1982].

73. *Trachys tokyoensis* Obenberger, 1940

ヌスピトハギチビタマムシ

体長 2.3–3.1mm. 真鍮光沢が強く、金褐色毛と銀白色毛を混じた毛斑がある。頭楯は狭い、毛斑はときに全体灰白色または黄灰色。日陰のヌスピトハギにつくといわれている。

兵庫県下の記録は大変少ない。

産地。宝塚市売布神社 [小田中, 1994]. 宍粟郡音水 (5exs., 31.V.1970, etc.).

74. *Trachys toringoi* Y.Kurosawa, 1951

ズミチビタマムシ

体長 3.5mm 内外。頭楯の幅は長さの約 1.35 倍。前胸背板の金色毛は粗で銀白色毛が多く、顔面のえぐれは強く、上翅肩部のくぼみも強い。クズノチビタマムシに似ている。ズミ、リング、クサボケ、マルメロ、ザイフリボクなどにつく。

兵庫県下に広く分布しているようである。

産地。川西市笹部 [仲田, 1982]. 神戸市鳥原 (1ex., 29.V.1977, etc.), 北区八多町屏風 (6exs., 6.V.1993, etc.). 多可郡三谷 (1ex., 26.VIII.1955), 鳥羽 (2exs., 2.VIII.1975, etc.). 神崎郡大河内町川上 (1ex., 7.V.1977, etc.). 相生市三濃山 (2exs., 7.V.1972, etc.). 宍粟郡音水 (1ex., 31.V.1970, etc.). 多紀郡篠山町 [辻, 1970]. 豊岡市愛宕山 [高橋, 1975, 1982].

75. *Trachys tsushimae* Obenberger, 1922

アカガネチビタマムシ

体長 3–3.5mm. 頭楯の幅は長さの約 1.3 倍、触角窩直上の小孔は深い。上翅の毛は淡褐色と白色。後方の 2 帯紋は会合線に沿い連絡。ウツギにつく。

兵庫県下に広く分布している。

産地。三原郡諭鶴羽山 [久松, 1974]. 川西市笹部 [仲田, 1978, 1982]. 宝塚市玉瀬 [伊藤, 1992]. 神戸市御影 [関, 1933], 鳥原 (2exs., 1.VI.1969), 山の街 (2exs., 17.V.1953, etc.), 丹生山 (1ex., 18.V.1958, etc.), 藍那 (1ex., 10.VI.1978, etc.), 下谷上 (1ex., 12.X.1979). 飾磨郡雪彦山 (3exs., 14.VII.1957). 多可郡鳥羽 (1ex., 1.VI.1975, etc.).

神崎郡大河内町川上 (1ex., 4.VI.1977). 相生市三濃山 (1ex., 7.V.1982). 宍粟郡音水 (2exs., 10.V.1970, etc.), 原 (6exs., 11.V.1979). 多紀郡雨石山 [Hayashi, etc., 1995]. 水上郡青垣町神楽 [山本, 高橋, 1961, 1962]. 豊岡市河谷 [高橋, 1975, 1982]. 養父郡氷の山 [辻, 1970].

76. *Trachys variolaris* E.Saunders, 1873

ダンダラチビタマムシ

体長 3.0–4.2mm. 淡黄、金褐、銀白および黒色の 4 色の毛からなる複雑な毛斑がある。頭楯の幅は長さの約 2 倍、前胸背板側縁は弱い弧状、ナラ類、クヌギ、カシワ、カシ類につく。

兵庫県下には広く分布し、普通に見られる。

産地。三原郡福良 [久松, 1993]. 川辺郡猪名川町木間生 [仲田, 1978]. 川西市笹部 [仲田, 1978, 1982]. 伊丹市 [河上, 1984]. 宝塚市売布神社 [小田中, 1984]. 西宮市船坂 (1ex., 21.V.1987, etc.). 神戸市六甲山 (1ex., 8.V.1955), 石楠花山麓 (2exs., 1.VI.1984), 山の街 (2exs., etc.), 藍那 (1ex., 10.VI.1978), 谷上 (1ex., 3.V.1957, etc.), 西鈴蘭台大山公園 (1ex., 23.VIII.1982, etc.), 須磨 (1ex., 9.VII.1982, Y.Hachitani leg.), 鳥原 (1ex., 5.V.1981, etc.), 石井ダム (1ex., 18.X.1991), 逢山峡 (1ex., 14.V.1985), 垂水学園研究 (1ex., 10.V.1985), 伊川谷 (1ex., 28.IX.1988, etc.), 太山寺 (2exs., 17.V.1979), 多井畑 (1ex., 26.VII.1990), 八多町屏風 (1ex., 6.V.1993, etc.), 藍那 (2exs., 28.IV.1993, etc.). 三木市口吉川笹原 (1ex., 26.IX.1986). 美婁郡吉川町奥山 (1ex., 5.VI.1986). 小野市山田 (1ex., 16.V.1987, etc.). 飾磨郡家島 [上田, 1981]. 龍野市神岡町 (1ex., 8.V.1988, etc.). 揖保郡新宮町福原 (1ex., 10.VI.1992). 相生市三濃山 (1ex., 7.V.1972). 佐用郡大撫山 (1ex., 2.V.1978). 宍粟郡音水 (1ex., 31.V.1970). 多紀郡西紀町 (1ex., 27.IV.1984, Y.Hachitani leg.), 雨石山 [Hayashi etc., 1995]. 水上郡 [山本, 1958].

77. *Trachys yanoi* Y.Kurosawa, 1959

ヤノナミガタチビタマムシ

体長 2.6–4.2mm. ナミガタチビタマムシに似ている。体色は唐金色が強く、赤銅色を帯びることなく毛は明るい褐色。頭楯の幅は長さの約 1.5 倍。ケヤキにつく。

兵庫県下の記録はわりと少ない。

産地。川西市笹部 [仲田, 1978, 1982]. 伊丹市 [河上, 1994]. 宍粟郡音水 (1ex., 13.V.1973). 城崎郡城崎町来日 [高橋, 1975, 1982]. 養父郡氷の山 [辻, 畑中, 1973, 高橋, 1982].

Genus *Habroloma* Thomson, 1864

ヒラタチビタマムシ属

78. *Habroloma elegantula* (E.Saunders, 1873)

ヒラタチビタマムシ

体長, 2.4–3.0mm. ヒラタチビタマムシ属 *Habroloma* はチビタマムシ属 *Trachys* に似ているが, 上翅の側縁に沿って明瞭な側隆線を走らせることで区別される。

本種は黒色で多少唐金色を帯び, 毛斑は銀白毛のみか, または銀白色毛と黄灰色を混ぜる。前胸背板の陥凹中に小孔があり, 前胸腹板突起は両側はほぼ平行で先端は多少角ばる。

ナワシロイチゴを主としたキイチゴ類につく。県下に広く分布している。

産地. 西宮市盤滝 (1ex., 29.V.1987, etc.). 神戸市六甲山 (1ex., 21.VIII.1958), 藍那 (1ex., 5.VII.1978), 芦谷溪谷 (1ex., 13.IX.1982), 烏原 (1ex., 8.V.1981, etc.), 神崎郡大河内町川上 (1ex., 7.V.1979). 相生市三濃山 (1ex., 7.V.1972, etc.). 揖保郡鶏籠山 (2exs., 27.V.1970). 宍粟郡原 (2exs., 11.V.1979), 音水 (1ex., 13.VII.1958, etc.), 赤西 (2exs., 21.V.1979). 多紀郡篠山町 [辻, 1970]. 氷上郡 [山本, 1958]. 美方郡浜坂 [高橋, 1975, 1980].

79. *Habroloma atronitidum* (Gebhardt, 1928)

ヒメヒラタチビタマムシ

ヒラタチビタマムシによく似ていて小型で後方に急に狭まり, 前胸背板は上翅より幅広くなり, 形が三角形に近い。キイチゴ類につくといわれているが, 県下では下記の記録のみ。

産地. 氷上郡山南町 (1ex., 5.VII.1990).

80. *Habroloma eximium* (Lewis, 1892)

ツマキヒラタチビタマムシ

体長, 2.8–3.0mm. 淡黄褐色毛と銀白色毛を混じた毛斑があり, 赤褐色部の毛は暗赤褐色, 前胸背板は小孔を欠くか不明瞭。ハイノキ類につくと。

県下での記録は次のものを知るだけである。

産地. 川辺郡猪名川町黒川新滝道 [斉藤, 1991].

81. *Habroloma griseonigra* (E.Saunders, 1873)

ハイイロヒラタチビタマムシ

体長, 2.3–3.0mm. 地色は黒色でやや唐金色を帯びる。毛斑は銀白色, 黒色部には暗色の毛がある。前胸部の毛には淡黄褐色の毛が混じる。クヌギ, カシ

類につくと。

兵庫県下に広くいそうに思われる。

産地. 川西市笹部 [仲田, 1978, 1982]. 西宮市盤滝 (1ex., 29.V.1987). 相生市三濃山 (1ex., 18.V.1974). 宍粟郡音水 (1ex., 4.V.1972, etc.).

82. *Habroloma lewisi* (E.Saunders, 1873)

ルイスヒラタチビタマムシ

体長, 2.5–3.2mm. 毛斑は淡金褐色毛と銀白毛とからなり, ほかに黒色毛がある。前胸背板は陥凹中の小孔を欠くか, またはごく不明瞭。Lewis の第1回旅行の採集品であるから神戸か長崎の採集品であろうとされている (黒沢, 1976)。ノイバラにつくと。

県下の記録はそれ程多くない。

産地. 飾磨郡家島 [上田, 1981]. 相生市三濃山 (1ex., 20.V.1973). 多紀郡篠山町篠山城跡 [辻, 1970]. 養父郡関宮 [奥谷, 1955, 高橋, 1981], 氷の山 [高橋, 1982].

83. *Habroloma yuasai* Y.Kurosawa, 1976

ナガヒラタチビタマムシ

体長, 2.8–3.2mm. 地色は唐金色を帯び, 金褐色毛も強い。前胸背板の陥凹中に小孔があり, 前胸腹板突起は後方にひろがり先端は丸みがある。ノグルミにつくと。

県下の記録は少ない。

産地. 神崎郡大河内町川上 (1ex., 2.VII.1977). 相生市三濃山 (1ex., 6.V.1973, etc.).

<参考文献>

本報文作製に当たって参考にした文献のみで, 兵庫県関係のものは初めに記したごとく筆者がまとめて発表している"兵庫県産甲虫類に関する文献目録" (1975, 1981, 1984, 1995) を参照頂きたい。

K.Akiyama & S.Ohmomo (1979) Notes on the Japanese Buprestidae (I) *Chrysobothris amurensis* Pic, new to the fauna of Japan (Coleoptera, Insecta)

Sci. Rept. Yokohama City Mus., (26): 69–71.

K.Akiyama & S.Ohmomo (1995) The Motschulsky's types of Japanese Buprestidae in the Zoological Museum of the Moscow Lomonov State University.

Jpn. J. syst. Ent., Matsuyama I: 175–180.

秋山黄洋・大桃定洋 (1997) コレクションシリズ・タマムシ Endles Coll. Series Vol.2: 1–59.

- 秋山黄洋・大桃定洋(1997) 日本産タマムシ科チェックリスト 月刊むし Suppl.I, p.1-67(Mushisha, Tokyo).
- 秋山黄洋・大桃定洋・関 章弘(1995) 世界のアカヘリミドリタマムシ 月刊むし(291):4-9.
- 中條道夫・黒沢良彦(1950) 四国のタマムシ類. 四国昆虫学会々報 1(1):1-16.
- 藤田 宏(1986) キンモンフタオタマムシのニュースを聞いて…… 月刊むし(189):22.
- 藤田 宏(1994) ヤノコモンタマムシ採集記—15年ぶりの岡山— 月刊むし(281):5-8.
- 平山修次郎(1933) 原色千種昆虫図譜 pl.66 (三省堂・東京)
- 平山修次郎(1937) 原色千種續昆虫図譜 pl.66, p.141-142. (三省堂・東京)
- 平山修次郎(1940) 原色昆虫図譜 pl.6, p.11-12, pl. 26, p.67-68, pl.27, p.70-73. (三省堂・東京)
- 伊賀正汎(1955) 原色日本昆虫図鑑 甲虫編 増補改訂版 pl.22-24, p.73-82. (保育社・大阪)
- 神谷一男・安立綱光(1933) 原色昆虫図譜 pl.22,23. (三省堂・東京)
- 加藤正世(1933) 分類原色日本昆虫図鑑 第九輯 鞘翅目 pl.28,29. (厚生閣・東京)
- 小林信之(1994) 日本産コモンタマムシ属について 月刊むし(281):9.
- 黒沢良彦(1950) 日本昆虫図鑑 改訂版 p.1111, f.3183-p.1122, f.3217. (北隆館・東京)
- Y.Kurosawa(1959) A Revision of the Leaf-mining Buprestid-beetles from Japan and the Loo-Choo Islands. Bull. Nat. Sci. Mus. Vol.4, No.2:202-268.
- Y.Kurosawa(1962) Buprestid-fauna of Eastern Asia (5) (Coleoptera). Bull. Nat. Sci. Mus. Vol.6, No.2:90-111.
- 黒沢良彦(1963) 原色昆虫大図鑑 第2巻(甲虫篇) pl.74-78, p.147-156. (北隆館・東京)
- 黒沢良彦(1964) 日本及び近隣吉丁蟲数種の学名に就いて(II) —新亜種の記載を含む 昆虫世界 50 (574):7-10.
- 黒沢良彦(1968-1976) 日本産タマムシ科解説(1-19). 甲虫ニュース, (1):1-2. (2):1-2. (4):1-3. (5):1-3. (7):1-2. (8):1-4. (9):1-5. (10):1-3. (11):1-4. (17-18):1-4. (21-22):1-2. (23-24):1-4. (25-26):1-2. (27-28):1-4. (31-32):1-4. (33):1-5. (34):1-5. (35):1-5. (36):1-7.
- Y.Kurosawa(1976) Notes on the Oriental Species of the Coleoptera Family Buprestidae (III). Bull. Nat. Sci. Mus. Ser. A (Zool.) 2(2):129-136.
- 黒沢良彦(1980) 日本産潜葉性タマムシ類3種の分布に及ぼした黒潮の影響. 国立科学博物館専報 (13):45,51.
- 黒沢良彦(1985) 原色日本甲虫図鑑(III) pl.1-7, p.2-37. (保育社・大阪)
- 三輪勇四郎・中條道夫(1935) 日本未記録のタマムシ. 昆虫界3(17):270-282, pl.105.
- 三輪勇四郎・中條道夫(1936) 日本産鞘翅目分類目録 Pars.1:吉丁蟲科33p. (台湾昆虫研究所)
- 三輪勇四郎・中條道夫(1940) 本邦産タマムシ科の新種及び稀種図説. 日本の甲虫3(2):53-74, pl. VII.
- Lewis, G. (1982) On the Buprestidae of Japan. Linn. Journ Zoology, XXIV:327-338.
- T.Nakane(1983) New or Little-known Coleoptera from Japan and its adjacent Regions, XXXVII. Rep. Fac. Sci. Kagoshima Univ. (Earth Sci. & Biol.), No.16:109-114.
- 那須 敏・古村俊治(1994) 岡山県で発見されたヤノコモンタマムシ. 月刊むし(281):2-4.
- 西田信夫(1996) 新種キンモンフタオタマムシの発見. 月刊むし(189):20-21.
- M.Toyama(1985) The Buprestid Beetles of the Subfamily Agrilinae from Japan (Coleoptera, Buprestidae) ERYTRA, Tokyo 13(1):19-47.
- 遠山雅夫(1986) 日本産フタオタマムシ属の1新種. 月刊むし(189):1-19, pl.1.
- M.Toyama(1988) New Agriline Buprestid Beetles (Coleoptera, Buprestidae) from Asia (II). Kontyu 56(4):752-765.
- 横山桐郎(1990) 日本の甲虫 pl.10, p.85-86.
- 横山桐郎(1931) 續日本の甲虫 pl.11, p.82-83. (西ヶ原刊行会・東京)
- (追記) 脱稿後, 松尾隆人氏により *Toxoscelus matobai* Toyama, 1955 ホソクリタマムシを坂ノ谷林道のブナ林で燈火採集にて得たる記録が発表になっている(兵庫県初記録種).
- 1ex., 宍粟郡波賀町氷ノ山坂ノ谷 1-2, VIII, 1936, 松尾採集 (月刊むしNo.334, p.15, 1998).
- (TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

池田市北部のキリガ類

木下 修一

はじめに

筆者は大阪府池田市北部のマンションに住んでいる。このマンションでは郵便物が地階の共同郵便受けに入れられるので、毎朝、マンションの廊下を歩き新聞をとりに行くのを日課としている。出勤前のほんのわずかな時間ではあるが、この機会を利用して蛍光灯に集まってきた昆虫を観察することを楽しみにしている。初めは写真をとることを中心にしていたが、1996年正月からは標本もつくり始めた。新聞を取りに行くのはほとんど毎日のことなので、観察日もいつのまにか1000日を越えてしまった。観察していたのは蛾が中心だが、カゲロウ、トビケラ、脈翅目なども採集している。一日わずか20分ほどのことであるが、4年間ほぼ毎日のように行った観察なので、種類数も増え、蛾では1000種ほどになっている。これらの結果は少しずつ報告していきたいと思っている(木下, 1997, 1998a)。

今回は、晩秋から早春にかけて見られるキリガと呼ばれるヤガ科の1群の蛾についてまとめてみた。キリガという名前は山本義丸氏によると、樹木の葉を食べる幼虫「キリムシ」が名前の元となっているようである。1958年頃相次いで発行された図鑑や目録などで和名の整理が行われたとき、分類上近縁のものがなるべく同一の語尾を持つように改称した結果生まれた名前で、ヨトウガ亜科の中の*Orthosia*属とその近縁属、セダカモクメ亜科の中の*Conistra*属とその近縁属、カラスヨトウ亜科の中の*Cosmia*属とその近縁属に「キリガ」という呼称を与えられたそうである。しかし、分類群で名前を統一したため、アヤモクメキリガのように草本を食べる種類にもキリガという名前がつけられることになってしまった。

キリガはこのような樹木と深く関わっているため環境の指標ともなり、蛾の仲間では比較的多く研究されている。しかし、発生時期が晩秋から早春に集中するため、採集を冬季にも行わなければならない、系統的な分布のデータは少ないと思われる。キリガの採集は通常糖蜜採集によって効率よく行われることが知られているが、今回の筆者の場合は、観察時間は短いものの灯火採集によるもので、糖蜜採集とは異なっている点と、冬季を含め数年間ほぼ毎日観察を続けている点で、その結果は興味あるものと考え

えられる。なお、池田市北部の環境についてはこれまで、チョウとトンボについて報告しており(木下, 1998b,c)、参考にしていただければ幸いである。

調査方法

1995年1月より1999年3月までの約4年間にわたり、マンションの9階、6階、3階、1階の廊下と地下駐車場をほぼ同じルートで、夏期には7時頃から、冬季には7時半ごろから約20分ほど歩き、蛍光灯近くの天井や壁、床に止まっている昆虫の観察、写真撮影を行った。1995年の1年間は主に写真撮影と個体数の計数を平行して行い、以後の4年間は、個体数の少ない種については採集して標本とし、その他の種については目視による個体数の記録を行った。その他、夜間や休日にマンションの周辺で採集できた種類も加えて記録している。採集した蛾は主に「日本産蛾類大図鑑」(講談社)により同定を行った。

調査結果

調査期間中に採集もしくは観察された種を採集目録にまとめてみた。採集目録中の和名の次の数字は「日本産蛾類大図鑑」のカタログナンバー、*印は写真による確認のみによるものである。図1には個体数の比較的に多かった27種について1995年秋-1996年春、1996年秋-1997年春、1997年秋-1998年春の3シーズンについて、半月単位で集計した個体数をグラフで表した。グラフからはキバラモクメキリガ、カシワキボシキリガ、ハンノキキリガなど成虫越冬をする種が、秋遅くと春早くから観察されている様子が良く分かる。一方、ヨトウガ亜科のキリガのように早春に発生する蛾では、発生する時期がいずれも約1カ月間と狭く、個体によって発生時期がかなり一定しているようすも良くわかる。また年による変動も見られ、1997-1998年にかけては暖冬を反映して発生が若干早くなっているようすも伺える。

近隣の能勢(夏秋・佐々木, 1985, 1990, 1994, 佐々木, 1998)、黒川(高島, 1998)、泉州(越野・宇根崎, 1992, 1993, 1995)、箕面(山本, 1996)、六甲山系(八木, 1998)でのキリガの採集結果との比較をまとめた結果を表1に示す。この表で「伏尾台」の欄の

数字は約4年間の観察個体数を表し、「箕面」の欄は「箕面山蛾類目録」の個体数の表記のうち、「極めて多い」、「普通」、「ほぼ普通」、「多くない」、「少ない」、その他稀な種をそれぞれA, B, C, D, E, Fと略記した。箕面との比較では、箕面及び他の地域で比較的多く見られているクロテンキリガ、チャマダキリガ、クロチャマダキリガ、テンスジキリガなどが池田市のマンションでは数が少なく、一方、ハンノキキリガ、カシワオビキリガなどは逆に多く見られているのが注目される。糖蜜採集など他の採集法を併用することによりさらにこの地域のキリガ相に対する知見も充実していくものと考えられる。今後の調査が期待される。

なお、蛾の同定に関して山本義丸・佐々木昇両氏に大変お世話になった。この場をお借りして感謝したい。

採集目録

Hadeninae ヨトウガ亜科

1. *Xylopolia bella* (Butler)
クロスジキリガ 3582
(18.IV.1996, 1♂; 20.IV.1996, 1♂; 16.IV.1997, 1♀;
3.IV.1998, 1♂)
2. *Egira saxea* (Leech)
ケンモンキリガ 3583
(18.IV.1996, 1♂; 2.V.1996, 1♀)
3. *Panolis japonica* Draudt
マツキリガ 3584
(29.III.1998, 1♀)
4. *Clavipalpus aurariae* (Oberthur)
キンイロキリガ 3587
(17.IV.1996, 1♂; 4.IV.1997, 1♀)
5. *Perigrapha hoenei* Pungeler
スギタニキリガ 3588
(8.III.1997, 1♂; 19.III.1998, 1♀)
6. *Orthosia evanida* (Butler)
カバキリガ 3591
(17.III.1996, 1♂; 13.III.1997, 1♂; 14.III.1998,
1♂)
7. *Orthosia lizetta* Butler
クロミミキリガ 3594
(26.III.1996, 1♂; 30.III.1996, 1♀; 8.IV.1996, 1♂;
14.IV.1996, 1♂; 10.III.1997, 1♂; 14.III.1997,

- 1♂; 23.III.1998, 1♂; 24.III.1998, 1♂1♀)
8. *Orthosia paromoea* (Hampson)
ブナキリガ 3595
(17.III.1996, 1♂; 12.III.1997, 1♂)
9. *Orthosia angustipennis* (Matsumura)
ホソバキリガ 3596
(2.III.1996, 1♂; 16.III.1996, 1♀; 17.III.1996, 1♂;
25.III.1996, 1♀; 10.III.1997, 1♀; 21.II.1998, 1♂)
10. *Orthosia fausta* Leech
クロテンキリガ 3597
(21.II.1998, 1♂)
11. *Orthosia limbata* (Butler)
シロヘリキリガ 3599
(23.III.1996, 1♂; 18.III.1997, 1♂)
12. *Orthosia munda* (Denis & Schiffermuller)
スモモキリガ 3601
(5.III.1996, 1♂; 10.III.1996, 1♂; 9.III.1997, 1♀;
2.II.1998, 1♂)
13. *Orthosia odiosa* (Butler)
チャイロキリガ 3602
(3.IV.1997, 1♂; 25.III.1998, 1♂; 10.IV.1998, 1♀)
14. *Orthosia gothica* (Linnaeus)
カシワキリガ 3607
(17.III.1996, 1♂; 27.III.1996, 1♂; 27.III.1997,
2♂♂; 21.III.1998, 1♂)
15. *Orthosia carnipennis* (Butler)
アカバキリガ 3608
(30.III.1996, 1♂; 8.IV.1997, 1♂)

Cucullinae セダカモクメ亜科

1. *Daseochaeta viridis* (Leech)
ケンモンミドリキリガ 3669
(2.XI.1997, 1♂)
2. *Dryobotodes intermissa* (Butler)
ナカオビキリガ 3671
(31.X.1996, 1♂; 18.XI.1996, 1♂; 13.XI.1997, 1♂;
; 17.XI.1997, 1♂; 3.XII.1997, 1♀; 9.XI.1998,
1♀; 12.XI.1998, 1♀; 22.XI.1998, 1♂1♀)
3. *Dryobotodes pryeri* (Leech)
ブライヤオビキリガ 3672
(20.XI.1998, 1♂; 24.XI.1997, 1♂)
4. *Dryobotodes angusta* Sugi
ホソバオビキリガ 3673
(6.XII.1998, 1♂)

5. *Xylena fumosa* (Butler)
アキモクキリ 3675
(15.XI.1996, 1♂; 16.II.1999, 1♂)
6. *Xylena formosa* (Butler)
キバモクキリ 3677
(6.XI.1996, 1♂; 29.IV.1997, 1♀)
7. *Lithophane usshata* Butler
ハノキリ 3679
(23.II.1996, 1♂; 16.XI.1996, 1♀; 30.XI.1996, 1♀
; 6.XII.1996, 1♀; 8.III.1997, 1♀; 11.XI.1997,
1♀)
8. *Lithophane pruinosa* (Butler)
カシロキホシキリ 3680
(17.III.1996, 1♂; 10.IV.1996, 1♀; 6.XII.1996, 1♀
; 20.I.1997, 1♂; 14.III.1997, 1♀; 26.III.1998,
1♀)
9. *Eupsilia tripunctata* Butler
ミツホシキリ 3690
(26.III.1998, 1♀)
10. *Eupsilia quadripuncta* (Leech)
ヨスジノコキリ 3693
(24.III.1996, 1♀; 25.III.1996, 1♀; 15.III.1997,
1♀)
11. *Rhynchaglaea scitula* (Butler)
チヤウヂキリ 3696
(27.III.1996, 1♂)
12. *Rhynchaglaea fuscipennis* Sugi
クロチヤウヂキリ 3697
(15.XI.1996, 1♂; 7.XII.1996, 1♀)
13. *Hemiglaea costalis* (Butler)
キウエキリ 3699
(28.XI.1996, 1♂; 7.XII.1996, 1♂; 21.XI.1997, 1♂)
14. *Agrochola evelina* (Butler)
アサヒキリ 3703
(14.II.1996, 1♂; 25.II.1997, 1♂)
15. *Conistra ardescens* (Butler)
カシロキリ 3705
(21.II.1996, 1♂; 22.II.1996, 1♂; 25.II.1997, 1♂; 2,
III.1997, 1♀; 8.III.1997, 1♀; 9.XII.1997, 1♀; 3,
XII.1998, 1♂)
16. *Conistra griseus* Draudt
ミヤウキリ 3706
(20.II.1996, 1♂; 22.III.1996, 1♂; 11.IV.1996, 1♀;
13.IV.1996, 1♀; 17.II.1997, 1♂; 28.III.1997, 1♂;
7.IV.1997, 1♀; 10.IV.1997, 1♀)

<参考文献>

17. *Conistra flecheri* Sugi
チヌシキリ 3707
(23.III.1996, 1♂)
18. *Conistra albipuncta* (Leech)
ホシオキリ 3708
(17.III.1996, 1♀; 12.XI.1996, 1♂; 23.XI.1996, 1♀;
26.II.1997, 1♂; 14.III.1997, 1♂; 6.IV.1997, 1♀)
19. *Conistra nawae* Matsumura
チウキリ 3709
(10.XII.1996, 1♂; 17.XII.1996, 1♀; 18.XII.1996,
1♀; 8.I.1997, 1♂; 17.XII.1998, 1♂; 6.I.1999,
20. *Jodia sericea* Butler
ミズシキリ 3716
(6.IV.1998, 1♀)
21. *Teloria acuminata* (Butler)
ウスキトガリキリ 3717
(7.XI.1995*, 28.XI.1995*)
22. *Teloria edentata* (Leech)
キトガリキリ 3718
(30.X.1996, 1♀; 1.XI.1996, 1♂; 9.XII.1996, 1♂)
23. *Teloria divergens* (Butler)
ノコトガリキリ 3719
(25.XI.1996, 1♀; 21.XI.1997, 1♂)
24. *Antivaleria viridimacula* (Graeser)
アノハタキリ 3720
(3.XI.1996, 1♀; 6.XI.1996, 1♂; 19.XI.1996, 1♂;
26.XI.1996, 1♂; 31.X.1998, 1♀; 31.X.1998, 1♀;
15.XII.1998, 1♀)
25. *Nyctelia hoenei* (Boursin)
ヘネアノハタキリ 3723
(10.XII.1996, 1♂; 28.XII.1997, 1♂; 8.I.1998, 1♀)
26. *Miniothipe melanodonata* (Hampson)
オノハタキリ 3725
(11.XI.1996, 1♂; 10.XI.1996, 1♀)
27. *Meganephria funesta* Leech
ホノハタキリ 3727
(24.XII.1997, 1♀; 18.XII.1998, 1♂; 4.I.1999,
1♂)
28. *Meganephria extensa* (Butler)
ミノハタキリ 3729
(17.XII.1996, 1♂; 23.XII.1997, 1♀)

1) 木下修一(1996)、池田市のマシヨにきたマシヨ

表1 池田市北部のキリガ類 - 他の地域との比較 -

番号	種名	伏 尾 台	箕 面	能 勢	黒 川	泉 州	六 甲	番号	種名	伏 尾 台	箕 面	能 勢	黒 川	泉 州	六 甲
1	クロスジキリガ	9	D	○				29	ヨスジキリガ						○
2	ゲンモンキリガ	2	D	○				30	ウスミモンキリガ		F	○			○
3	マツキリガ	1	E	○				31	チャマダキリガ	1	C	○			○
4	キンイロキリガ	5	E		○		○	32	クロチャマダキリガ	3	C	○			○
5	スギタニキリガ	5	D	○			○	33	ヤグシマキリガ					○	○
6	カバキリガ	16	C	○			○	34	キマエキリガ	13	C	○			○
7	カギモンキリガ		D					35	スギタニモンキリガ		D	○			○
8	クロミキリガ	17	C	○				36	ヤマノモンキリガ		E	○			○
9	フナキリガ	28	D	○			○	37	スミレモンキリガ		F	○		○	
10	ホソバキリガ	30	C	○			○	38	フサヒゲオビキリガ	3		○			○
11	クロデシキリガ	1	C	○	○			39	カシワオビキリガ	12	F	○			○
12	シロヘリキリガ	19	D	○			○	40	ミヤマオビキリガ	10	E	○			○
13	スモモキリガ	63	C	○			○	41	デンスジキリガ	3	B	○			○
14	チャイロキリガ	6	D	○				42	ホシオビキリガ	14	B	○	○		○
15	カシウキリガ	25	D	○			○	43	ナウキリガ	7	D	○			○
16	アガバキリガ	6	C	○			○	44	ゴマダラキリガ		D	○			○
17	ゲンモンミドリキリガ	24	B	○	○			45	イチゴキリガ			○			○
18	ナガオビキリガ	10	C	○			○	46	ミスジキリガ	1		○			○
19	ホソバオビキリガ	1				○	○	47	ウスキトガリキリガ	2	D	○			○
20	フライヤオビキリガ	2	F	○				48	キトガリキリガ	16	B	○	○		○
21	ハネナガモクメキリガ			○			○	49	ノコメトガリキリガ	19	C	○	○		○
22	アヤモクメキリガ	4	F			○		50	アオバハガタヨトウ	18	C	○	○		○
23	キバラモクメキリガ	97	D	○			○	51	ヒマラヤハガタヨトウ		D	○			○
24	ハンノキキリガ	49	E	○			○	52	ヘネテオハガタヨトウ	3	D	○			○
25	カシウキボシキリガ	27	C	○				53	オオハガタヨトウ	3	D	○			○
26	サヌキキリガ		E			○	○	54	ホソバハガタヨトウ	6	D	○			○
27	ミツボシキリガ	1	E	○			○	55	ミドリハガタヨトウ	3	E				○
28	ヨスジノコメキリガ	6	D	○			○		種 類 数	43	48	46			38

ユシヤク類、Nature Study 42: 7-8.

- 木下修一(1998a)、池田市のマンションにきた蛾、
蛾類通信 199: 403-406.
- 木下修一(1998b)、池田市北部のチョウ-1997
~1998年の記録-、きべりはむし 26: 14-17.
- 木下修一(1998c)、池田市北部のトンボ-1997~
1998年の記録-、きべりはむし 26: 18-22.
- 夏秋 優・佐々木昇(1985)、能勢地方の蛾(IV)
-キリガ(その1)-、Crude 26: 1-12.
- 夏秋 優・佐々木昇(1990)、能勢地方の蛾(V)
-スギタニモンキリガとその近縁種について-、
Crude 34: 1-5.
- 夏秋 優・佐々木昇(1994)、能勢地方の蛾(VI)
-キリガ(その3)-、Crude 39: 16-25.
- 佐々木昇(1998)、蛾相からみた深山高原の自然、

北摂の昆虫(2) (大阪昆虫同好会) p.17-24.

- 山本義丸(1996)、箕面山蛾類目録、
誘蛾会Supplement 5.
- 八木 剛(1998)、六甲山系布引公園および鉢伏
山のキリガ類相、きべりはむし 26: 67-73.
- 高島 昭(1998)、黒川の蛾、きべりはむし 26:
23-38.
- 越野誠一郎・宇根崎博信(1992)、大阪府南部
の注目すべき蛾類 I、蛾類通信 166: 278-281.
- 越野誠一郎・宇根崎博信(1993)、大阪府南部
の注目すべき蛾類 II、蛾類通信 174: 422-425.
- 越野誠一郎・宇根崎博信(1995)、大阪府南部
の注目すべき蛾類 III、蛾類通信 184: 131-135.
(KINOSHITA SHUICHI
池田市伏尾台5-1-5-901)

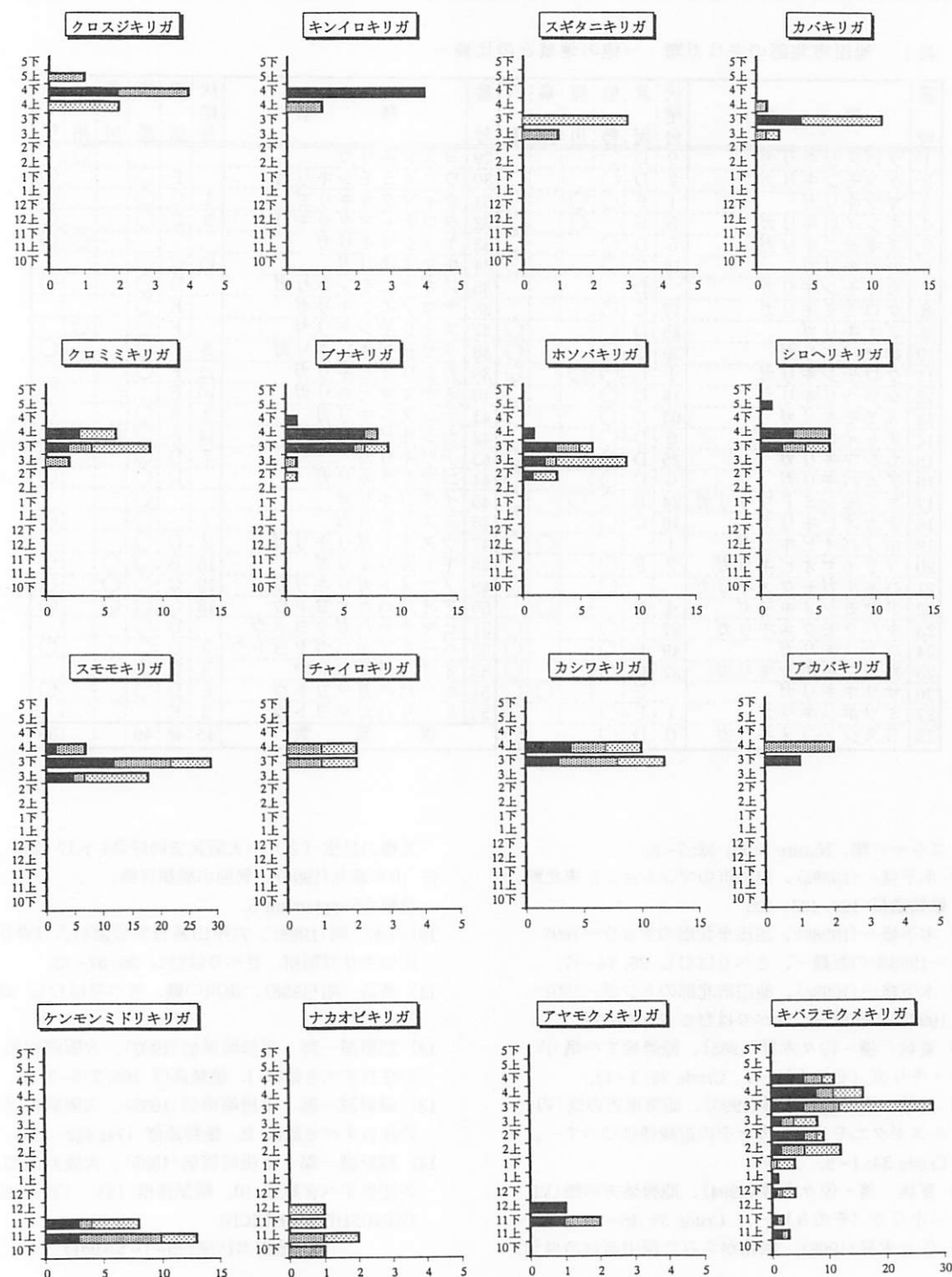


図 1-1 池田市北部におけるキリガ類27種の時期別観察個体数の推移(その1)

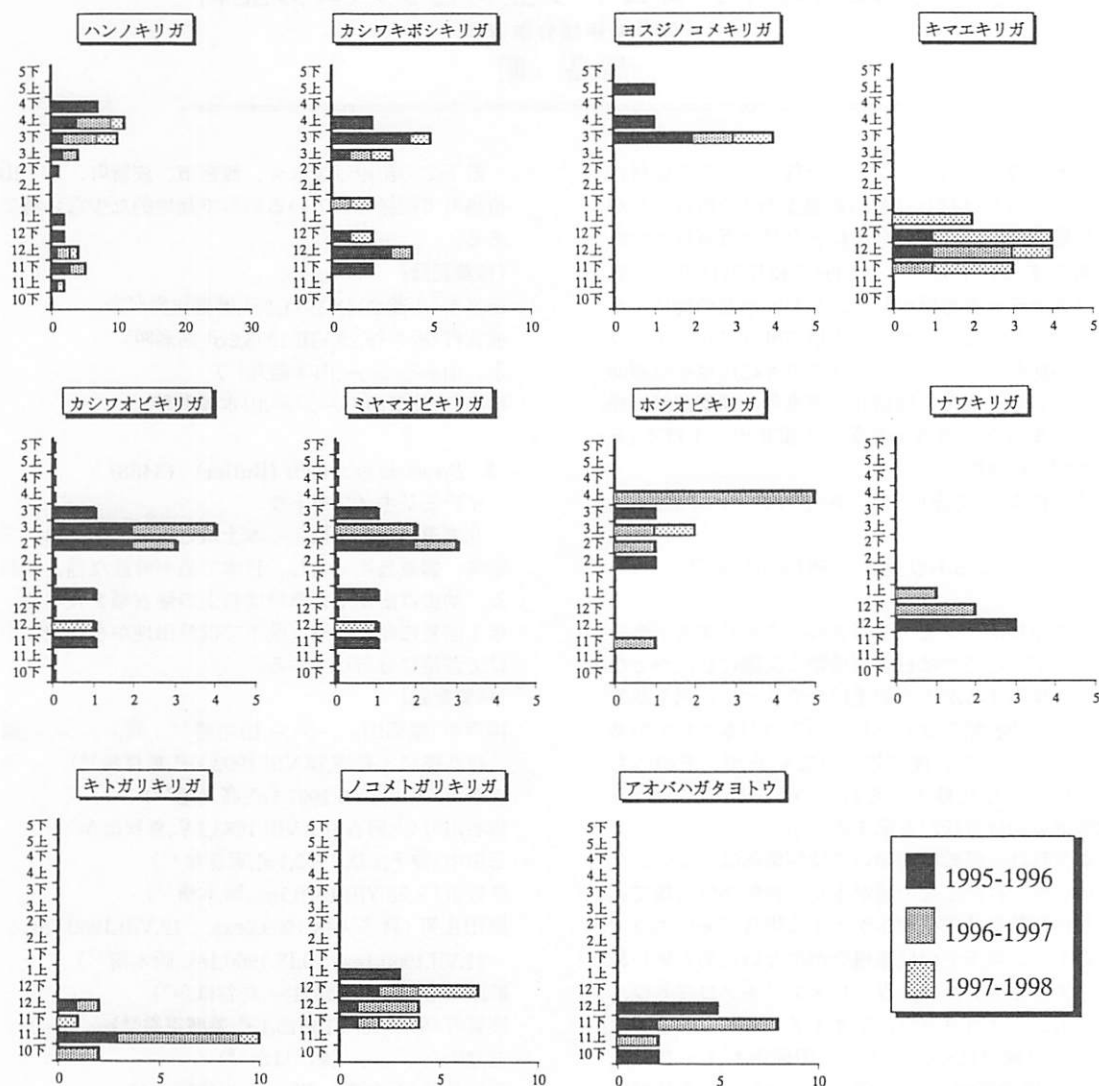


図 1-2 池田市北部におけるキリガ類27種の時期別観察個体数の推移(その2)

兵庫県のキノコヨトウ亜科とタバコガ亜科

兵庫県産蛾類分布資料・11

高島 昭

兵庫県のウスベリケンモン亜科とケンモン亜科についてきべりはむし(26)2(高島,1998)で報告したが、同じ要領でキノコヨトウ亜科とタバコガ亜科について報告する。本報には、1998年12月31日までに収集できたデータを掲載した。なお、学名の後にカタログ番号を示した。参考・引用文献はアルファベット順の配列とした。また、次の方々には様々な御助言をはじめ、文献の御紹介、御恵与、採集記録の提供等を賜った。御芳名を記して御礼申し上げる(五十音順、敬称略)。

相坂耕作 近藤伸一 柴田 剛 山本義丸

キノコヨトウ亜科 (BRYOPHILINAE)

この亜科はケンモンヤガ亜科に含める学者が多いというが、ここでは日本産蛾類大図鑑にしたがった。幼虫は裸出するが1次刺毛はやや長大で、刺毛基盤は発達し地衣類を食餌としているのが本亜科の特徴である。日本で17種が知られているが、そのうち兵庫県からは12種が知られている。県内における種別地域別分布状況を第1表に示した。

本亜科は一部の種を除いては採集例は少ない。全般に小型で目立たない種が多く、食餌が地衣類であるため湿潤な林床をすみかとする場合が多いようで、そのような場所での採集機会が少ないためと思われる。スズキキノコヨトウ、ヒメスズキキノコヨトウ、ヘリボシキノコヨトウ、アオキノコヨトウの4種は、最近の記録がなく、県下での記録地も1~2カ所(それも県境部が多い)と限られており、分布状況はよくわかっていない。とくにスズキキノコヨトウ、ヒメスズキキノコヨトウは全国的にも局地的な産出をする稀種である。今後綿密な調査が必要である。

1. *Byromia melachlora* (Staudinger) (3457)

マルモンキノコヨトウ 注目種

北海道から九州までの本土域と屋久島に分布する。おそらく年1化と思われる。地衣類を食うと推定されているが、幼生期は判っていない。なお、♂の交尾器はケンモンヤガの一部の属と類似しており、分類上の位置も検討を要する。

県下での記録は少なく、西宮市、波賀町、氷ノ山、市島町で記録されているのみで局地的な少ない種である。

[採集記録]

西宮市(生瀬,20.IX.1971,1♂,遊磨正秀³⁵)

波賀町(坂の谷,28.VIII.1998,2♂,高島昭)

氷ノ山(-.-.-,山本義丸³⁰)市島町(妙高山,-.-.-,山本義丸³³)2. *Byromia granitalis* (Butler) (3458)

イチモジキノコヨトウ

北海道から九州に至る本土域と対馬、屋久島、三宅島、御蔵島に分布し、日本で最も普通の種とされる。幼虫は樹皮上あるいは石上の地衣類を食べる。年1回夏に発生する。県下では低山地から山地にかけて各地に分布している。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,-.-.-,田中蕃²⁴:同,-.-.-,岡村八郎¹⁴:有馬,16.VIII.1992,1♂,東良雄¹⁹)川西市(黒川,5.VII.1997,1♂,高島昭²²)猪名川町(上阿古谷,2.VIII.1983,1♀,夏秋ほか⁷)三田市(香下,1.IX.1992,1♂,東正雄¹⁹)高砂市(-,28.VIII.1976,1ex.,岡本清¹⁶)黒田庄町(喜多,4.IX.1959,2exs.; 12.VIII.1960,1ex.; 21.VII.1960,1ex.; 9.IX.1960,1ex.,岡本清¹⁷)姫路市(太市,-.-.1991,-,丸谷ほか⁹)波賀町(引原,13.VII.1973,1♂,遊磨正秀³⁶)三室山(-.-.-,遠山ほか¹⁸)三日月町(下本郷,-.IX.-,川副昭人⁴)氷ノ山(-.-.-,遠山ほか¹⁸)関宮町(氷ノ山,-.-.1955,-,山本義丸²⁸)水上郡(-.-.-,山本義丸²⁹)津名町(大町畑,8.VII.1972,1♂,登日邦明²⁶)洲本市(中津川,3.VII.1972,1♀,登日邦明²⁶)南淡町(阿万上町,2.IX.1961,-; 31.VIII.1972,-,藤平明¹:同,10.VII.1972,1♀,登日邦明²⁶)3. *Cryphia mitsuhashi* (Marumo) (3462)

キノコヨトウ

前翅の地色は暗緑色で中央部は褐色を帯びるが、

個体変異がある。本州から九州、対馬、屋久島に普通に産する。神津島、三宅島、御蔵島からも記録がある。幼虫は地衣類を食べ夏に出現する。

県下では、東南部地域と丹波、淡路で普通であるが、西播と但馬からは今のところ報告がない。おそらく広く分布するものと思われる。

【採集記録】

西宮市(生瀬, 6.IX.1970, 1♀; 11.IX.1971, 1♀, 遊磨正秀³⁵⁾)

宝塚市(西谷西部, 3.IX.1988, 1♀, 東正雄¹⁹⁾)

川西市(平野, 14.VII.1992, 1♂; 10.IX.1992, 1♀; 11.IX.

1992, 1♂, 東良雄¹⁹⁾; 黒川, 10.VIII.1996, 3♂; 2.VIII.

1997, 1♀, 高島昭²²⁾; 同, 7.IX.1996, 2♂, 近藤伸一²²⁾

猪名川町(上阿古谷, 20.VIII.1982, 1♂; 1.IX.1982, 3♂, 夏秋ほか⁹⁾)

西脇市(—, 18.IX.1960, 1ex., 岡本清)

黒田庄町(喜多, 26.VII.1960, 1ex.; 13.IX.1960, 1ex.; 26.VII.1961, 1ex.; 30.VII.1961, 1ex., 岡本清¹⁷⁾)

水上郡(—, —, —, —, 山本義丸²⁹⁾)

北淡町(常陸寺山, 5.VIII.1972, 2♂, 登日邦明²⁶⁾)

津名町(大町畑, 27.VII.1972, 1♀; 31.VII.1972, 1♂, 登日邦明²⁶⁾)

洲本市(中津川, 11.VIII.1972, 1♂, 登日邦明²⁶⁾)

南淡町(阿万上町, 30.VIII.1961, —, 藤平明¹⁾; 同, 9.IX.1986, —, 藤平明²⁾)

4. *Cryphia griseola* (Nagano) (3465)

ハイイロキノコヨトウ 注目種

前翅地色は内横線の内側で白色に近く、外横線の外側で青灰色を帯びる。北海道から九州に至る本土域の内陸部と対馬に産し、8~9月に出現する。幼生期は判っていない。県下では局地的な分布を示し、氷ノ山で得られた記録が唯一のものであったが、筆者は最近波賀町でも採集している。西播から但馬にかけての山地には少ないながら広く分布していると思われる。

【採集記録】

波賀町(坂の谷, 28.VIII.1998, 1♂1♀, 高島昭)

氷ノ山(—, —, —, —, 山本義丸³¹⁾)

5. *Cryphia suzukiella* (Matsumura) (3466)

スズキキノコヨトウ 注目種

前翅は暗い灰青色を呈し、中央部は暗色を帯び、基部には同色の斑紋を表す。亜外縁部は灰白色を帯び、後縁角近くの黒色斑は周囲がぼやけている。全

国的にも稀な種で、大図鑑によるとこれまで京都府、高知・徳島県境の四足峠、対馬と兵庫県関宮町で得られているにすぎない。

【採集記録】

関宮町(轟, 31.VII.1979, 1ex., 木下総一郎⁵⁾)

6. *Cryphia minutissima* (Draudt) (3467)

ヒメスジキノコヨトウ 注目種

小型で前翅は灰緑色。内横線は直線上に斜走し、後縁部で小さく外方に角をなし、外横線に強く接近する。翅底に発する黒色条は内横線に達し、さらに外縁まで直線上に連なって見える。分布は局地的で新潟県新津市、弥彦山、長野県、比良山、春日山、香川県象頭山、英彦山などで散発的に得られているだけである。最近大阪府からも複数の報告例がある。幼生期は不明である。県下では、大阪府境の能勢妙見山で記録があるほかは報告がないが、北摂地域では新産地が見つかる可能性がある。

【採集記録】

妙見山(26.VIII.1983, 2♂; 5.VIII.1984, 1♂; 18.VIII.1984, 5♂, 夏秋ほか⁹⁾)

7. *Cryphia sugitanii* Boursin (3468)

マダラキノコヨトウ 注目種

前翅斑紋にかなりの変異が見られるが、亜中脈線に沿う黒色条が出現しないこと、外横線の外側に不規則な白色影を表すこと、前翅基方の緑色部の後縁部が暗色鱗片で満たされていることなどで他種と区別できる。北海道から九州まで分布するが、西南日本では局地的となる。日本海側に産地が多いという。県下ではこれまで西播北部の波賀町の山地帯から氷ノ山にかけてのみ記録されているが、但馬山地では広く分布すると思われる。

【採集記録】

波賀町(音水, 24.VIII.1978, 1♂1♀, 木下総一郎⁵⁾; 坂の谷, 28.VIII.1998, 1♂, 高島昭)

氷ノ山(—, —, —, —, 遠山ほか¹⁸⁾)

関宮町(氷ノ山, 22.VIII.1954, 1♂; 16.VIII.1955, 1♂, 山本義丸³²⁾)

8. *Stenoloba oculata* Draudt (3469)

ヘリボシキノコヨトウ 注目種

この属はかつてコヤガ亜科の種として扱われていたため、ヘリボシコヤガという別名がある。胸背の鱗片は橙黄色。前翅はほぼ一様に灰色を呈し、翅頂

部に小さな斑紋、後縁角にほぼ円形の黄白色紋を有する。北海道南端部を北限とし、本州、九州に産するが少ない。幼生期は未知である。県下からは柏原町から採集されているだけである。

【採集記録】

柏原町(柏原,9.VI.1956,1♂,山本義丸³³⁾)

9. *Stenoloba clara* (Leech) (3470)

ウスアオキノコヨトウ

シロスジウンモンコヤガという別名がある。頭部に円錐形の突出部を持ち、胸背には粗い鱗片塊を有し隆起する。東北地方以南九州までと対馬に産する。幼生期は不明。県下では北摂地域、黒田庄町、姫路市、大屋町から記録されており、里山に分布の中心がありそうである。

【採集記録】

川西市(黒川,2.VIII.1997,1♀,高島昭²²⁾)

妙見山(5.VIII.1984,6♂4♀,夏秋ほか⁶⁾)

三田市(香下,28.VII.1989,1♀,東正雄¹⁹⁾)

黒田庄町(喜多,18.VII.1960,3exs.; 6.VII.1960,1ex.;

10.VII.1961,1ex.; 12.VII.1961,1ex.; 20.VII.1961,1ex.,岡本清¹⁷⁾)

姫路市(太市,-.-.1991,-,丸谷ほか⁹⁾)

大屋町(田淵山,5.VIII.1975,1♂,遊磨正秀³⁷⁾)

10. *Stenoloba assimilis* (Warren) (3471)

アオキノコヨトウ 注目種

北海道から九州にかけて産する。年1回夏に出現するが幼生期は不明である。県下では少ない種で摩耶山と氷ノ山で記録されているだけである。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,-.-.-,田中蕃²⁴⁾)

氷ノ山(-.-.-,山本義丸³¹⁾)

11. *Stenoloba manleyi* (Leech) (3472)

ウンモンキノコヨトウ

別名ウンモンコヤガ。この属の中では暖地性で関東以西九州までと対馬、屋久島、御蔵島に分布する。幼虫は地衣類を食べる。県下からは低山地を中心に散発的に得られている。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,-.-.-,田中蕃²⁴⁾)

猪名川町(上阿古谷,20.VIII.1982,5♂,夏秋ほか⁶⁾)

西脇市(-,15.IX.1960,1ex.,猪股涼一)

三日月町(下本郷,-.IX.-,川副昭人⁴⁾)

大屋町(田淵山,5.VIII.1975,1♂,遊磨正秀³⁷⁾)

柏原町(柏原,-.-.-,山本義丸³³⁾)

北淡町(常陸寺山,7.VII.1972,1♂,登日邦明²⁶⁾)

南淡町(阿万上町,22.IX.1973,-,藤平明¹⁾:同,30.VIII.1986,-,藤平明²⁾)

12. *Stenoloba jankowskii* (Oberthür) (3473)

シロスジキノコヨトウ

別名シロスジコヤガ。この属のなかでは最も大型である。北海道から九州に至る本土域と対馬、屋久島に分布する。幼生期は不明である。県下からは比較的普通に見られ、発生地では普通種である。

【採集記録】

宝塚市(南口2丁目,11.VII.1983,-,新家勝¹¹⁾:宝梅,28.VI.1991,1♂,東正雄¹⁹⁾:西谷西部,2.VII.1987,1♂; 9.VII.1988,1♂; 13.VII.1988,1♂; 16.VI.1990,1♂1♀,東正雄¹⁹⁾)

川西市(平野,17.VI.1992,1♂; 26.VI.1992,1♂; 14.VII.1992,1♂; 8.VII.1992,1♀,東良雄¹⁹⁾:黒川,13.VII.1996,1♂; 5.VII.1997,1♀,高島昭²²⁾)

猪名川町(上阿古谷,17.VI.1983,1♂,夏秋ほか⁷⁾)

黒田庄町(喜多,14.VI.1960,1ex.; 16.VI.1961,1ex.; 16.VII.1961,1ex.,岡本清¹⁷⁾)

波賀町(引原,13.VII.1974,1♂,遊磨正秀³⁶⁾:同,9.VII.1988,1♀; 25.VII.1988,1♀,高島昭²⁰⁾:坂の谷,24.VII.1998,1♂,高島昭)

相生市(瓜生,7.VII.1989,1♀,高島昭²¹⁾)

三日月町(下本郷,-.VI.-,-.VIII.1983,-,川副昭人⁴⁾)

氷ノ山(-.-.-,遠山ほか¹⁸⁾)

氷上郡(-.-.-,山本義丸²⁹⁾)

北淡町(常陸寺山,7.VII.1972,1♂,登日邦明²⁶⁾)

<除外した記録>

クロスジキノコヨトウという和名で下記の記録があるが、どの種をさすのか不明なので本文から省略した。

三日月町下本郷 -.VII.1983 - 川副昭人⁴⁾

<今後記録される可能性のある種>

1. *Cryphia mediofusca* Sugi (3463)

スジキノコヨトウ

前翅地色は淡緑色で、中央部は暗褐色を呈する。内・外横線を結ぶ黒色条は太く明瞭である。北海道

から中部地方の内陸部、福井県にまで分布し、日本海側に産地が多いという。兵庫県では記録がないが、但馬北部地域では見つかるかもしれない。

2. *Cryphia maritima* Sugi (3464)

ミナミキノコヨトウ

スジキノコヨトウより緑色部は濃く、基部に顕著な黒色斑を有する。日本特産で、徳島県南岸部、屋久島、奄美大島から記録されている。淡路では要注意である。

タバコガ亜科 (HELIOTHINAE)

この亜科はヤガ科の中にあって比較的小さな亜科で、約20属を含み、北半球内陸草原に優勢で、北アメリカでは種類も多い。日本を含む温帯東北アジアの湿潤地帯では種類数は少ない。日本には9種が分布し、日本特産種はない。兵庫県ではうち7種が確認されているが、種々の作物の害虫であるタバコガ、オオタバコガを除いてはいずれも局地的で個体数も少ない。おそらく本来の生息に適した環境である大規模な草原が少ないためと思われる、生息しているも局地的かつ散発的に発生しているものと思われる。ニセタバコガ、アカヘリヤガは全国的な稀種である。

なお、県内における種別地域別分布状況を第1表に示した。

1. *Helocoverpa assulta* (Guenée) (3475)

タバコガ

体翅とも黄褐色を帯び、とくに後翅地色は黄色、翅脈は暗色を帯びない点で次種と区別できる。アフリカからアジアにかけての亜熱帯地域に広域分布する。日本では東北地方以南に採集記録があるが、移動性があるとされ、定着可能な北限は定かでない。各種栽培作物に被害し、とくにナス科作物に対して嗜好性が強い。県内での報告されている採集記録は少ないが、これ以外にナス科作物の栽培地域では生息していると思われる。

[採集記録]

神戸市(摩耶山, -.-.-, 田中蕃²⁴: 同, -.-.-, 岡村八郎¹⁴: 有馬, 26.VI.1960, -, 森 博¹⁵)
宝塚市(南口2丁目, 21.IX.1981, -, 新家勝¹²)
三日月町(下本郷, -, IX.1984, -, 川副昭人⁴)
関宮町(氷ノ山, -, -.1955, -, 山本義丸²⁸)

柏原町(柏原, -.-.-, 山本義丸³³)

市島町(妙高山, -.-.-, 山本義丸³³)

2. *Helocoverpa armigera* (Hübner) (3474)

オオタバコガ

前翅の色調は灰黄色から黄褐色まで変化が大きい。後翅の基半部は淡い灰白色ないし灰黄色。翅脈は暗色に染められ、垂外縁線は鋸歯状にならない。本州南西部以南に生息しているが北限は定かでない。成虫には移動性があり北海道でも採集されている。著名な農作物の害虫で食性は広い。県下の報告例は少ないが、トマトやカーネーションなど施設園芸地帯では普通に見られ、重要害虫となっている。

[採集記録]

神戸市(摩耶山, 22.X.1967, 1♀, 岡村八郎¹⁴)
宝塚市(南口2丁目, 13.IX.1984, -, 新家勝¹²)
川西市(平野, 29.VII.1992, 1♀, 東良雄¹⁹)
猪名川町(上阿古谷, 20.VIII.1982, 1♂, 夏秋ほか⁶)
黒田庄町(喜多, 12.VIII.1960, 1ex., 岡本清¹⁷)
波賀町(引原, 20.VIII.1988, 1♂, 高島昭²⁰)
南淡町(阿万上町, 15.VIII.1987, -, 藤平明²)

3. *Heliothis maritima* (Graslin) (3477)

ツメクサガ 注目種

ユーラシア種で、ヨーロッパでは本種と近似の種 *H. viriplaca* (Hufnagel) がいるが日本では本種のみが分布している。北海道から九州までの本土域に分布する。各種の草本の花や実を好んで食べる。県下では宝塚市と猪名川町で記録されているのみで、他の地域からは報告がない。元来、草原性の蛾なので、生息しているも散発的な発生と思われる。

[採集記録]

宝塚市(南口2丁目, 4.VII.1983, -, 新家勝¹¹: 武庫川町, 21.IV.1989, -, 新家勝¹³)
猪名川町(上阿古谷, 25.VIII.1981, 1♂, 夏秋ほか⁶)

4. *Helicoverpa servens* (Butler) (3478)

ニセタバコガ 注目種

局地的な産出をする種で、北海道、秋田、新潟、東京、群馬、長野、兵庫、岡山、香川などで記録されているが、個体数は少ない。県下ではこれまで神戸市、宝塚市、生野町、関宮町で記録がある。年1回初秋頃に出現するとされているが、宝塚市の記録は6月である。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,5.VIII.1967,1♂,岡村八郎¹⁴⁾
宝塚市(西谷西部,18.VI.1988,1♀,東正雄¹⁹⁾
生野町(段ヶ峰,6.VIII.1953,1♂,山本義丸³⁴⁾
関宮町(轟,24.VIII.1979,2♀,木下総一郎⁵⁾

5. *Pyrria umbra* (Hufnagel) (3479)

キタバコガ 注目種

前翅は黄褐色、外半部は紫褐色を帯びる。北海道から九州にかけての本土域と対馬に産するが個体数は少ない。夏〜初秋に出現し年1回の発生である。幼虫はタバコの害虫であるが、県内ではタバコの栽培が減少し、本種も幻の蛾になりつつある。これまで県下で得られたのは、氷ノ山と扇ノ山の2例のみである。大阪府箕面でも記録はあるが、近年は見られないという。

【採集記録】

温泉町(扇ノ山,11.VIII.1984,1♂,谷田昌也²⁵⁾
関宮町(氷ノ山,-.-.1954,-,山本義丸²⁷⁾

6. *Pyrria bifasciata* (Staudinger) (3480)

ウスオビヤガ 注目種

前翅はやや暗い灰黄色、後翅地色も灰黄色で、暗色部の形状は前種に似るが、黄脈紋が大きく翅脈は暗色を帯びる。北海道と本州に産し、7〜9月に出現する。幼虫は樹木性で、オニグルミとキリが食樹として知られている。県下では局地的で採集例も少なく、引原ダムと氷ノ山、日高町、柏原町で得られているだけであるが、播但山地には広く分布している可能性がある。

【採集記録】

波賀町(引原,29.VI.1974,1♂,遊磨正秀³⁶⁾:同,22.IX.1988,1♂,高島昭²⁰⁾
日高町(神鍋,19.VII.1976,1♀,山本義丸³⁴⁾
氷ノ山(-.-.-,遠山ほか¹⁸⁾
柏原町(柏原,-.-.-,山本義丸³²⁾

7. *Adisura atkinsoni* Moore (3482)

アカヘリヤガ 注目種

前翅は淡い灰褐色、ややピンク色を帯び、とくに前縁部は濃いピンクを呈する。暗色点列からなる外横線をもつ。局地的な分布を示し、これまで神奈川県、兵庫県、香川県、高知県、福岡県、大分県などで採集されている。年1回8〜9月に出現し、アオイ科の植物を食べることが知られている。県下での分布も局地的で、神戸市、宝塚市、黒田庄町、生野

町で記録されているほか、能勢妙見山からも報告がある。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,16.VIII.1963,1♀,田中蕃²³⁾
宝塚市(西谷西部,20.VIII.1988,1♂,東正雄¹⁹⁾
妙見山(18.VIII.1984,1♀,夏秋ほか⁸⁾
黒田庄町(喜多,24.VIII.1962,1ex.,岡本清¹⁷⁾
生野町(桧原,4.VIII.1961,1ex.,岡本清)

<今後記録される可能性のある種>

1. *Schinia scutosa* (Denis & Schiffermüller)

(3476) ヨモギガ

北半球の温帯に広く分布する種で、日本における産出はすべて移動に関連する現象という。北海道では時に大発生することが知られ、秋田、岩手、山形、群馬、栃木、長野、広島各県で記録がある。飼育した結果、年2化することが確認されている。また、ミブヨモギが食草として確認された。県下での採集例はないが、採集される可能性はある。

<参考・引用文献>

- 1) 藤平 明(1974) 南淡の蛾(II). *Parnassius* (12), p.5-13.
- 2) 藤平 明(1987) 南淡の蛾(自刊).
- 3) 井上 寛ほか(1982) 日本産蛾類大図鑑 Vol.1:p.1-968, Vol.2:p.1-556, pls.1-392. 講談社・東京
- 4) 川副昭人(1987) 佐用郡三日月町の蛾覚え書 てんとうむし(10), p.1-10.
- 5) 木下総一郎(1980) 近畿地方の蛾類数種の記録. 蛾類通信106, p.93.
- 6) 夏秋 優・佐々木 昇(1982) 能勢地方の蛾(I) 上 阿古谷・夏の蛾. *Crude* (23), p.1-37.
- 7) 夏秋 優・佐々木 昇(1983) 能勢地方の蛾(II) 上 阿古谷・夏の蛾(続報). *Crude* (24), p.1-12.
- 8) 夏秋 優・佐々木 昇(1984) 能勢地方の蛾(III) 妙見山・夏の蛾(1). *Crude* (25), p.15-22.
- 9) 日本野鳥の会(1992) 姫路市自然観察の森 林内基礎調査報告書.4-6昆虫類, p.119-151.
- 10) 新家 勝(1982) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その1). きべりはむし10(2), p.10-16.
- 11) 新家 勝(1984) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その3). きべりはむし12(2), p.53-55.
- 12) 新家 勝(1985) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾

- (統報その4). きべりはむし13(2), p.36-40.
- 13) 新家 勝(1993) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾 (統報10). きべりはむし21(2), p.53-64.
- 14) 岡村八郎(1987) 神戸市摩耶山の蛾類採集目録. てんとうむし(10), p.37-45.
- 15) 岡村八郎・森 博(1987) 有馬の蛾より. てんとうむし(10), p.66-67.
- 16) 岡本 清(1997) 高砂の蛾. てんとうむし(11), p.40-45.
- 17) 岡本 清(1998) 黒田庄町で採集した蛾(1). てんとうむし(12), p.30-38.
- 18) 奥谷禎一編(1974) 中国山脈東端の昆虫相. 東中国山地自然環境調査報告p.173-191.
- 19) 宝塚市教育委員会(1993) 宝塚の昆虫Ⅴ 蛾類(Ⅲ).
- 20) 高島 昭(1995) 波賀町引原ダム周辺における蛾相第1報. きべりはむし23(1), p.6-16.
- 21) 高島 昭(1996) 相生市三濃山の蛾(1). きべりはむし24(1), p.27-39.
- 22) 高島 昭(1998) 黒川の蛾. きべりはむし26(1), p.23-38.
- 23) 田中 蕃(1966) 神戸市摩耶山に産する若干の蛾類. 蛾類通信45, p.442-444.
- 24) 田中 蕃(1967) 神戸市摩耶山に産する大蛾類. 佳香蝶19(71), 89-104.
- 25) 谷田昌也(1986) 扇ノ山の蛾類分布資料(1).

- IRATSUME(10), p.30-37.
- 26) 登日邦明(1974) 淡路島産蛾類分布資料(Ⅱ). 蛾類通信76, p.261-266.
- 27) 山本義丸(1955) 氷ノ山の蛾について(第一報). 兵庫生物3(1/2), p.3-6.
- 28) 山本義丸(1956) 氷ノ山の蛾について(第二報). 兵庫生物3(3), p.121-123.
- 29) 山本義丸(1958) 兵庫県氷上郡昆虫目録. p.12-50.
- 30) 山本義丸(1958) 氷ノ山の蛾について(第三報). 兵庫生物3(4), p.237-239.
- 31) 山本義丸(1959) 氷ノ山の蛾類について(補遺). 兵庫生物3(5), p.383-384.
- 32) 山本義丸(1989) 氷ノ山の蛾類について(後報). 兵庫生物9(5), p.295-297.
- 33) 山本義丸(1996) 兵庫県氷上郡地方の蛾類(1). きべりはむし24(2), p.1-13.
- 34) 山本義丸(1997) 兵庫県で採集した蛾の記録. きべりはむし25(2), p.54-57.
- 35) 遊磨正秀(1973) 六甲山地域の蛾類Ⅰ. きべりはむし2(1), p.1-9.
- 36) 遊磨正秀(1973) 引原ダム(宍粟郡波賀町)のヤガ類 (Ⅰ). きべりはむし2(1), p.16-19.
- 37) 遊磨正秀(1981) 養父郡大屋町田淵山の蛾類について(Ⅰ). きべりはむし9(1), p.3-6.

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

第1表 キノコトウ亜科、タバコガ亜科各種の兵庫県下における地域別分布状況

	神戸	阪神北摂	中東播南部	中東播北部	西播南部	西播北部	南但	北但	丹波	淡路北部	淡路南部	記録地数	特記事項
キノコトウ亜科													
1. マルモンキノコトウ		○				○	○		○			4	注目種 局地的
2. イチモンジキノコトウ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	16	
3. キノコトウ		○		○					○	○	○	12	
4. ハイイロキノコトウ						○	○					2	注目種
5. スズキキノコトウ							○					1	注目種 全国的稀種
6. ヒメスジキノコトウ		○										1	注目種 局地的
7. マダラキノコトウ						○	○					3	注目種 局地的
8. ヘリボシキノコトウ									○			1	注目種
9. ウスアオキノコトウ		○	○	○			○					6	少ない
10. アオキノコトウ	○						○					2	注目種
11. ウンモンキノコトウ	○	○		○	○	○	○		○	○	○	8	
12. シロスジキノコトウ		○		○	○	○	○		○	○		14	
計	3	7	2	5	3	5	9	0	6	4	3		
タバコガ亜科													
1. タバコガ	○	○			○		○		○			7	
2. オオタバコガ	○	○		○		○					○	7	
3. ツメクサガ		○										3	注目種
4. ニセタバコガ	○	○					○					4	注目種 局地的
5. キタバコガ							○	○				2	注目種
6. ウスオビヤガ		○		○		○	○	○				4	注目種
7. アカヘリヤガ	○	○		○		○						5	注目種
計	4	5	0	2	1	2	5	2	2	0	1		

兵庫県のカレハガ上科とカイコガ上科

兵庫県産蛾類分布資料・12

高島 昭

兵庫県の蛾のうち、比較的データがよく集積され、同定もしっかりしていると思われるカレハガ上科、カイコガ上科の各種について、分布状況をまとめてみる。掲載した記録は1998年12月31日現在で入手できた資料に基づいた。

記載要領等は前報「兵庫県のウスベリケンモン亜科とケンモン亜科」(高島,1998,きべりはむし(26)2,p.44-58.)に準じるが、学名の後にカタログ番号を付した。また、参考・引用文献は著者のアルファベット順とした。

なお、次の方々には様々な御助言をはじめ、文献の御紹介、御恵与、採集記録の提供等を賜った。御芳名を記して御礼申し上げる(五十音順、敬称略)。

相坂耕作 近藤伸一 柴田 剛 山本義丸

カレハガ科 <LASIOCAMPIDAE>

カレハガ科の蛾は、枯葉に似た色彩の種が多くこの名がある。大型から中型種が多く、すべて夜行性である。日本では20種が記録されているが、その大部分は冷温帯に分布の中心を持ち、旧北区に広く分布する広域分布種も多い。兵庫県下では14種がこれまでに記録されており、マツカレハ、リングカレハ、タケカレハ、オビカレハなど、果樹や庭園樹、街路樹の害虫として著名なものもいるが、一般にあまり目立たず話題にのぼることは少ない。採集例が少ない種も多いが、春や晩秋に1回だけ発生という種が多いこともその一因であろう。分布上注目すべき種もいくつかあり、とくにウスマダラカレハは国内でも数例の採集例しかなく、幻の蛾である。また、冷温帯性のヒメカレハ、ウスズミカレハ、ヤマダカレハは採集例が少なく、局地的な分布となっており注目種である(第1表)。ヨシカレハ、ギンモンカレハも採集例は少ない。また、スカシカレハ、ミヤケカレハなどは発見が期待される。

1. *Gastropacha populifolia* (Esper) (2962)

ホシカレハ

北海道から九州にかけて分布し、ハコヤナギ属を

食樹とするユーラシア種。県下での記録は案外少なく、尼崎市、宝塚市、姫路市、波賀町、南淡町の5市町で記録されているだけである。初夏と秋に採集されており、年2回発生しているものと思われる。

[採集記録]

尼崎市(-,5.VI.1945,-;25.VII.1949,-,新家勝¹⁹⁾)

宝塚市(南口2丁目,20.IX.1979,-,新家勝¹⁸⁾;武庫川町,24.IX.1989,-,新家勝²⁰⁾;武田尾,23.VI.1990,1♀,東正雄³⁰⁾)

姫路市(飾磨区入船町,12.IX.1969,1♀,相坂耕作)

波賀町(引原,1.X.1988,1♀,高島昭³²⁾)

南淡町(阿万上町,26.V.1987,-,藤平明⁹⁾)

2. *Gastropacha orientalis* Sheljuzhko (2964)

カレハガ

本種から九州、対馬、屋久島に分布する。幼虫はウメ、モモ、サクラ、アンズ、リンゴ、ナシ、スモモ、ヤナギなど多くの植物につくことが確認されている。年2回の発生で夏の個体は比較的小型。全国的に普通種で県下でも南部を中心に普通に見られるが、中東播南部及び但馬地域からは報告がない。おそらく広く分布するものと思われる。

[採集記録]

神戸市(有馬,13.IX.1947,1♂,東正雄³⁰⁾)

宝塚市(南口2丁目,30.IX.1978,-,新家勝¹⁸⁾)

黒田庄町(喜多,1.VII.1960,1ex.,岡本清)

三室山(-,-,-,-,遠山ほか²⁵⁾)

三日月町(下本郷,-,IX,-,-,川副昭人⁹⁾)

水上郡(-,-,-,-,-,山本義丸³³⁾)

北淡町(常陸寺山,7.VII.1972,1♂,登日邦明⁴⁵⁾)

洲本市(中津川,15.VIII.1972,1♂,登日邦明⁴⁵⁾)

南淡町(阿万上町,11.X.1958,-,藤平明⁹⁾)

3. *Phyllodesma japonica* (Leech) (2966)

ヒメカレハ 注目種

北海道と本州に分布する。冷温帯性の種で、北海道など北日本では個体数も多いようであるが、西南暖地では稀な種となる。年1回春の出現で幼虫は発見されていないが、ヨーロッパの近縁種の食性からおそらくカバノキ科、ヤナギ科などを食べているの

ではないかと思われる。

県下の記録は、筆者が県西部の上郡町の山中で発見した1例のみである。岡山県(中・北部)、鳥取県で少ないながら記録されているので、西播から但馬にかけての山地を探せば他に産地が見つかると思う。

【採集記録】

上郡町(行頭,27.IV.1995,1♂,高島昭³⁵)

4. *Bhima idiota* (Leech) (2968)

ウスマダラカレハ 注目種

冷温帯系の種でシベリア南東部、中国東北部、朝鮮に分布する。日本では岡山県苫田郡奥津町、広島県戸河内町滝山峡、鹿児島県霧島山、兵庫県氷ノ山の4カ所で♀の記録があるだけで、氷河期の遺存種かと思われる。海外ではスモ属やハコヤナギ属を食樹としているが、日本では確認されていない。

今後の発見が期待される。

【採集記録】

氷ノ山(坂の谷林道,3.VI.1978,1♀,河上友三²⁷)

5. *Euthrix potatoria* (Linnaeus) (2969)

ヨシカレハ

ヨーロッパからシベリア、朝鮮、サハリン、日本にかけて分布する広域分布種で、日本では北海道から九州にかけて分布する。関東以西では山地性となる。年1回の発生で、幼虫はヨシ、ササにつくという。県下での記録は少なく、段ヶ峰、氷ノ山、扇ノ山などの山地で記録されているが、豊岡市内でも見つかっており、丹念に探せば播但山地一帯から但馬地域にかけて他にも見つかるものと思う。

【採集記録】

波賀町(坂の谷,28.VIII.1998,1♂,高島昭)

豊岡市(正法寺,30.VIII.1997,1♂,柴田剛)

温泉町(扇ノ山,11.VIII.1984,2♂,川副昭人⁴¹)

生野町(段ヶ峰,6.VIII.1953,1♂,山本義丸⁵⁰)

氷ノ山(29.VII.1973,-,山根政之²⁸)

関宮町(氷ノ山,-,1954,-,山本義丸⁵¹)

6. *Euthrix albomaculata* (Bremer) (2970)

タケカレハ

前種と近縁であるが、分布は東アジアからシベリア南東部に限られる。国内では北海道から九州にかけて分布し、年2回の発生で各地に普通に見られる。幼虫はタケ、ササ、ススキ、ヨシなどイネ科につく。

県下でも各地に普通に見られる。未記録の地域に

も広く分布していると思われる。

【採集記録】

神戸市(六甲山,-,1933,-,堀江聡男⁴⁸:摩耶山,-,

-,-,-,田中蕃⁴⁰:同,-,-,-,-,岡村八郎²⁴)

尼崎市(-,10.VI.1946,-,新家勝¹⁹)

西宮市(船坂,6.VI.1987,1♀,東正雄³⁰)

宝塚市(西谷西部,25.VI.1977,1♂; 19.IX.1987,1♂; 17.VI.1989,1♂,東正雄³⁰: 武田尾,23.VI.1990,2♀,東正雄³⁰)

川西市(黒川,7.IX.1996,1♂,近藤伸一³⁷)

猪名川町(上阿古谷,25.VIII.1981,1♂; 1.IX.1982,1♂,夏秋ほか¹²)

黒田庄町(喜多,4.V.1959,1ex.,岡本清: 同,16.V.1960,1ex.,岡本清)

姫路市(広嶺山,-,1982,-,木村三郎¹⁰: 太市,-,-,1991,-,丸谷ほか²¹)

一宮町(福知溪谷,16.VI.1975,1♂,遊磨正秀⁵⁶)

波賀町(引原,5.IX.1987,1♂; 26.VIII.1988,1♀,高島昭³²)

上郡町(行頭,7.IX.1995,1♂,高島昭³⁵)

三日月町(下本郷,-,VI.-,-; -IX.-,-,川副昭人⁹)

豊岡市(正法寺,11.X.1997,1♂,柴田剛: 同,9.VII.1998,1♂,柴田剛)

朝来町(須留ヶ峰,9.VI.1975,1♂,遊磨正秀⁵⁶)

氷ノ山(-,-,-,-,遠山ほか²⁵)

氷上郡(-,-,-,-,-,山本義丸⁵³)

洲本市(鮎屋,13.VI.1969,-,坂口操²⁶: 先山,17.VI.

1951,1ex.,堀田久³: 三熊山,15.VI.1981,1♀,西岡公明²²)

三原町(八木養宜,13.V.1985,-; 14.V.1993,-,藤富正昭⁷)

南淡町(阿万,7.VI.1959,-,藤平明⁵: 同,14.VI.1969,-,坂口操²⁶: 阿万上町,5.V.1961,-,藤平明⁵: 同,6.V.1972,2♂,登日邦明⁴²: 同,14.VII.1972,1♂,登日邦明⁴³: 灘,5.V.1961,-,藤平明⁶)

7. *Somadasys brevivenis* (Butler) (2972)

ギンモンカレハ

北海道から九州、対馬、屋久島に分布するが分布の中心は冷温帯で、サハリンにも産する。年2回の発生で前翅の銀色の紋が特徴的である。幼虫はカエデ類を食べるという。

県下では、中・西播から但馬にかけての山地を中心に散発的に得られており局地的な分布となっている。しかし、竹野町では低山地での発生が確認され

ており但馬地域には広く分布している可能性がある。筆者の経験では発生地での個体数は少ないものではない。

【採集記録】

夢前町(雪彦山,22.IV.1962,1ex.,岡本清)

波賀町(引原,16.V.1988,1♂; 9.VII.1988,1♂1♀,高島昭³²: 坂の谷,27.V.1998,1♂,高島昭: 同,28.VIII.1998,1♂,高島昭)

竹野町(森本,30.VIII.1998,1♂,柴田剛)

大屋町(田淵山,5.VIII.1975,目,遊磨正秀⁵⁷)

関宮町(氷ノ山,-.VIII.1955,15♂,山本義丸⁵²)

8. *Odonestis pruni* (Linnaeus) (2974)

リンゴカレハ

ヨーロッパから中国、日本、台湾にまで分布する広域分布種である。国内では北海道から九州、対馬、屋久島で記録され、各地に普通。幼虫はクヌギ、リンゴ、ナシなどにつく。

県下でも各地に普通に見られる。年2回の発生と思われる。中東播南部、北但から記録がないが、広く分布していると思われる。

【採集記録】

神戸市(六甲山,-.-.1933,-,堀江聡男⁴⁸: 摩耶山,-.-.-,田中蕃⁴⁰: 同,-.-.-,岡村八郎²⁴)

宝塚市(西谷西部,25.VI.1977,1♂; 14.IX.1986,1♂,東正雄; 22.VIII.1987,1♂; 19.IX.1987,1♂,東正雄³⁰)

猪名川町(上阿古谷,25.VIII.1981,1♂; 20.VIII.1982,1♂; 1.IX.1982,1♂,夏秋ほか¹²)

三田市(香下,7.IX.1991,1♀,東正雄³⁰)

黒田庄町(喜多,12.VI.1961,1ex.,岡本清)

波賀町(引原,5.IX.1987,1♂1♀,高島昭³²: 坂の谷,3.VII.1998,1♂,高島昭)

相生市(瓜生,30.VI.1989,1♂,高島昭³³)

三日月町(下本郷,-.VI.1984,-; -.IX.-,川副昭人⁹)

大屋町(田淵山,5.VIII.1975,目,遊磨正秀⁵⁷)

関宮町(氷ノ山,-.-.1954,-,山本義丸⁵¹)

氷上郡(-.-.-,山本義丸⁵³)

北淡町(常陸寺山,7.VII.1972,1♀,登日邦明⁴⁵)

洲本市(鮎屋,13.VI.1969,-,坂口操²⁶: 中津川,3.VII.1972,2♂,登日邦明⁴⁵: 先山,17.VI.1951,1ex.,堀田久³)

南淡町(阿万上町,-.IX.1958,-,藤平明⁶: 同,11.VI.1961,-,藤平明⁵)

9. *Dendrolimus superans* (Butler) (2975)

マツカレハ

北海道から沖縄まで分布するが、奄美大島以南のものを別種とする説もある。伊豆御蔵島からも見つっている。マツ属につき各地に普通。県下でも各地にごく普通に見られる。年1回、夏の発生とされているが、発生時期が長いのか6月から10月まで記録がある。中東播北部は記録漏れと思われる。

【採集記録】

神戸市(大池,22.VIII.1938,1♀,高橋寿郎²⁹: 摩耶山,-.-.-,岡村八郎²⁴)

尼崎市(-.-.-,新家勝¹⁹)

宝塚市(南口2丁目,16.VI.1988,-,新家勝²⁰: 武庫川町,20.VII.1979,-,新家勝¹⁶: 同,14.X.1998,1♀,東正雄³⁰: 同,15.IX.1989,-,新家勝²⁰: 宝梅1,30.VI.1991,1♀,東正雄³⁰: 光明町,13.IX.1988,-,新家勝³⁰: 西谷西部,9.VII.1988,1♀; 27.VI.1989,1♂; 29.VI.1991,1♀,東正雄³⁰)

川西市(黒川,13.VII.1996,1♂,近藤伸一³⁷: 同,7.IX.1996,1♀; 7.VI.1997,1♂,高島昭³⁷)

猪名川町(上阿古谷,21.VII.1982,1♂,夏秋ほか¹²)

高砂市(-,10.VII.1964,1ex.; 6.IX.1970,1ex.,岡本清²³)

姫路市(広嶺山,6.VII.1996,1♂,高島昭³⁶: 太市,-.-.1991,-,丸谷ほか²¹)

波賀町(引原,25.VII.1988,1♂1♀,高島昭³²)

三室山(-.-.-,遠山ほか²⁵)

相生市(瓜生,26.VIII.1997,1♀,高島昭³⁸)

上郡町(行頭,12.VII.1995,1♂; 7.IX.1995,1♂,高島昭³⁵)

三日月町(下本郷,-.VII.1983,-; -.VI.1984,-; -.IX.1984,-,川副昭人⁹)

豊岡市(山本,10.VI.1973,-; 25.VII.1973,-,山根政之²⁸)

氷ノ山(-.-.-,山本義丸⁵⁴: 同,-.-.-,遠山ほか²⁵)

氷上郡(-.-.-,山本義丸⁵³)

北淡町(常陸寺山,31.VII.1967,-,登日邦明¹⁹: 同,5.VIII.1972,1♂,登日邦明⁴⁶)

津名町(大町畑,1.VII.1972,1♂; 31.VII.1972,1♀,登日邦明⁴⁵)

洲本市(鮎屋,29.VII.1969,-,坂口操²⁶: 中津川,2.VII.1972,1♀; 3.VII.1972,2♂,登日邦明⁴⁶)

三原町(八木養宜,27.V.1985,-; 31.V.1992,-,藤富正昭⁷)

南淡町(阿万上町,7.VI.1961,-,藤平明⁵:同,10.VII.1972,1♂,登日邦明⁴⁶:同,5.VI.1973,-,藤平明⁵)

10. *Dendrolimus superans* (Butler) (2976)

ツガカレハ

北海道から九州、対馬に分布する。変異が多く前種とよく似ている個体もあるが、より大型、前翅亜外縁部の暗色斑の位置がCuA₁とCuA₂の間で深く内側に侵入しているため、M₂とCuA₁の間で前種よりも強く突出して見えることで区別できる。年1回が基本であるが第2化が出ることもあるという。マツ類につく。県下の記録は前種に比べるとやや少なく局地的。平地から低山地に生息しているようである。

[採集記録]

宝塚市(武庫川町,7.IX.1981,-,新家勝¹⁷:西谷西部,28.VII.1987,1♂;5.IX.1987,1♀;19.IX.1987,2♂;18.VI.1988,1♂,東正雄³⁰)
三日月町(下本郷,-.IX.-,-,川副昭人⁹)
柏原町(柏原,-.-.-,-,山本義丸⁴⁹)
氷上町(香良,-.-.-,-,山本義丸⁴⁹)
市島町(妙高山,-.-.-,-,山本義丸⁴⁹)
洲本市(三熊山,12.VIII.1981,1♂,西岡公明²²)
南淡町(阿万上町,7.VI.1959,-,藤平明:同,3.VII.1984,-,藤平明⁶)

11. *Kunugia undans* (Walker) (2977)

クヌギカレハ

北海道から四国にかけてと対馬、沖縄、石垣島、西表島に分布する。沖縄のものはかつてイワサキカレハと呼ばれていたものである。コナラ属、クリ、南西諸島ではモククダバナ、ホルトノキなどを食べる。年1回、晩秋から初冬にかけて出現する。県下では以下の各地で得られているが、出現時期が遅いため、充分調査が行われていないものと思われる。なお、三田市、黒田庄町の採集例は8月で本種としては早く、確認が必要である。里山から低山地にかけてもっと普遍的に分布していると予想される。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,-.-.-,-,岡村八郎²⁴)
宝塚市(武田尾,25.X.1989,1♂,東正雄³⁰)
三田市(香下,22.VIII.1986,1♀,東正雄³⁰)
黒田庄町(喜多,7.VII.1960,1ex.,岡本清:同,8.VII.1960,1ex.,岡本清)
龍野市(北龍野町,4.XI.1967,1♂,相坂耕作)
波賀町(引原,21.X.1997,1♀,高島昭)

上郡町(船坂,23.X.1997,1♂,高島昭)

三日月町(下本郷,-.X.1984,-,川副昭人⁹)

和田山町(久世田,17.X.1988,1♂,近藤伸一)

氷上郡(-.-.-.-,山本義丸⁵³)

洲本市(厚浜,1.XI.1976,-,藤富正昭⁷)

三原町(八木養宜,29.X.1991;23.X.1992,-,藤富正昭⁷)

南淡町(阿万上町,9.XI.1958,-,藤平明⁵:同,6.X.1986,-,藤平明⁶)

12. *Kunugia yamadai* Nagano (2978)

ヤマダカレハ 注目種

関東以西の本州と四国、九州に分布し、国外では朝鮮半島で記録されている。クヌギ、コナラ、アベマキ、アラカシなどのブナ科を食樹としており、平地の雑木林を主たる生息地としている。年1回、秋遅く出現する。前種と同様幼虫の刺毛には毒性がある。県下では、三日月町と氷上郡で古い記録があるだけであったが、筆者は最近川西市で採集することができた。発生時期が遅いため、調査が不十分であると思われる。

国内の分布からみて生息環境への適応性が狭いと思われる上、平地の雑木林が開発によって姿を消しつつある現在、急速に産地や個体数が減少していると思われる。

[採集記録]

川西市(黒川,1.XI.1997,1♂1♀,高島昭³⁷)

三日月町(下本郷,-.X.1984,-,川副昭人⁹)

氷上郡(-.-.-.-,山本義丸⁵³)

13. *Poecilocampa tamanukii* Matsumura (2980)

ウスズミカレハ 注目種

いわゆるユーラシア種で、ヨーロッパから日本にかけて旧北区北部に広く分布する種で、日本では北海道から九州にかけて分布する。年1回晩秋から初冬に発生する。日本ではヤマナラシでの飼育が成功した例が知られているが、ヨーロッパではカシワ、カンバ、ハコヤナギなど多くの樹木につくという。

県下では神戸市と豊岡市で得られているだけで記録は少ない。発生時期が遅いためと思われ、調査をすれば各地で見つかると思われる。

[採集記録]

神戸市(名谷,15.XII.1963,6♂,松本健嗣¹²:藍那,14.

XII.1974,2♂1♀,松本健嗣¹¹)

豊岡市(山本,29.IX.1972,-,山根政之²⁸)

14. *Malacosoma neustria* (Linnaeus) (2981)

オビカレハ

北海道から九州、対馬、屋久島に生息し、全国的に普通。年1回の発生で、幼虫はウメ、サクラ、ヤナギ、バラ、モモ、リンゴなど多くの樹木につく。枝上に糸を張って集団で棲み、テンマクケムシと呼ばれる。幼虫は終齢になると分散する。このため、街路樹などが丸坊主にされることもあり、害虫として著名である。県下でも平地から低山地にかけて各地に普通である。

[採集記録]

神戸市(摩耶山, -.-.-, 田中蕃⁴⁰: 有馬, 29.V.1990, 1♀, 東正雄³⁰)

宝塚市(南口2丁目, 6.VI.1979, -, 新家勝¹⁶)

川西市(満願寺, 10.VI.1939, 2♂, 東正雄³⁰)

姫路市(太市, -.-.-, 1991, -, 丸谷ほか²¹)

上郡町(行頭, 23.VI.1995, 1♂1♀, 高島昭³⁵)

佐用町(佐用坂, 28.VI.1965, 1ex., 岡本清)

三日月町(下本郷, -.VII.1983, -; -.VI.1984, -, 川副昭人⁹)

氷ノ山(-.-.-.-, 遠山ほか²⁵)

氷上郡(-.-.-.-, 山本義丸⁵³)

北淡町(常陸寺山, 7.VII.1972, 1♀, 登日邦明⁴⁶)

洲本市(三熊山, 10.VI.1981, 2♂; 6.VI.1981, 1♀; 19.VIII.1981, 1♀; 20.VIII.1981, 1♀, 西岡公明²²)

三原町(八木菱宜, 29.V.1992, -; 14.VI.1992, -, 藤富正昭⁷)

南淡町(阿万上町, 7.VI.1959, -, 藤平明⁵: 灘, 25.VI.1971, -, 藤平明⁵)

<今後記録される可能性のある種>

1. *Gastropacha clathrata* Bryk (2963)

ワタナベカレハ

屋久島のほか秋田、高知、和歌山、熊本などで記録されている。最近では北海道、岩手、山形、山口などでの記録もある。偶産蛾とされているが土着している可能性も捨てきれない。いずれにせよ今後兵庫県でも記録される可能性がある。

2. *Amurilla subpurpurea* (Butler) (2973)

スカシカレハ

北海道から九州、サハリン、シベリア南東部に分布するで冷温帯性の種である。現在のところ県下からの記録はないが、分布域に入っており見つかる可

能性がある。

3. *Takanea miyakei* (Wileman) (2979)

ミヤケカレハ

北海道から九州にかけて分布し、関東から中部にかけての山地では個体数も多い。西南暖地では高地に限られ、局地的となるようで、紀伊半島、四国山地、九州山地での分布が知られている。県下からはこれまで記録がないが、氷ノ山を中心とする地域での発見が期待される。

オビガ科 <EUPTEROTIDAE>

オビガ科は小さな科で主に東洋区に分布し、一部はアフリカに産する。日本産は1属1種のみ産する。

1. *Apha aequalis* (Felder) (2982)

オビガ

北海道から九州にかけてと屋久島に分布し全国的に普通種である。春と夏の2回出現し、スイカズラ科のハコネウツギ、ニシキウツギ、スイカズラなどにつく。県下でも各地に普通である。

[採集記録]

神戸市(六甲山, -.-.-, 1933, -, 堀江聡男⁴⁸: 摩耶山, -.-.-, 田中蕃⁴⁰: 同, -.-.-, 岡村八郎²⁴: 大池,

22.VIII.1938, 1ex., 高橋寿郎²⁹: 谷上, 12.VIII.1931, 1♀, 東正雄³⁰: 岩岡町, 1.X.1989, 1♀, 近藤伸一)

宝塚市(西谷西部, 22.VIII.1987, 1♂; 17.IX.1988, 1♂, 東正雄³⁰: 武田尾, 6.VII.1991, 1♂, 東正雄³⁰)

川西市(黒川, 13.VII.1996, 1♂, 高島昭³⁷: 同, 8.IX.1996, 1♂, 近藤伸一³⁷)

猪名川町(上阿古谷, 25.VIII.1981, 1♂; 21.VII.1982, 2♂, 夏秋ほか¹²)

黒田庄町(喜多, 7.VII.1961, 1ex., 岡本清: 同, 13.IX.1962, 1ex., 岡本清)

姫路市(広嶺山, -.-.-, 1982, -, 木村三郎¹⁰)

夢前町(-.-.-, IX.1971, 1♀, 相坂耕作)

波賀町(引原, 25.VIII.1987, 2exs.; 10.IX.1987, 1ex., 高島昭³²: 坂の谷, 19.VIII.1998, 1♂, 高島昭)

相生市(瓜生, 7.VII.1989, 1♂, 高島昭³³: 同, 22.VIII.1997, 1♂, 高島昭: 同, 25.IX.1997, 1♂, 高島昭)

上郡町(船坂, 4.X.1997, 1♂, 高島昭: 行頭, 7.IX.1995, 1♂, 高島昭³⁵)

三日月町(下本郷, -.IX.-, -, 川副昭人⁹)

豊岡市(三坂, 9.VII.1998, 1♂, 柴田剛)

村岡町(潞川平,12.VIII.1989,1♂,近藤伸一)
 温泉町(扇ノ山,-,-,-,遠山ほか²⁵)
 和田山町(久世田,23.IX.1989,1♂,近藤伸一)
 関宮町(氷ノ山,-,-,1954,-,山本義丸⁵¹)
 氷上郡(-,-,-,-,山本義丸⁵³)
 北淡町(常陸寺山,7.VII.1972,1♂1♀,登日邦明⁴⁵)
 津名町(大町畑,11.VII.1972,1♂,登日邦明⁴⁵)
 南淡町(阿万上町,21.VI.1959,-,藤平明⁵: 同,10.VII.
 1972,2♂,登日邦明⁴⁵: 同,21.X.1985,-,藤平明⁵)

カイコガ科 <BOMBYCIDAE>

アジアに分布する小さな科で、ごく一部は東アジアの温帯から寒帯域にまで分布を広げる。中型から小型種が多い。触角は♂、♀とも櫛歯状。口吻はごく短いか退化している。日本産は飼育種であるカイコを含めて4属5種が分布する。

1. *Bombyx mori* (Linnaeus) (2983)

カイコ

形態的にはクワコとほとんど変わらない。おそらく、クワコが原種と思われる。

絹糸を取るため古来中国でクワによって飼育され、世界に広められた。累代飼育により飛翔力を失い、人の管理下でないと生命を維持することができない。したがって野外での採集記録はなく、文献上の記録は飼育個体である。

【採集記録】

氷上郡(-,-,-,-,山本義丸⁴⁹)

【飼育状況】

かつては、県内各地で養蚕が行われていたが、現在は廃れてしまいほとんど残っていない。平成10年2月現在、県内での養蚕農家はわずか7戸を数えるに過ぎない。

2. *Bombyx mandarina* (Moore) (2984)

クワコ

カイコの野生型とされ、容易に雑種をつくることができる。北海道から九州、屋久島、トカラ列島に分布し、クワやヤマグワを食べる。県下では低山地から山地にかけて広く分布しているが、中東播地域や北但、淡路からは記録されていない。

【採集記録】

神戸市(山田,6.VIII.1929,1♀,東正雄³⁰)

宝塚市(西谷西部,18.VII.1976,1♂,東正雄³⁰)

妙見山(5.VIII.1984,2♂,夏秋ほか¹⁴)

波賀町(引原,25.VII.1988,1♂; 5.VIII.1988,1ex.; 19.

X.1988,1♂,高島昭³²: 同,21.X.1997,1♂,高島昭:

坂の谷,10.VII.1998,1♂,高島昭)

三日月町(下本郷,-.VIII.1983,-,川副昭人⁹)

和田山町(久世田,17.VII.1989,1♂,近藤伸一)

大屋町(田淵山,5.VIII.1975,目,遊磨正秀⁵⁷)

氷ノ山(-,-,-,-,遠山ほか²⁵)

関宮町(氷ノ山,-.VIII.1955,-,山本義丸⁵³)

柏原町(柏原,-,-,-,-,山本義丸⁴⁹)

青垣町(神楽,-,-,-,-,山本義丸⁴⁹)

3. *Oberthueria falcigera* (Butler) (2985)

オオクワゴモドキ 注目種

北海道から九州にかけて分布し、西南日本では山地性となる。各種のカエデ類を食し、年2回出現する。県下では西播北部から但馬、丹波にかけて局地的に記録されているだけで山地性の少ない種である。

【採集記録】

波賀町(引原,7.VI.1988,1♂; 15.VI.1988,1♀,高島昭

³²: 坂の谷,12.VIII.1998,1♂,高島昭)

温泉町(扇ノ山,25.VIII.1984,1♂,谷田昌也⁴¹)

大屋町(田淵山,5.VIII.1975,1♂,遊磨正秀⁵⁷)

市島町(妙高山,8.VIII.1960,1♂,山本義丸⁴⁹)

4. *Prismosticta hyalinata* Butler (2987)

スカシサン 注目種

関東以西から四国、九州にかけての山地に生息するが少ない種である。もとはオビガ科に含まれ、スカシオビガと呼ばれていたが、幼虫が発見されてカイコガ科に編入された。♂は前翅第6室に大きな透明紋があり、これが和名の由来になっているものと思われる。サワフタギ、タンナサワフタギにつき、年1回の発生である。

県下ではわずかに六甲山東部と加美町、氷ノ山、青垣町の山地で散発的に記録があるだけで、局地的である。

【採集記録】

神戸市(東六甲,11.VI.1933,1♂; 23.VI.1968,1♂,東正雄³⁰)

加美町(千ヶ峰,19.VII.1961,1ex.,岡本清)

関宮町(氷ノ山,-.VIII.1955,1♂,山本義丸⁵³)

青垣町(粟鹿峯,25.VIII.1956,-,山本義丸⁵³)

＜今後記録される可能性のある種＞

-, 藤平明⁴⁾1. *Pseudandracra gracilis* (Butler) (2986)

カギバモドキ

関東以西から九州の山地に分布し、年2回の発生である。ツバキ科のヒメシャラが食樹として知られている。分布は局地的と思われ、現在のところ県下からは記録がない。

イボタガ科 <BRAHMAEIDAE>

旧熱帯地方を分布の中心とする小さな科で、大型で翅の幅が広い種が多い。日本には1属1種、イボタガのみが分布する。

1. *Brahmophthalma japonica* Butler (2988)

イボタガ

年1回春の発生で、北海道から屋久島にかけて分布する。イボタノキ、モクセイ、トネリコ、ネズミモチ、ヒイラギなどモクセイ科を食樹としている。県下では、阪神間と西播、丹波、淡路の各地で記録されており、典型的な里山の蛾である。中東播北部及び西播北部、但馬地域からは記録がない。

[採集記録]

神戸市(新神戸, 24.IV.1976, -, -²⁾ : 有馬温泉, 5.V.1949, 1♂, 東正雄²⁾

宝塚市(宝梅 1, 6.IV.1981, 1♀, 東正雄³⁾ : 西谷西部, 11.III.1977, 1♂⁴⁾ ; 14.IV.1990, 1♂, 東正雄 : 同, 6.IV.1992, 1♂, 福中孝治³⁾

姫路市(広嶺山, -, -, 1982, -, 木村三郎¹⁾ : 同, 31.III.1982, 1♂, 相坂耕作 : 同, 5.IV.1982, 1♂, 相坂耕作 : 同, 8.IV.1982, 2♂, 相坂耕作 : 太市, -, -, 1991, -, 丸谷ほか²⁾

相生市(瓜生, 18.IV.1995, 1♀, 高島昭³⁾ : 中野, 4.IV.1997, -, 目, 高島昭)

三日月町(下本郷, -, IV. -, -, 川副昭人⁹⁾)

柏原町(柏原, -, -, -, 山本義丸⁴⁾)

市島町(-, -, -, -, 山本義丸⁴⁾)

津名町(大町畑, 5.IV.1972, 1♂, 登日邦明⁴⁾)

洲本市(鮎屋, 8.IV.1969, -, : 9.IV.1969, -, : 2.IV.1970, -, : 3.IV.1970, -, 坂口操²⁾ : 中津川, 7.IV.1972, 1♂, 登日邦明⁴⁾ : 厚浜, 3.IV.1974, -, 藤富正昭⁷⁾)

三原町(八木養宜, 2.IV.1983, -, : 16.IV.1984, -, 藤富正昭⁷⁾)

南淡町(北阿万, 19.III.1966, -, 藤平明⁴⁾ : 灘, 8.IV.1971,

ヤマユガ科 <SATURNIIDAE>

大型種が多く、ヨナグニサンは翅の面積では世界最大の蛾である。ほとんど世界中に分布するが、熱帯地方に多い。樹木や果樹の重要害虫とされる種がある。繭は堅固で大きなものが多い。日本には12種生息し、そのうち、兵庫県には9種が記録されている(第1表)。普通種が多いが、クロウスタビガは産地が局限され、個体数も少なく注目種である。

1. *Samia cynthia* (Drury) (2990)

シンジュサン

インド、マレーから中国、シベリア南東部、日本にかけて広く分布し、北アメリカやヨーロッパでは糸をとる目的で飼育されている。また、インドの飼育種エリサン、ヒマサンは本種の一品種で、絹糸虫として移入されたこともある。

日本では各地に分布し、西南暖地では年2回の発生である。和名はシンジュを食べるヤマユという意味であるが、実際は多食性である。

県内では平地から低山地にかけて分布しているが、中東播北部、西播北部、但馬地域からは報告されていない。各地に広く分布していると思われる。

[採集記録]

神戸市(摩耶山, -, -, -, 田中蕃⁴⁾ : 同, -, -, -,

岡村八郎²⁾ : 大池, 22.VIII.1938, 1ex., 高橋寿郎²⁾)

宝塚市(武庫川町, 12.V.1982, -, 新家勝¹⁾ : 西谷西部, 21.VI.1981, 1♀, 東正雄³⁾ : 大原野, 15.V.1988, 1♂, 東正雄³⁾ : 武田尾, 3.IX.1991, 1♂, 東正雄³⁾)

猪名川町(上阿古谷, 12.VIII.1982, 1♂, 夏秋ほか¹⁾)

姫路市(広嶺山, -, -, 1982, -, 木村三郎¹⁾ : 宇佐崎, 1.VIII.1985, 1♂, 沢田 : 太市, -, -, 1991, -, 丸谷ほか²⁾)

上郡町(尾長谷, 30.VI.1995, 1♂, 高島昭)

三日月町(下本郷, -, VI.1985, -, 川副昭人⁹⁾)

柏原町(柏原, -, -, -, 山本義丸⁴⁾)

市島町(妙高山, -, -, -, 山本義丸⁴⁾)

津名町(志筑, 30.VIII.1973, -, 藤富正昭⁷⁾)

洲本市(鮎屋, 8.VI.1969, -, : 10.VI.1970, -, 坂口操²⁾ : 中津川, 15.VIII.1972, 1♂, 登日邦明⁴⁾)

三原町(八木養宜, 21.VI.1992, -, 藤富正昭⁷⁾)

南淡町(阿万上町, 26.VIII.1960, -, : 12.VI.1970, -, : 19.V.1972, -, 藤平明⁴⁾)

2. *Antheraea yamamai* (Guérin-Ménéville)

(2991) ヤママコ

繭からテグスがとれるので長野県では放飼されている。飼蚕(カイコ)に対して山蚕(ヤマコ)とも呼ばれる。ヨーロッパでも日本から移入されたものが飼育され、ユーゴスラビアではこれが野生化して森林害虫になったという。

本州から九州、対馬、屋久島にかけて分布する。コナラ属を食し、里山から低山地にかけてが主な生息域である。翅色には変異がある。県内でも広く分布している。

[採集記録]

神戸市(摩耶山, -.-.-, 田中蕃⁴⁰: 同, -.-.-, 岡村八郎²⁴: 大池, 22.VIII.1938, lex., 高橋寿郎²⁰)

尼崎市(-, 9.X.1949, -, 新家勝¹⁹)

宝塚市(南口2丁目, 28.IX.1978, -, 新家勝¹⁵: 中山寺, 23.IX.1989, -, 新家勝³⁰: 碎石場, 14.IX.1978, 1♂
1♀, 東正雄³⁰: 西谷西部, 13.IX.1976, 1♀; 24.IX.1977, 1♀; 18.IX.1982, 1♂; 22.VIII.1987, 1♂; 19.IX.1987, 1♂; 6.VIII.1988, 1♀1♀; 22.IX.1990, 6♂; 21.IX.1991, 6♂, 東正雄³⁰: 武田尾, 12.VIII.1991, 2♂; 15.VIII.1991, 1♂, 東正雄³⁰)

川西市(黒川, 10.VIII.1996, 1♂; 20.IX.1997, 1♂, 高島昭³⁷)

猪名川町(上阿古谷, 12.VIII.1982, 1♂, 夏秋ほか¹²)

三田市(香下, 25.VIII.1976, 1♂, 東正雄³⁰)

姫路市(広嶺山, -.-.1982, -, 木村三郎¹⁰: 本町, -, IX.1964, 1♀, 相坂耕作: 太市, -.-.1991, -, 丸谷ほか²¹)

夢前町(-, 21.VIII.1973, 1♂1♀, 相坂耕作)

龍野市(西方院, 24.IX.1972, 1♂, 相坂耕作: 揖西町, 26.IX.1989, 1♀, 相坂耕作)

波賀町(引原, 25.VIII.1987, 1♂, 高島昭³²)

相生市(瓜生, 26.VIII.1997, lex., 高島昭³⁰)

上郡町(船坂, 4.X.1997, 1♂, 高島昭)

三日月町(下本郷, -.VIII.1983, -; -.IX.-, -; -.IX.1984, -, 川副昭人⁹)

日高町(-, 24.VIII.1973, -, 小西与理子²⁸)

村岡町(瀬川平, 12.VIII.1989, 2♂, 近藤伸一)

和田山町(久世田, 31.VIII.1989, lex., 近藤伸一: 同, 12.IX.1989, 1♂, 近藤伸一)

氷上郡(-, -.-.-, -, 山本義丸⁵³)

洲本市(鮎屋, 10.IX.1969, -, 坂口操²⁶: 中津川, 11.VIII.1972, 1♂; 15.VIII.1972, 2♂, 登日邦明⁴⁴: 先山, 12.VIII.1973, lex., 石原ほか³)

三原町(八木養宜, 3.X.1984, -; 30.VIII.1992, -, 藤富正昭⁷)

南淡町(阿万上町, 30.IX.1959, -; 19.IX.1973, -, 藤平明⁴)

3. *Caligula japonica* (Moore) (2993)

クスサン

北海道から九州、対馬、屋久島、奄美、沖縄にかけて分布し、年1回初秋に発生する。極めて多食性で、他の蛾がほとんど食べないイチョウをも食べるというが、とくにクリを好み、クリの一大害虫として知られる。

幼虫は一般にクリケムシと呼ばれるが、白色長毛に覆われた特徴からシラガタロウと呼ばれることもある。また、繭は内部の蛹が透けて見えるのでスカシダワラと呼ばれる。この繭をほぐしたものは栗綿といい、紡績の原料になる。

県下では里山から低山地にかけて分布する。記録のない地域にも普通に分布すると思われる。

[採集記録]

神戸市(摩耶山, -.-.-, 田中蕃⁴⁰: 同, -.-.-, 岡村八郎²⁴)

宝塚市(南口, 10.X.1988, 1♀, 東正雄³⁰: 南口2丁目, 1.X.1978, -, 新家勝¹⁵: 西谷西部, 22.IX.1991, 2♂2♀, 東正雄³⁰: 武田尾, 3.IX.1991, 1♂, 東正雄³⁰)

猪名川町(上阿古谷, 12.VIII.1982, 1♂, 夏秋ほか¹²)

姫路市(広嶺山, -.-.1982, -, 木村三郎¹⁰)

夢前町(菅生潤, 24.IX.1969, 1♂, 相坂耕作: 同, 2.XI.1970, 1♀, 相坂耕作)

龍野市(北竜野町, 7.IX.1996, 1♀, 相坂耕作)

上郡町(船坂, 4.X.1997, 1♀, 高島昭)

三日月町(下本郷, -.VIII.1983, -; -.VIII.-, -; -.IX.1984, -; -.X.1984, -, 川副昭人⁹)

豊岡市(山本, 18.X.1972, -, 山根政之²⁸)

関宮町(鉢高原, 26.IX.1982, 1♀, 近藤伸一)

氷上郡(-, -.-.-, -, 山本義丸⁵³)

洲本市(厚浜, 23.IX.1976, -, 藤富正昭⁷)

三原町(八木養宜, 1.X.1992, -; 25.IX.1993, -, 藤富正昭⁷)

南淡町(阿万上町, 23.IX.1958, -; 18.X.1984, -, 藤平明⁴)

4. *Rhodinia fugax* (Butler) (2994)

ウスタビガ

北海道から九州にかけて分布し、各地の雑木林に

多い。食性は広く、コナラ属、サクラ、ケヤキ、カエデなどにつく。秋から晩秋にかけて年1回の発生である。繭は緑色で長い柄で枝にぶら下がり、その形状からヤマカマスと呼ばれる。

雌雄でかなり色調や形状が異なる。県下からは里山から低山地にかけて普通に分布するが、東播、南但、淡路北部からの記録を欠く。また山地帯における記録も少ない。もっとも、発生時期が晩秋で、十分な調査が行われていないことによるのかもしれない。

【採集記録】

神戸市(摩耶山, -.-.-, 岡村八郎²⁴: 谷上, 10.XI.1991, 1♀, 東正雄³⁰)
 宝塚市(南口2丁目, 10.X.1978, -, 新家勝¹⁶: 西谷西部, 10.XI.1976, 1♂; 12.XI.1977, 1♂, 東正雄³⁰)
 川西市(黒川, 9.XI.1996, 1♂4♀, 高島昭³⁷)
 波賀町(-, 4.XI.1972, 1♀, 相坂耕作: 戸倉峠, 25.X.1981, 1♂, 相坂耕作)
 上郡町(上郡, 14.XI.1995, 1♀, 高島昭)
 豊岡市(山本, 29.X.1972, -; 11.XI.1972, -, 山根政之²⁸)
 氷上郡(-, -.-.-, -, 山本義丸⁵³)
 洲本市(鮎屋, 1.XI.1968, 1♂, 坂口操⁴⁶: 同, 17.XI.1969, -; 20.XI.1969, -, 坂口操²⁶: 厚浜, 21.XI.1976, -, 藤富正昭⁷)
 三原町(八木菱宜, 10.XI.1993, -, 藤富正昭⁷)

5. *Rhodinia jankowskii* (Oberthür) (2995)

クロウスタビガ 注目種

シベリア南東部から朝鮮半島を経て日本にかけて分布する冷温帯性の種で、国内では北海道から四国中央山地にかけて記録があるが、本州以南では山地は限られ、局地的で採集例は少ない。

年1回秋の発生で、キハダが食樹として知られる。県下の記録はいずれも波賀町で採集された例のみであるが、おそらく西播北部から氷ノ山、鉢伏山などの但馬山地にかけて広く分布していると思われる。近県では大阪府箕面や岡山県北部山地でも記録がある。なお、兵庫県版レッドデータブックでBランクに指定されている。

【採集記録】

波賀町(引原, 9.X.1972, 1♂, 相坂耕作: 同, 10.X.1988, 1♂, 高島昭³¹: 坂の谷, 25.IX.1998, 1♂, 高島昭³⁹)

6. *Caligula jonasii* Butler (2996)

ヒメヤママユ

モンゴルから中国、シベリア南東部、朝鮮半島、日本に分布し、国内では北海道から九州、対馬、屋久島に分布する。年1回秋の発生で、バラ、スイカズラ、ブナ、ミズキ、カエデの諸科のほか色々な植物につく。県下では、各地の里山から低山地にかけて広く分布するが、東播地域からは記録がない。

【採集記録】

神戸市(六甲山, -.-.-, 堀江聡男⁴⁸: 有馬, 17.X.1938, 1♀, 東正雄³⁰: 有馬, 23.X.1946, 1♂, 東正雄³⁰: 山田, 18.X.1946, 1♂, 東正雄³⁰)
 宝塚市(西谷西部, 22.IX.1991, 2♂, 東正雄³⁰: 武田尾, 19.X.1991, 5♂, 東正雄³⁰)
 姫路市(番写山, 3.XI.1990, 4♂, 相坂耕作: 太市, -.-.-, 1991, -, 丸谷ほか²¹)
 夢前町(-, 23.X.1971, 2♂, 相坂耕作: 同, 24.X.1971, 2♂, 相坂耕作)
 安富町(皆河, 21.X.1988, 1♂, 高島昭)
 波賀町(坂の谷, 10.IX.1998, 1♀, 高島昭)
 三日月町(下本郷, -.-.-, 川副昭人⁹)
 豊岡市(山本, 24.X.1972, -, 山根政之²⁸)
 和田山町(久世田, 12.IX.1989, 1♂, 近藤伸一: 同, 27.X.1989, 1♂, 近藤伸一)
 柏原町(柏原, -.-.-.-, 山本義丸⁴⁹)
 市島町(妙高山, -.-.-.-, 山本義丸⁴⁹)
 洲本市(鮎屋, 6.XI.1969, -, 坂口操²⁶)
 三原町(八木菱宜, 10.XI.1991, -; 5.XI.1993, -, 藤富正昭⁷)

7. *Actais artemis* (Bremer & Grey) (2998)

オオミスアオ

一般に次種より大きく、夜行性だが昼間木陰に羽を広げて休んでいる姿を見ることが多い。中国東北部からシベリア南東部、千島、北海道、本州、四国、九州、対馬、種子島、屋久島のほか八丈島、青ヶ島で記録されている。幼虫は多食性。年2回の発生である。一般に次種より食性が広いと、分布域も広いという。県下でも平地から山地まで広く分布している。

【採集記録】

神戸市(六甲山, -.-.-, 堀江聡男⁴⁸: 摩耶山, -.-.-, 田中蕃⁴⁰: 同, -.-.-.-, 岡村八郎²⁴)
 宝塚市(南口2丁目, 15.VI.1981, -, 新家勝¹⁷: 中山寺, 30.V.1987, 1♀, 東正雄³⁰: 西谷西部, 25.VI.1980, 1♀; 2.VII.1988, 1♀; 16.VI.1990, 1♂, 東正雄³⁰)

猪名川町(上阿古谷,20.VIII.1982,1♂,夏秋ほか¹²⁾
 姫路市(広嶺山,-.-.1982,-,木村三郎¹⁰⁾:同,6.VII.
 1996,1♂,高島昭)
 波賀町(引原,16.V.1988,2♂,高島昭³²⁾:坂の谷5.V.
 1998,1♂,高島昭)
 三室山(-.-.-.-,遠山ほか²⁵⁾
 相生市(瓜生,26.VIII.1997,1♀,高島昭³³⁾
 三日月町(下本郷,-.VII.1983,-;-.-.VIII.1983,-;-.
 VI.-,-;-.-.VII.1984,-,川副昭人⁹⁾
 豊岡市(目坂,10.VI.1988,1♂,近藤伸一:正法寺,8.VI.
 1998,1♂,柴田剛)
 出石町(弘原,1.VIII.1975,-,大林誠⁴⁷⁾
 氷ノ山(-.-.-.-,遠山ほか²⁵⁾
 和田山町(久世田,21.VIII.1989,1ex.,近藤伸一)
 関宮町(氷ノ山,-.-.1954,-,山本義丸⁵¹⁾
 柏原町(柏原,-.-.-.-,山本義丸⁴⁹⁾
 市島町(妙高山,-.-.-.-,山本義丸⁴⁹⁾
 洲本市(鮎屋,25.IV.1969,-;20.VI.1969,-,坂口操²⁶⁾

8. *Actias gnoma* (Butler) (2999)

オナガミズアオ

前種とよく似ているが、♂の前翅前縁は直線的、
 翅頂はとがり、外横線は波状に屈曲せず直線的であること、後翅の眼状紋が外方に細長く伸びていること、♀では尾状突起がより細長いことなどの点で区別できる。分布は前種とほぼ同じ、国内では北海道から九州、対馬、種子島、屋久島のほか沖縄からも記録されている。幼虫はハンノキ属の各種につく。県下では柏原町、三田市、波賀町のように一部で内陸部からの記録も散見できるが、主たる分布域は六甲山系や瀬戸内海、太平洋沿岸部で、流紋岩または花崗岩質の土壤が分布するところに多いようである。これはヤシャブシ類の分布と深い関係があるのかもしれない。

[採集記録]

西宮市(角石町,20.VI.1980,1ex.,芦田久¹⁾
 宝塚市(南口2丁目,25.V.1979,-,新家勝¹⁵⁾:同,26.IV.
 1988,-,新家勝²⁰⁾:宝梅1,25.V.1981,1♂,東正雄³⁰⁾:西谷西部,28.V.1977,1♂;14.VI.1986,1♂;29.V.1987,1♂;27.VI.1987,1♂;2.VII.1988,1♀;17.VI.1989,1♂;13.IV.1991,1♂;8.VI.1991,1♂,東正雄³⁰⁾
 三田市(-,23.IX.1971,1♀,相坂耕作)
 姫路市(太市,-.-.1991,-,丸谷ほか²¹⁾:同,31.V.1995,1♂,高島昭)

波賀町(引原,14.VIII.1979,3♂,相坂耕作)
 上郡町(行頭,26.V.1995,1♂,高島昭³⁵⁾
 柏原町(柏原,23.VII.1955,1♂1♀,山本義丸⁴⁹⁾
 津名町(大町畑,5.VI.1972,1♂,登日邦明⁴²⁾:同,1.VII.1972,1♂,登日邦明⁴³⁾
 南淡町(阿万上町,-.VII.1958,-;-.-.IX.1959,-;14.IV.1961,-;3.V.1961,-,藤平明⁴⁾

9. *Agria japonica* Leech (3000)

エゾヨツメ

ヨーロッパから極東にかけての広域分布種で、国内では北海道から九州にかけて分布する。年1回春の発生で、夜行性であるが他のヤマムコ類と比べて早くから活動を始め、日没直後から盛んに飛び回る。多食性である。分布の中心は里山のような低山地であるが、波賀町坂の谷や扇ノ山のような山地でも得られている。本種の垂直分布が広いことの裏付けとして、石川県ではブナを食べることも確認されている(富樫,1984,蛾類通信129,p.59-62)。兵庫県版レッドデータブックのCランクに選定されているが、県下ではむしろ普通種であると思われる。なお、淡路島からは今のところ記録がない。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,14.IV.1963,1♂,田中蕃⁴⁰⁾:同,-.-.-,-,岡村八郎²⁴⁾:妙法寺町,3.V.1965,1♂,-¹²⁾:伊川谷町,5.IV.1998,1♂,高島昭)
 宝塚市(西谷,10.IV.1977,-,東正雄¹⁹⁾:西谷西部,11.IV.1987,1♂;23.IV.1988,1♂;14.IV.1990,3♂;13.IV.1991,1♂,東正雄³⁰⁾
 波賀町(引原,24.IV.1998,1♂,高島昭:坂の谷,28.IV.1998,1♂,高島昭)
 相生市(瓜生,18.IV.1995,1♂,高島昭³³⁾
 上郡町(行頭,25.IV.1996,1♂,高島昭³⁴⁾
 三日月町(下本郷,-.IV.-.-,川副昭人⁹⁾
 温泉町(扇ノ山,2.VI.1984,1♂1♀,谷田昌也⁴¹⁾
 柏原町(柏原,7.IV.1955,-,山本義丸⁵³⁾
 市島町(-.-.-.-,山本義丸⁴⁹⁾

<参考・引用文献>

- 1) 芦田 久(1981), 西宮市角石町で採集した蛾類数種の記録. きべりはむし9(2), p.22-24.
- 2) 東 正雄(1987), 兵庫県産珍奇な蛾の追加. きべりはむし15(1), p.16-19.
- 3) 堀田 久(1976), 先山の昆虫相(I). *Parnassius*

- (16), p.11-32.
- 4) 藤平 明 (1973), 南淡の蛾. *Parnassius* (11), p.7-10.
- 5) 藤平 明 (1979), 南淡の蛾 (IV). *Parnassius* (20), p.10-18.
- 6) 藤平 明 (1987), 南淡の蛾 (自刊).
- 7) 藤宮正昭 (1994), 私版 淡路の昆虫リスト. *Parnassius* (41), p.1-4.
- 8) 井上 寛ほか (1982), 日本産蛾類大図鑑 Vol.1: p.1-968, Vol.2: p.1-556, pls.1-392. 講談社・東京.
- 9) 川副昭人 (1987), 佐用郡三日月町の蛾覚え書. てんとうむし (10), p.1-10.
- 10) 木村三郎 (1984), 広峰・増位山系の昆虫. てんとうむし (9), p.53-58.
- 11) 松本健嗣 (1981), 神戸市山田町の蛾数種. きべりはむし9 (2), p.21-22.
- 12) 松本健嗣 (1983), 神戸・明石近海地域の主な蛾 (その1). きべりはむし11 (1), p.3-6.
- 13) 夏秋 優・佐々木 昇 (1982), 能勢地方の蛾 (I) 上阿古谷・夏の蛾. *Crude* (23), p.1-37.
- 14) 夏秋 優・佐々木 昇 (1984), 能勢地方の蛾 (III) 妙見山の蛾 (1). *Crude* (25), p.15-22.
- 15) 新家 勝 (1981), 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾 (その1). きべりはむし9 (1), p.24-26.
- 16) 新家 勝 (1982), 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾 (その3). きべりはむし10 (1), p.7-10.
- 17) 新家 勝 (1982), 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾 (続報その1). きべりはむし10 (2), p.10-16.
- 18) 新家 勝 (1983), 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾 (続報その2). きべりはむし11 (1), p.6-10.
- 19) 新家 勝 (1989), 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾 (続報その9). きべりはむし17 (2), p.31-35.
- 20) 新家 勝 (1993), 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾 (続報その10). きべりはむし21 (2), p.53-64.
- 21) 日本野鳥の会 (1992), 姫路市自然観察の森 林内基礎調査報告書. 4-6昆虫類 p.119-151.
- 22) 西岡公明 (1983), 三熊山蛾類採集記録 [1]. *Parnassius* (27), p.7-9.
- 23) 岡本 清 (1997), 高砂の蛾. てんとうむし (11), p.40-45.
- 24) 岡村八郎 (1987), 神戸市摩耶山の蛾類採集目録. てんとうむし (10), p.37-45.
- 25) 奥谷禎一編 (1974), 中国山脈東端の昆虫相. 東中国山地自然環境調査報告 p.173-191.
- 26) 坂口 操 (1971), 洲本市付近の蛾の記録. *Parnassius* (8), p.8-10.
- 27) 杉 繁郎 (1980), 兵庫県で採れたウスマダラカレハ. 誘蛾燈82, p.120.
- 28) 高橋 匡 (1975), 豊岡高等学校昆虫標本目録 (第1・2報). p.48-54.
- 29) 高橋寿郎 (1939), 神戸神有沿線大池付近の蛾類. 昆虫界7 (60), p.16-18.
- 30) 宝塚市教育委員会 (1992), 宝塚の昆虫III 蛾類 (I).
- 31) 高島 昭 (1995), クロウスタビガの採集記録. きべりはむし23 (1), p.31.
- 32) 高島 昭 (1995), 波賀町引原ダム周辺における蛾相第2報. きべりはむし23 (2), p.10-23.
- 33) 高島 昭 (1996), 相生市三濃山麓の蛾 (1). きべりはむし24 (1), p.27-29.
- 34) 高島 昭 (1996), 兵庫県版レッドデータブックの蛾. きべりはむし24 (2), p.35-44.
- 35) 高島 昭 (1997), 上郡町で採集した蛾 (1). きべりはむし25 (1), p.31-38.
- 36) 高島 昭 (1997), 姫路市広嶺山の蛾 (1). てんとうむし (11), p.65-69.
- 37) 高島 昭 (1998), 黒川の蛾. きべりはむし26 (1), p.23-38.
- 38) 高島 昭 (1998), 相生市三濃山麓の蛾 (2). きべりはむし26 (2), p.59-63.
- 39) 高島 昭 (1999), 兵庫県波賀町で採集した注目すべき蛾. 誘蛾燈155, p.17-24.
- 40) 田中 蕃 (1967), 神戸市摩耶山に産する大蛾類. 佳香蝶19 (71), p.89-104.
- 41) 谷田昌也 (1986), 扇ノ山の蛾類分布資料 (I). *IRATSUME* (10), p.30-37.
- 42) 登日邦明 (1973), 淡路島産蛾類分布資料 (I). 蛾類通信73, p.215-224.
- 43) 登日邦明 (1973), 淡路島産若干の蛾の記録. *Parnassius* (9), p.9-16.
- 44) 登日邦明 (1974), 淡路島産蛾類分布資料 (II). 蛾類通信76, p.261-266.
- 45) 登日邦明 (1974), 淡路島産蛾類分布資料 (III). 蛾類通信78, p.301-306.
- 46) 登日邦明 (1988), ウスタビガの記録. *Parnassius* (33), p.6.
- 47) 豊岡高等学校昆虫標本目録 (第3報). p.9-14.
- 48) 戸澤信義 (1935), 六甲山産蛾類目録. 関西昆虫雑誌2 (3), p.30-31.
- 49) 山本義丸 (1997), 兵庫県氷上郡地方の蛾類 (2). きべりはむし25 (1), p.11-22.

50) 山本義丸(1997), 兵庫県で採集した蛾の記録.

きべりはむし25(2), p.54-57.

51) 山本義丸(1955), 氷ノ山の蛾について(第一報).

兵庫生物3(1/2), p.3-6.

52) 山本義丸(1956), 氷ノ山の蛾について(第二報).

兵庫生物3(3), p.121-123.

53) 山本義丸(1958), 兵庫県氷上郡昆虫目録, p.12-50.

54) 山本義丸(1958), 氷ノ山の蛾について(第三

報). 兵庫生物3(4), p.237-239.

55) 遊磨正秀(1980), 朝来郡朝来町須留ヶ峰の蛾類について(I). きべりはむし8(3), p.1-8.

56) 遊磨正秀(1981), 宍粟郡一宮町福知溪谷の蛾類について. きべりはむし9(1), p.1-3.

57) 遊磨正秀(1981), 養父郡大屋町田淵山の蛾類について(I). きべりはむし9(1), p.3-6.

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

第1表 カレハガ上科、ヤママユガ上科各種の兵庫県下における地域別記録状況

	神戸	阪神北摂	中東播南部	中東播北部	西播南部	西播北部	南但	北但	丹波	淡路北部	淡路南部	記録地数	特記事項
カレハガ科													
1. ホシカレハ		○	○			○					○	7	
2. カレハガ	○	○		○	○	○			○		○	9	
3. ヒメカレハ					○							1	注目種
4. ウスマダラカレハ							○					1	注目種
5. ヨシカレハ						○	○	○				5	山地性
6. タケカレハ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	26	
7. ギンモンカレハ						○	○	○				6	
8. リンゴカレハ	○	○		○	○	○	○		○	○	○	18	
9. マツカレハ	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	27	
10. ツガカレハ		○			○				○		○	8	
11. クヌギカレハ	○	○		○	○	○	○		○		○	13	
12. ヤマダカレハ		○			○				○			3	注目種
13. ウズミカレハ	○							○				3	注目種
14. オビカレハ	○	○	○		○		○		○	○	○	15	
計	7	9	4	4	9	8	8	5	8	3	8		
オビガ科													
1. オビガ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	27	
カイコガ科													
1. クワコ	○	○			○	○	○		○			11	
2. カイコ									○			1	飼育種
3. スカシサン	○			○			○		○			4	注目種
4. オオクワゴモドキ						○	○	○	○			5	注目種
計	2	1	0	1	1	2	3	1	4	0	0		
イボタガ科													
1. イボタガ	○	○	○		○				○	○	○	18	
ヤママユガ科													
1. シンジュサン	○	○	○		○				○	○	○	19	
2. ヤママユ	○	○	○		○	○	○	○	○		○	30	
3. クスサン	○	○	○	○	○		○	○	○		○	17	
4. ウスタビガ	○	○				○		○	○		○	12	
5. クロウスタビガ						○						2	注目種
6. ヒメヤママユ	○	○	○		○	○	○	○	○		○	17	
7. オオミズアオ	○	○	○		○	○	○	○	○		○	20	
8. オナガミズアオ		○	○		○	○			○	○		11	
9. エゾヨツメ	○	○			○	○		○	○			13	
計	7	6	6	1	8	7	4	6	8	2	7		

記録から見た兵庫県の甲虫相^{*}

高橋 寿郎

自分の住んでいる地域にはどのような甲虫類が生息しているのだろうか、それをまとめることは大変なことである。現在、日本の府県のうちでも府県単位の甲虫誌がまとめられているところはある。だがその数はそれほど多くない(平野幸彦氏によれば、現在県単位で甲虫誌がまとまっているのは12県ほどである、1998)。一方では自然破壊は日々行われていて、かつて昆虫類がたくさん見られたところが道路になり、ゴルフ場やレジャー施設になり、住宅地になって虫達の絶滅になっている地域は非常に多い。

われわれが住んでいる地域の甲虫相がわからないまま世が移って行くことは大変淋しいことである。地域の甲虫相をまとめておくことは自然環境の基礎資料にも歴史的資料にもなり、その地域の固有種の発見とか絶滅危機種の確認にも役立ち、同じ地球上に育った生物の興亡の記録にもなるのではと考えられる。

兵庫県の甲虫相をとりまとめたものは残念ながら今のところ全く無い。また、まとめるのにはまだ充分でない点がある。すなわち、調査地でまだ手がつけられていない所がある、甲虫のうちでもあまり調査されていないグループが結構多くある。まとめるに当たって再同定を必要とすると同時に種名確認のための同定依頼が必要なものも出てくるであろう、それやこれやを考えると簡単にとりまとめは出来ない。

私は60年間兵庫県各地での採集調査をやってきたが、やはり調査地が偏って未調査地が多い。また、採集もあまり不得手なものについては調査、採集が疎かになるにしたがって大変不十分な結果になっている。兵庫県の甲虫に関する文献は1997年末で2,149篇集まっており、それらに記録されているものは種毎に記録を記入している。自分の採集したものデータもそれに加えて記録している。その数は大変なものである。そこで此処にそれ等を基として兵庫県産の甲虫はどのぐらい記録されているのかをまとめて見た。ただし、この数字は極めて流動的なもので今後の調査によって種の追加もあれば、同定の間違いも出てくるだろうし、新しく加わってくる

ものも多くあったり、また減少するものもあろうことは当然考えられる。

今まで私がとりまとめた兵庫県の甲虫類は、1998年10月現在で、119科3,311種になった。

この数字は先ほどの平野幸彦氏の論文によると(1988)、神奈川県に次いで2番目に多く産する県ということになるのである。まだ未調査地、未調査種が多いことを考えると、4,000種近く当県には甲虫が分布しているのではないかと考えられる(平野幸彦氏による推定総数の計算によると4,183種になる。解明率は79.1%になる)。

県下を地域別に分けて眺めてみると、次のようになる。

淡路島	71 科	653 種
摂津地域	94 科	1,430 種
六甲山系を中心とした神戸並びにその近傍		
	90 科	1,884 種
東播磨	79 科	1,046 種
西播磨	85 科	1,481 種
音水・赤西溪谷(宍粟郡)	77 科	1,085 種
丹波地域	79 科	1,219 種
但馬地域	93 科	1,730 種

これから眺めてみると六甲山系を中心とした神戸並びにその近傍地域が一番多くの種が記録されている。これはなんといっても神戸市という都市において自然地が多かったこともあるが、調査する人が多いことと調査回数が非常に多いことが影響していると考えられる。例えば私の家の裏にある鳥原貯水池畔は狭い地域であるが、水道局の用地が多いということで開発が制限されていることと、私などは1936年頃から採集に行き、年によっては1年のうちその大部分半日ぐらいはこの地域に入って採集、調査をしたということをやっている。この都市の中にある僅かの地域で、しかも単独の調査で甲虫類71科895種を記録した(鳥原貯水池自然調査報告書・神戸市土木局公園緑地部・兵庫県環境技術センター発行、1993)。すなわち、調査に時間と回数をかけることがその結果に大きな影響を与えることがわかる(もっとも、この地も公園化したお陰で多くの人が訪れ、昔日の自然の状態が失われつつあることは大変淋し

* 兵庫県甲虫相資料・350

い)。

兵庫県下で記録された甲虫 3,311 種のうち、多くの種を産する科ベスト・ファイブは、1.オサムシ科 308 種、2.ハネカクシ科 300 種、3.カミキリムシ科 297 種、4.ハムシ科 296 種、5.ゾウムシ科 270 種である。

おそらく調査が進めば、ハネカクシ科が一番多くの種を産するであろうと考えられる。

以上、兵庫県にどれくらいの甲虫が分布しているのかといったことを現時点で眺めてみたが、まだまだ調査は前途遠遠であり兵庫県甲虫誌のまとめが出来るのは何時のことか大変心許ない次第である。

<参考文献>

平野幸彦(1987) 県別の甲虫は何種いるか

月刊むし(201),p.28-31.

平野幸彦(1995) 地域別の甲虫は何種いるか

月刊むし(296),p.23-27.

平野幸彦(1998) 地域甲虫相を調べる

昆虫と自然 33(11),p.17-20.

平野幸彦(1998) 平野幸彦氏虫寿記念号

神奈川虫報特別号 No.2.

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町 1-44)

私の昆虫採集記(1)*

高橋 寿郎

私が昆虫採集を始めたのは昭和 10(1935)年である。考えてみると年数だけではもう 60 年を超えている。その間、学徒出陣で中支戦線に参戦、シベリア抑留のブランク時代、戦後を生きていくための"虫どころではない"といった生活、また会社社会における生活のための戦いと、プロではないので虫取りが充分に出来る生活ではなかった(定年退職後は虫取りは時間的には出来たが、今度は生活のため金銭的に大変苦しかった)。いろいろと制約はあったが最近まで昆虫採集をやっていた。

そこで、私の昆虫採集の記録のいくつかをここに発表しておきたいと思った。読み物として、また唐人の戯事(ワグト)として読み流していただければ幸いである。

初めに記したように私が昆虫採集を始めたのが昭和 10(1935)年である。その年、私は神戸二中(現兵庫高校)に入学した。当時中学校では夏休みの宿題に昆虫採集は必修科目であった。

裏山へ出掛けては生まれて初めての本格的(?)昆虫採集を始めた(もっとも子供の頃、当時はアオカナブンとかカナブン、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、カブトムシが子供の遊び相手としてわりと身近に簡単に入手出来ていたりして、虫取りの機会

に恵まれていた時代であった)。

標本製作については良く知られている*加藤正世博士(*印故人、以下同じ)著の"趣味の昆虫採集"並びに"昆虫標本整理法"を本屋で立ち読みして承知した(購入するほどの小遣いが無い状態だった)。特に珍しいものはとれていないのであるが、標本箱二箱をこしらえて 9 月に学校に提出した。あにはからんや先生からはこれは良く出来ている、百貨店の展示会に出品するから虫の名前をキッチリとラベルに書き込んでこいといわれてさあ大変、虫の名前なんか当時正式にはほとんど知らなかったもので、仕方なく学友と(彼も展示会出品組だった)大倉山にある神戸市立図書館へ出掛けた。

昆虫図鑑(松村松年博士のものであった)を借り出して、閲覧室で標本と較べて名前のわかるものはラベルに記入して、全部がわかったのではないはある程度わかった段階で学校へ再提出した。この調べは丸一日かかった。2 人とも飯も食わずに図鑑をくり返して見た。おかげで一日で音を上げてしまった。

当時、9 月には神戸市内の中学校の宿題作品を集めて、神戸大丸で作品展をしていた。生まれて初めての採集品を出品して貰って、その上思いもかけず入賞までして、カブトムシの図柄のついた銅メダルを貰って感激した次第である。

その年の秋、湿性肋膜炎になり、翌一年休学し転

* 兵庫県甲虫相資料 357

地療養することになり、祖母のいる広島県深安郡神辺町に行った。そこで、浪人中の叔父と魚釣りに明け暮れるうちに、蝶が多く飛ぶのに惹かれて2人して蝶採集に熱中した。福山市内の本屋で山川 繁著の「原色蝶類図」を見出して、それを見て採集した蝶の名前を探した。買う金が無いので何とか口実を見つけては福山の街まで出かけて立ち読みを重ねた。

広島では東城町帝釈峡でカラスアゲハの群飛に会い、スミナガシの採集に感激し、総領町田総にて叔父の造り酒屋の酒桶にオオムラサキが飛び込んできたのを採集したり、神辺町では6種ほどのヒョウモン類の数の多さに驚いたものである(広島県での蝶類採集記録は「広島県蝶採集録」として昆虫世界 Vol. 43, No. 507, p. 15-19, 1939 に発表している)。ようやく昆虫採集が面白くなってきた。

同級生に今津隆男・福永安郎君がいた。今津隆男君はゼフィルスに熱を上げて、学校を休んでは京都・滋賀あたりまでゼフィルス採集に行っていた(美しいゼフィルス採集品は同君の須磨のお宅で見せて貰い感激した)。

当時昆虫趣味の会神戸支部が出来たのを機に、支部長・関 公一氏、幹事・米谷正司氏宅に伺い、入会させて貰って昆虫採集、研究にのめり込んでいった。米谷正司氏宅では Arrow の Fauna British India:

Lamellicornia: Cetoniina & Dynastinae とか Breuning の Monographie der Gattung Carabus を見せて貰ったり、丁度昆虫界に投稿準備中の「リュウキュウハナムグリ属に就いて」の付図の書き方を教わったりした。また、同氏所有の「新島善直・木下栄次郎著、こがねむし二関スル研究報告(第二) 我国ニ産スルこがねむし及其分布(北海道帝国大学農学部演習林研究報告第2巻, 第2号, 1923)」がどうしても読みたくて、無理を云ってお借りして大学ノートにペンで全文(260p.)を複写した。現在のようにコピーが簡単に出来る時代ではなかったので、文献のコピーは皆ペンで筆写したものである。お陰でよく読むことも出来たわけである。この複写本は、その後製本して現在も所有している。

神戸二中時代には博物研究会とか神戸博物同好会をこしらえて会誌に昆虫記事を多く発表していたし、当時兵庫県博物学会々誌には二中の竹中 茂先生(博物)のお世話で投稿発表して貰った。また、昆虫趣味の会機関誌「昆虫界」にも数篇の報文を発表した。中には「昆虫と映画(1)(2)」(昆虫界 Vol. 10, No. 102, p. 535-536, 1942, Vol. 11, No. 108, p. 68-73, 1943)とか、「文化

映画に現れた昆虫」(昆虫界 Vol. 10, No. 99, p. 317-320, 1942)のような怪文章的なものまで発表していた。

当時昆虫採集の関西・中国地方のメッカとして知られていた「伯耆大山」へも単独で採集に行った(大山の宿では大阪の福貴正三氏と一緒にになり、いろいろとお世話になった)。頂上近くにカメノコテントウが多く飛来するのに遭遇し、その美しさに驚いた記憶がある。当時大山に採集に行かずに昆虫採集を云々することなかれといわれていた時代であった(この大山採集行は「虫の世界, Vol. 5/6, p. 91-94, 1939」に発表して貰っている)。

第一次学徒出陣ということで、卒業を半年繰上げ、高等商業学校(旧制高商)3年生の9月に卒業、11月に本籍地(広島県)のある広島市白島の西部第七部隊(工兵隊)に現役兵として入隊、入隊後直ちに中支派遣 6869 部隊に転属を命ぜられ、2週間たって宇品港より御用船に乗船、途中アメリカの潜水艦に追いかけれ、朝鮮の済州島に避難に一幕があり、中国大陆に向かった。揚子江(長江)に入り、そこから九江で休息上陸があった後、当時の漢口(現武漢)に上陸した。

私は工兵隊であったので、師団司令部(宜昌)のそば、当陽県河溶鎮に駐屯した(学徒出陣のお陰で幹候隊一幹部候補生隊に所属した)。

見渡す限りの平坦地で山とか樹木がほとんどない川に沿った地であったが、訓練の合間には野外に出て蝶を観察したり兵隊と一緒に蝶を追いかけてたりした。印象に残っているのはホソオチョウの悠然と飛ぶ光景であった。ホタルもシーズンには数多く見ることが出来た。衛兵当番で夜間巡察するときなどによく出会った。

ここでの蝶観察記は、原稿を軍事郵便葉書に書いて送って、昆虫世界(Vol. 48, No. 567, p. 136-138, 1944, Vol. 49, No. 569, p. 35-36, 1945, Vol. 49, No. 570, p. 53-54, 1945)に3回にわたり「中支虫便り」として発表して貰った。

中国大陆での虫の思い出としては、架橋作戦に出ているとき川端の倒木の根元からタイワンカブリモドキによく似たカブリモドキ(エリスカブリモドキ?)がバラバラと6頭ほど出て来た時は驚いた。黄河を渡った新郷(シシヤ)の街はずれで、あの有名なファープルの昆虫記のトップを飾る玉転がし養虫に出会った時は感激であった。このあたり、この養虫は多く見られた。そして養を転がしている姿がそこそこに見られた。かなり大きな養虫であると同時に

にその糞を転がすスピードの速さに驚いた(勿論、ファーブルの昆虫記に出てくる糞虫とは種類が違っていた)。

シベリア(厳密に云えばカザック共和国～現在は独立国～ウスチカールメンゴルスクの収容所)で終戦後2年間抑留生活を送った。シベリアではないが冬季零下35度ぐらいまで気温は下がった。10月から4月中まで雪が降る地であった)。ここで印象に残ったのは、煉瓦工場に働きに出かけたとき、工場の側溝に毎朝かなりの個体数の数種のオサムシ類に出会った。日本のものと違ってなかなか美しい色をしていた。見渡す限り広大なコルホーズのジャガイモ畑にオオニジュウヤホシテントウの大群がいた。ナホトカの帰国船の乗船場に無数に飛ぶカメノコテントウの大群に出会ったことは忘れられない光景であった。収容所内では毎夜、南京虫とシラミに悩まされた。

養父郡 氷の山

復員し会社勤めになってから兵庫県の甲虫相を調べてやろうと考えたが、なかなか会社勤めで休日が取れない。年休などといったことがないし、日曜出勤もあたりまえの時代であった。会社が鉄鋼問屋であった関係から丁度朝鮮戦争が始まってからは鉄は時代の花形になってしまった。復興と戦争、鉄は国家なりと鼻息は荒く酷使された。それでも、7～8月にかけて3日間だけ交替での夏休みが貰えた。それを私は養父郡氷の山甲虫相調査に用いた。

氷の山、海拔1,510.1m、但馬と因幡の国境にそびえ、高さは県内第一、中国山脈では伯耆大山について第二の高峰。「須賀ノ山」と呼ぶのが正しく氷の山の名は因幡への国境を越える「氷の山越え」といったのから起こった名前とのこと。

戦前氷の山での昆虫採集の記録はほとんどなく、僅かに*関 公一氏が「兵庫県の天牛科目録」(昆虫界 Vol.9, No.89:447-456, 1941)の中で「某地。北部山地」と産地を書いて記録したカミキリムシ(ルリボシカミキリ、フタオビミドリカミキリ、アサカミキリなど)の産地が氷の山であったとのことだった(関 公一氏から直接お聞きした)、またルイスクビナガハムシが*岩本新一氏によって1940年に記録されている(昆虫研究, Vol.4, No.1/2, p.22, 1940)。したがって、ごく僅かの採集調査者が訪れていたことになると思われる。*大倉正文氏も戦前鳥取県側から氷の山に

登られて、途中アサカミキリを多数採集したといった話をお聞きした。どちらにしても氷の山での昆虫採集は戦前ではごく僅かであったようである。

1952年8月、兵庫県生物学会の主催で*岩田久二雄、奥谷慎一、永富 昭、中根猛彦博士等の指導で氷の山の採集会が催され、その結果を発表(兵庫生物 Vol.2, No.2:121-125, 1953)、氷の山が好採集地であることが知られたことから、氷の山への注目が集まった時期であり私がこの山を調べてやろうと思い立った理由でもある。

私は氷の山へ1953～1959年の間に大体毎年7、8月に6回採集に出掛けたが、ほとんど単独行動であった。ただ、2回目の時は阪神大震災で亡くなった*石田 裕氏(オサムシ、ガガンボの研究家)と一緒にいった。当時は今と違って車の普及が無く、交通機関としてはバス利用しかなかった。国鉄(JR)、山陰線八鹿駅から出る熊次行きのバスに乗って行き、終点丹戸、福定、大久保であった。私は福定にある西村英夫氏宅(民宿)に6回ともお世話になった。私の行った時は全く他に泊まれる方もなく、淋しい宿泊であった。民宿の電灯にムネホシシロカミキリが飛来して喜んだ記憶は忘れられない。アサカミキリは大久保の部落で数回採集した(このカミキリは麻の栽培が禁止されたので姿を消してしまった。私は雪彦山麓で飛翔中のものを採集したことがある—14.VIII.1957)。

当時蝶の山本広一氏、吉阪道雄氏等が氷の山の蝶を調べて兵庫生物に発表された(Vol.3, No.1/2, p.22-26, 27-29, Vol.3, No.3, p.124-125, 1956)。山本義丸氏は寝袋を持って地蔵堂にて夜間採集などをやっておられたとのこと。その後教鞭をとっておられた柏原高校の生徒諸君の協力を得て氷の山のファウナ(蛾を主体に)解明につとめられた。

西村 登博士は水棲昆虫調査に行っておられた。この時代、熱心な方々による氷の山の調査は華やかなものがあった。

氷の山の印象は、ルリボシカミキリに出会えることが大変うれしかった。その数は多くないが、行く度に会ってその美しさにウットリしたものである。

登山道側の溪流側方にある柳の樹に早朝何百頭と思われるほど多くのアカアシクワガタが来ているのに出会った時は驚きであった。交尾しているものもいてとにかく入れ物が無くてあまり採集出来ずに残念であった。道端に積んである薪に多数のカミキリムシ(特にミドリカミキリなど全く無数にいた)、ヒ

ゲナガゾウムシ類に出会える楽しみ、花に来ているカミキリムシ、ハナムグリ類の数の多さにただただ別天地にいる光景であった。採集は氷の山越えあたりまでが特に面白いようであったが、頂上あたりに吹き上げられてくるものがいたり、ルイスクビナガハムシが多く吹き上げられたのを辻 啓介氏は見せて下さった。

氷の山の甲虫相について私は"兵庫生物"誌上に一部を発表させて頂いている(Vol.5, No.2, p.161-164, 1966)。現在の氷の山は様子がすっかり変わっているようであるが、一度行って見たいものである。

相生市三濃山

東洋大学の大野正男教授が1964年5月7日、三濃山の西斜面一帯を頂上まで調べられ、ハムシ相の結果を"兵庫生物"誌上に発表になった(Vol.5, No.3, p.213-216, 1967)。僅か一日の調査で85種のハムシを採集された。これを拝見して三濃山は面白そうな山だと気がついた。時あたかも神戸生物クラブ同定会の席上、上郡に居住の方の訪問を受けて三濃山が面白いとの話を聞き、それでは調べてみようという取り組みだのが1969年5月からである。そして1976年の4月までの間、4~7月にかけて13回の調査に出掛けた。調査は全部日帰りで、早朝出発、夕刻帰るといった方法で13回のうち2回は神戸昆虫同好会例会として複数人による調査を行い、それ以外は愚妻との2人による調査を実施した。

三濃山は兵庫県相生市の北端、赤穂郡、揖保郡にそれぞれ境を接し、西播磨丘陵公園に含まれ、その登山口から分かれて瓜生羅漢として有名な地であるが、山そのものは標高僅かに509mにて一般的にはあまり知られていなかった。歴史的には非常に古い時代の伝説がある。即ち、新羅系の渡来人の集団である秦氏の一族が赤穂市近辺の海岸に早くから土着、その頭領、秦河勝が赤穂市の坂越に住んでいて、三濃山へ愛犬をつれて行き大木の下で休んでいたところが、犬が急に吠え始めた。長く吠え続けるため河勝が怒り犬の首をはねると、首は高く飛び、木の枝から河勝を呑もうとしていた大蛇の喉にかみついた。河勝は大いに悲しみ、供養のためにこの山に寺を建てたというのである(兵庫探検・歴史風土編, 31, 1979年5月7日号 神戸新聞)。

この山は瓜生羅漢に行く道の反対側、左側に入っ

れる道を進む。初めの頃はそうでもなかったが、暫くすると車の乗り入れ回数が増えて大変歩き難くなってきた。約3キロを経て谷が二つに分かれて右へたどる。ここから急坂を2キロで三濃山の部落に着く。山頂近い山陰や谷間に十軒ばかりの民家があるが、私の行った頃は山を去って空き家になっていた。頂上には納経丘という、昔経巻を埋めた跡があり、山上には求福寺がある。この部落付近には竹藪があり、シーズンに行くと筍がわりととれた。

植物相はそれ程悪いとは思われなかったが、調査の時期的な問題があったのかもしれないが、大型甲虫との出会いが大変少なかった。5月頃は道を横切るヤコンオサムシ、マヤサンオサムシ、オオオサムシ、マイマイカブリに出会った。時にクロカタビロオサムシが道を横切るのに出会った。

溪流にはカジカの声が聞こえ、ホタルも見られた。道端にある花にはハムシ、コガネムシ、カミキリなど普通種が主体であるが、結構多く来ていた。ここでは、アオマダラタマムシ、ルイスヒラタチビタマムシのように美しい種を得た。アカヘリテントウもとれた。クワガタムシではコクワガタとスジクワガタしか得られなかったが、大型のミヤマクワガタ、ノコギリクワガタも勿論いると思われる。ヒラタチャイロコガネが多くいたし、オオセンチコガネがとれた。また、カヤの葉にクロオビツツハムシが多く来ていた。ハムシ類は結構面白いものがとれる。

1974年7月6日、相生・赤穂地区は集中豪雨の被害を受けたことが新聞紙上に出ていた。早速7月20日に出掛けてみた。驚いたことに水が道路の真ん中を流れたのか道の中央部がズーッと大きくえぐられて、車が入れるかなといった荒れようであった。この三濃山の山頂近くでゴルフ場建設予定があるとか、頂上近くでブルドーザーを見るようになった。恐らく山は様相が変わるであろう。レジャー施設に自然破壊が平然と行われている。丁度良い時期に調査が出来たと喜んでいる。今頃はどうなっているのだろうか？ 尚、この山の調査結果の概略はMDK NEWSに発表している(Vol.27, No.77, pp2-6, 1977)。

また採集の余談として"マダム奮戦記"を"きべりはむし Vol.3, No.2:15-19, 1975"に発表している。

佐用郡大撫山

大和昆虫愛好会の連絡誌に"Loomis"というのが出

ていた。その34号(1973.VI)に「近畿西部にオサを追って!!」といった記事があり、そこで佐用郡佐用町大撫山にてクロカタビロオサムシ、アキオサムシ、ヤコンオサムシ、アキタクロナガオサムシ、キュウシュウクロナガオサムシなどが多数採集出来た記事が出た(採集者名は O.T. = Osamu Tominaga, K.H. = Keitaro Harusawa となっている。富永 修、春沢圭太郎氏のことでと思われる)。アキタクロナガオサムシ 181 匹♀、ヤコンオサムシ 96 匹♂1 匹♀と全く大変な数であった)。その頃私もオサムシ掘りを身近な所でわりとやっていた。

兵庫県政 100 年協賛出版「兵庫県観光百選」というのが手許にあった(神戸新聞社・1967 年刊)。その本の p.208-209 に「大撫山は佐用とその西一上月の岡町にまたがり、高さは 435.9 m に過ぎないが、南へ約 1 キロの尾根が続く小さな起伏が多く変化に富む。昔は鹿庭山と呼んでいたことが『播磨風土記』に載っており、「山の四面 12 谷ありみな鉄を生ずるなり」と、およそ 1320 年前から長らくこの山で砂鉄を探っていたことが書かれている」とある。これだけの知識を得て愚妻と 2 人でこの大撫山なる所へオサムシ掘りに出掛けたのは 1975 年 3 月 5 日であった。

とにかく漠然と地図を片手に駅(佐用駅)を降り、歩いて行きはじめ見当違いの所に行ってしまうと地元の人に「大撫山」の場所を教えて貰って、再び山の斜面に辿り着いたのは昼頃になっていた。掘れる所があるかどうかと迷いつつ、やっと側方が掘れそうな斜面に出た。時間がない、急がねばと掘ったところ、偶然にもヒメオサらしきものが落ちた(帰宅後アキオサであるとわかった)。しめた、この付近にはいるといったことがわかり、道路の側面を掘り進んでみた。お陰でヤコンオサムシがとれたのに混じってヒメオサも落ちてきた。そこそこ採れたので、時間もだいぶ経っていることとて帰る汽車の時刻も気に掛かるし、走るようにして引き返した。この大撫山(といってもかなり麓の方であるが——)に全部で 1975、1976、1977、1978 年と合計 7 回オサムシ掘りに愚妻と 2 人で出掛けた。

とにかく景色を見るところではない、道路の斜面と見ればやみくもに掘って歩いた(もっとも「佐用の朝霧」として知られている光景は 2、3 度目にした)。アキタクロナガオサ(ホソアオクロナガオサムシ)の多いのには驚いた。大の毒瓶 5 本を持って行っているのだが、すぐアキタクロナガオサで一杯になる。ヒメオサも結構場所によっては多く出てくる。一

番の感激はキュウシュウクロナガオサムシが 2 ヶ所ほどからかなり多く掘り当てたことだった。分布の東限の種と思われるが、大きなもので思わず喜びの声をあげたものである。

このキュウシュウクロナガオサを求めてここより西、上部の高嶺神社の裏山を、これも愚妻と 2 人で行き、半日近く掘って 1 頭だけ採集することが出来た記録もある。

富満高原あたりにも掘りに行ったことはあるが、残念ながらキュウシュウクロナガオサは掘り出すことは出来なかった。当時、大撫山ではオサムシを掘るのに適当な道路側面が多くあり、採集するのには面白い場所であったが、最近はどうなっているのか、様子が変わっているのではないと思われる(神戸市近辺でもオサムシ掘りが出来る場所が次々となくなっており、環境の変化に驚いている)。

私が神戸で初めてオサムシ掘りというのにつれて行って貰ったのが 1939 年 1 月である。

オサムシを冬掘り出して採集するといった面白さはやったものでないといわれないと思う。寒い地方では冬はオサムシを掘る採集法は一般的には困難で、朽ち木崩しのような採集法はできると思われるが、かなりの制約を受けるのではと思われる。もっぱらトラップによる採集法になるかと思われる。しかし、掘り当てて一度に何匹ものオサムシがソロソロと転げ落ちてくる光景はやったものでないといわれないだろうと思われる(オサムシ掘りについては拙著「オサムシ掘りをめぐって」を見て頂きたい—遊虫千年、てんとうむし特別号、p.26-31, 1995)。

加西市 畑

中国縦貫道路が福岡まで開通したのが、1974 年 6 月をはじめである。その加西市にあるサービスエリアにレストランが出来、そこに勤めている人から招待を受けたのが 1974 年 6 月 17 日だった。播磨平野を横断する道路であるから平野部並びに低い丘陵地帯で植相も松、杉が主体のあまり昆虫などに恵まれた地帯ではなさそうであるが、そのレストラン付近でトラハナムグリ、タカサゴシロカミキリが採集出来た。

出来たてのレストランで夜間煌々と明かりをつけられ、それに向かって周辺の水田とか池に棲息している虫たちが付近の山野に棲息しているものと共に集まってくる。

これは面白そうだと云うことから愚息の車で夜間採集に6月23, 29日, 7月13, 27日と4回出かけた。

そこのレストランばかりでなく途中のレストランも調べてみた。その頃走るトラックにカブトムシが飛び込んで来て危ないといった新聞記事が出たりしていた。蛍光灯に向かって多数のゴミムシ、ゲンゴロウ、ガムシが飛来してくる。レストランの壁にはギッシリとヨツボシカミキリが飛んで来て止まっている。ミヤマクワガタ、コクワガタ、スジクワガタのクワガタムシ類、ヒゲコガネ、クリイロコガネ、クロコガネ、スジコガネ、オオスジコガネのコガネムシ類、アオスジカミキリ、ノコギリカミキリ、クロカミキリが多くやってくる。キイロカミキリモドキも多かった。日中わりとお目にかかり難いものでも、こうして見ると結構出会うことが出来る。このようなレストランも出来てしばらくはこの状態が続くであろうが、或る時期が過ぎれば個体数は減少してくるようである。このように、高速道路沿いにあるサービスエリアにあるレストランなど、夜間見て回るとは、いわゆる夜間採集を楽しくやれる楽しみがあるといえる。

神戸・摩耶山

江戸末期に洋学の知識が入ってくると共に、日本を訪れる欧米人も多くなり、各種の学問がこれら欧米人によって発表を始められた。

日本の昆虫学の発展もこれら欧米人によってその基礎が築かれたことは衆知のことである。

兵庫、即ち神戸も兵庫の港として古く開けたので、欧米人の来訪者の多くが兵庫に立ち寄り或いは滞在して昆虫の採集をしたりした。その関係で兵庫に関する昆虫の研究も、日本の昆虫の研究とほぼ同じくらいの時代から知られていることになる。

特に甲虫については有名な G.Lewis が第1回の日本滞在中(1867 ~ 1872)の採集品が日本の甲虫の研究の基礎となっている。

G.Lewis は兵庫(神戸)の地でも多くの甲虫の採集をしてそれを持ち帰り、自身で研究するばかりでなく、ヨーロッパの夫々専門家に研究を委ねて数多くの論文発表が行われた。即ち、兵庫の甲虫の研究の基礎も同時に始まったわけである。

その当時の兵庫、即ち神戸市内はまだ未開の地であり、現在では考えられない自然状態であったと考えられる。しかしながら、摩耶山は六甲山と違って

頂上近くに法道仙人が大化元年(645)には霊場を開き、その後150年ほど経った後、空海が唐から摩耶婦人像を持ち帰り、これを祭り、寺を創建した(これが円覚寺のおこりである)。また、豪族・赤松円心のこもった摩耶山城もこの寺を利用したものだと言われている(最近、朽木史郎、橋川真一編著“ひょうごの城紀行 下”の中でこの摩耶山城についての詳しい解説が行われている。“のじぎく文庫,p.13-18,1998.執筆担当 角田 誠”)。この様に宗教的にもこの山に登ることは古くからあったわけで、明治のはじめの兵庫(神戸)での採集の場合、この布引とか摩耶山というのは既に調べに行っていたようである。

当時の神戸の状況は、“川崎の突端から生田までの海岸は見渡す限り一面の砂浜で、その中に布引から流れてくる小さな川が海に注いでいた。当時の神戸は湊川にかかる橋の上から生田神社の参道まで続く曲がった細長い町で ……”と説明されている(神戸外国人居留地、のじぎく文庫,1980)。

生田神社の周辺は野原で、冬の陽射しを受け荒涼としていた。背後には飯防山をはじめとする丘陵が連なり、木がこんもり茂っているのもあれば、地肌が露出している丘もあって、そのうしろから海拔2,500 フィートの摩耶山が頂上を見せていた。布引の滝は雄大で美しく、芸術家が訪れるのにふさわしい小型のナイアガラだと。摩耶山の杉の大森林はレバノンの例の巨大なヒマラヤ杉よりこちらの杉の方が立派であるとほめ、摩耶山上の天上寺周辺の森にはたくさんのシカが生息していて、摩耶山と居留地のうちで日本でこれまで見たこともないような大きなシカを仕留めた。また、裏山ではサルの群れが遊んでいたとも記している。

このように、摩耶山はわりと古くから街のすぐそばにありながら、人々の訪れる山でもあれば自然の残った山でもあった。

摩耶山の甲虫相はどの様であるのか、私も何回となく登山して採集しているが、まとめたことはない。戦前、摩耶山麓にある神戸一中(現神戸高校)博物学会から“一中附近の昆虫”と題する刊行物が出版されている。摩耶山を含む摩耶山西側斜面一帯から蝶類8科67種、甲虫が38科376種記録されている。

この摩耶山からは、摩耶山を原産地として記載された種が51種あり、摩耶山麓にある篠原、原田、大石、アイスロード、カスカード峽等とされているものが16種ある(これは私の所有文献で調べたもの

で、抜けているものがあるのではと思われる)。

摩耶山を原産地として比較的話題に出る甲虫としては、エグリゴミムシ、マヤサンオサムシ、ヤマトエンマコガネ、キョウトアオハナムグリ、チビマルヒゲナガハナノミ、ワダカミキリモドキ、マヤサンコブヤハズカミキリなどがある。

中でもヤマトエンマコガネが摩耶山麓に多産するといった記録がある(Waterhouse, 1875), 実に面白い記録であり、現在とは全く違っていた環境のもとでは、たくさんいたのであらうと思われるが、この種は現在の日本でははっきりとした産地がわかっていない種で、世の移り変わりでいなくなってきた虫の代表的なものである。

戦前、摩耶山でオオチャイロハナムグリが採集されたとかされていないとか、話題になったコガネムシであるが、戦後の記録もあったりする。おそらく摩耶山の前面の未開地には棲息していると考えられる。本種は県下では氷の山、扇の山方面ではわりと見られる種である。

摩耶山は神戸市内にある山だし、頂上まで歩いて登るのに適当なところということで、わりと採集に出掛けたものである。東隣の六甲山がどちらかといえば頂上等がやや早く遊園地のようになったのであまり採集などには条件が良い場所ではなかった。六甲山の場合は頂上から紅葉谷を経て有馬へ下りる道とか、逆に神戸電鉄駅から六甲山の頂上に向かって行くとか、さらには六甲山の北背面地域の方が採集には面白いものがいたように思う(例えば逢山峠から六甲山山に行くなどは面白かった)。

どちらかといえば、摩耶山とか六甲山などは戦前とか終戦後すぐの頃には行くことが多かった山である。六甲山上にツヤスジコガネを多産していたり、八代池付近の樹に無数のヒゲナガビロウドコガネに出会ったことなど、印象に残っている。六甲山ホテルへ採集姿で昼食を食べに行ったら、上着を着用して下さい、なんならお貸ししましょうかといわれて面食らったり、仲秋の名月を見ようと六甲山ハウスのジンギスカン鍋を食べに行ってもあまりの涼しさに早々に下山したこと、六甲山上に夏季出来るテント村に室井 緯博士と一泊夜間採集に行った思い出(戦前)、結構採集には行っている山である(摩耶山の甲虫については私の報文を参照して頂きたい。鳥と自然 No.38:12-18, 1986)。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町 1-44)

今年も越冬していたウラナミシジミ 広畑 政巳

本種は夏から秋にかけては兵庫県下でも普通に見られるが、春から夏にかけての最終目撃記録は報告されていない。本州における本種の越冬地は房総半島・三浦半島・紀伊半島の南端が知られており、そこで越冬した個体が世代を繰り返しながら北方へ分布を拡大すると言われている。夏から秋にかけて県下各地で見られる個体はどこで越冬し、どのように分布を拡大してきたのか今のところ判っていない。

淡路島における越冬の記録は 1979 年 2 月 11 日に淡路島の南淡町大川で、1985 年 1 月 13 日に南淡町土生と洲本市中津川で確認されている(広畑, 1980, 1987)。しかし、その後の分布の経過は調査をしていないので判明していない。

今年(1999 年) 1 月 24 日の南淡町大川の調査でエンドウより終令幼虫 2 頭を確認しているので報告しておく。いつも越冬後の分布調査をと思いながら、春から夏にかけての調査ができず、どのように分布が広がっていくのか興味あるところである。淡路島での春から夏にかけての分布の調査を期待するところでもあり、また採集記録をご教示いただければ幸いである。

<参考文献>

- (1) 広畑政巳(1980) 兵庫県南淡町に於けるウラナミシジミの越冬と温度について Parnassius (22): 1-4.
- (2) 広畑政巳(1987) ウラナミシジミの越冬について 蝶研フィールド 2 (3): 17-18.

(HIROHATA MASAMI 姫路市白鳥台 3-11-8)

諏訪山公園のトンボ

山口 福男

神戸市中央区の諏訪山公園に1985年から1998年までの間に飛来したトンボについて報告する。

諏訪山公園は神戸市のほぼ中央にある都市公園で、面積は5.2ヘクタールあるが殆どが急峻な断崖にあって、トンボが生活できる環境からほど遠い存在である。しかし公園内に設置された花と緑のまち推進センターの庭園に小さな噴水池と水路があり、少ないながら春から秋まで数種のトンボが集まっていた、来園する子供たちの遊び相手になっている。

私は当センターが緑の相談所であった1985年から勤務しているが、建物や温室に迷い込んで干からびている昆虫のなかで程度の良いものを気まぐれに標本にしていた。十年あまりも経過すると案外にたまるもので、そのうちトンボの種類と数が一番多かった。

当センターで今年(1988年)人工の水路を中心にして小規模なビオトープが設置された。そこでこれらに関連してトンボの標本とメモを整理してみたら、大都会の中心に存在する公園ながら意外な種類が飛来していた。飛ぶ力が強い昆虫だから当然と言ってもしまえばそれきりの話ではあるが、トンボの生命力の強さを示す一つの例として書き残したい。

1 温室や建物に飛び込んできた種類

サナエトンボ科

ヤマサナエ 1989年6月1♂

オニヤンマ科

オニヤンマ 1988年7月2♂; 1989年8月1♀;
1995年9月1♂

ヤンマ科

カトリヤンマ 1991年9月1♂; 1997年9月1♂

ヤブヤンマ 1985年8月1♀; 1988年7月1♀;
1989年1♀; 1998年7月2♀

オオルリボシヤンマ 1990年10月1♂

マルタンヤンマ 1998年7月1♀

ミルンヤンマ 1989年9月1♀

ギンヤンマ 1989年7月1♂

クロスジギンヤンマ 1994年6月1♂; 1996年5月
1♂; 1997年5月1♂; 1998年6月1♂,
7月1♂

エソトンボ科

コヤマトンボ 1989年6月1♂; 1993年7月1♂

ハネヒロエソトンボ 1989年8月1♂; 1995年7月
1♂

タカネトンボ 1989年9月1♂; 1997年8月1♂

トンボ科

シオカラトンボ 1985年7月1♂1♀

オオシオカラトンボ 1985年7月1♂1♀

コシアキトンボ 1985年7月1♂1♀

ウスバキトンボ 1985年6月1♂1♀

2 公園内で捕獲した種類

アオイトトンボ科

ホソミオツネントンボ 1985年4月1♂1♀

オオアオイトトンボ 1998年10月2♂1♀

カワトンボ科

ハグロトンボ 1998年7月1♂

トンボ科

シオカラトンボ 1985年6月1♂1♀

オオシオカラトンボ 1985年6月1♂1♀

ショウジョウトンボ 1985年7月1♂

マユタテアカネ 1997年10月1♂1♀

アキアカネ 1997年10月1♂1♀

ナツアカネ 1985年10月1♂1♀

ノシメトンボ 1997年10月1♂1♀

リスアカネ 1998年10月2♂2♀

ネキトンボ 1998年10月1♂

コシアキトンボ 1998年5月1♂1♀

ウスバキトンボ 1985年8月1♂1♀

記録は以上の通りで、諏訪山公園内に飛来した種類は26種となった。神戸市全域で89種が記録されているのに比べると少ないように見えるが、都市公園の狭い庭園で小規模な水路しか無いのによくもこれだけ集まったと強く感じられもする。

飛来するトンボの数は調査中であるが、ウスバキトンボを除くすると非常に少ない。5月の穏やかな日にコシアキトンボが庭先で独特の空中静止飛行を始めるが、多いときでも4、5匹どまりである。前後してシオカラトンボとオオシオカラトンボが出現

し、秋まで水路の常連となるが、多い日でも10匹を超えることは少ない。秋にはアカネの仲間が加わるが、ウスバキトンボに比べるとはるかに少なく、そのうえ年によって飛来数の変化が大きい。ショウジョウトンボは7,8月には毎年飛来するがいつも雄1匹だけで日に2匹以上見ることはなかった。大型のトンボは種類が多いが個体数は非常に少ない。ヤマサナエ・オオルリボシヤンマ・マルタンヤンマ・ミルンヤンマは14年間に各々1匹ずつで、カトリヤンマも2匹に過ぎない。オニヤンマ・ヤブヤンマ・ギンヤンマ・クロスジギンヤンマはほぼ毎年飛来するが、観察できるのは各種ともに年間を通して10匹を超えることはなかった。室内に迷い込むことの多いのはヤブヤンマで、クロスジギンヤンマ・オニヤンマがこれに次ぐがギンヤンマはこれまでに2匹だけであった。

均翅亜目のトンボは少なくイトトンボの仲間は全く姿を見せなかった。ハグロトンボは2回飛来を観察できただけであり、ホソミオツネトンボは1985年の春に数匹が住みついていたが、その後全く見えない。オオアイトトンボは1998年に雌雄がつかなくて飛来した。タカネトンボとハネビロエゾトンボは2,3年に1匹か2匹が室内に迷い込むが屋外で見たことはない。コヤマトンボはこれまでに2匹しかとれていない。ネキトンボも1998年秋が初記録であった。

(YAMAGUCHI FUKUO)

神戸市須磨区神の谷3丁目6-4)

ヤマトエンマコガネを探して下さい 高橋 寿郎

ヤマトエンマコガネ *Onthophagus (Strandius) japonica* Harold, 1874 は、1875年に神戸在住の商人 Lenz, Tusson が採集した標本に基づいて Harold, E.V. が新種記載した種である (Abhandl. Nat. Ver. Bremen, IV:290), 産地は書いていないが当時のHyogo, 現在の神戸産ではないかと思っている。1875年, Water-

house は Trans. ent. Soc. London, Part. I : 76-77 において Hab. Hiogo and Osaka "At the foot of Maiyas-san it has occurred in great plenty" と大変貴重な記録を残している。そして、それ以後現在に至るまで兵庫県下では採集されたという記録は全く現れていない種である。絶滅したのではと危惧されていた種である。ところが、それから124年振りに姫路市姫山公園の犬糞に来ていた1♀が採集記録された (24.IX. 1992) (佐賀の昆虫No.31:53, 1997)。

姫路といえばこの種と斑紋がわりあいとよく似たミツコブエンマコガネが揖保川、夢前川沿いに多くいることでよく知られている地域と大変近いところで採集されており、その示された写真の斑紋からすれば、この発表種はヤマトエンマコガネにどうも間違いなさそうである(実物を見なければ確定的な判定は下せない)。

摩耶山麓に日本鹿が多くいた頃、このエンマコガネも多くいたのではないかと思われるのであるが、野鹿の姿が消えたと同時にこのエンマコガネも姿を消したようであり、筆者はかねてから県中央部、すなわち野鹿のわりと棲息している地方(朝来郡を中心に氷上、多可、神崎、宍粟郡)にはヤマトエンマコガネがいるのではないかと考えていたが、調査に行くことができないまま漠然と滅亡したのではと考えていた。

かつて、筆者が本誌上に発表したように(きべりはむし, Vol.23, No.1:1-5, 1995), 奈良の春日山においても古くは多く産した地でも現在その個体数はかなり少なくなっているようであり、日本で本種が確実に産する地点というのはほとんど知られていないのが現状のようである。

今回は、犬糞から採集されたようであるが、姫路城のある姫山公園は環境としては良好の地であり、このあたりに棲息することはかなり確率は高いのではないだろうか。もっと近くの地点を調査するとともに県中央部を調べたらこの種の棲息が確かめられるかもしれないと思う。どなたかこの虫の調査をやって頂けないものかと願うものである(筆者には年齢的にこの調査の実施は無理のように考えている)。

この様な小型ではあるが斑紋もあり美しい糞虫が兵庫県下に産するものであるということを確認して頂きたいものである。

(IV.1999)

* 兵庫県甲虫相資料-361

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

兵庫県産蝶類分布資料(14)

— 分布域が比較的広い蝶 6 種の記録 —

(ツマグロキチョウ・サカハチチョウ・イチモンジチョウ
・アサマイチモンジ・コムラサキ・アオバセセリ)

広畑政巳・近藤伸一

はじめに

標記のチョウは兵庫県内の比較的広い地域に分布し、いわゆる普通種という部類に属しているが、生息場所は限られるようである。一方これらの種は採集されても記録が報告されることは少なく、県下の詳細な分布状況は不明である。今回は不完全だが、分布調査のたたき台となるように、知り得た範囲内で報告する。

記載の方法は、県内の記録を各産地 1 例ずつをあげて、気付いたことを付記した。採集記録のうち場所が特定出来ない箇所については、分布図、垂直分布表から省いた。

本稿を草するにあたり、次の方々には多くの貴重なデーターの提供をいただき、また産地の状況等をご教示いただいた。ここに記してお礼申し上げる。

相坂耕作 石井為久 岩村 巖 故尾崎 勇
大東康人 桑田正明 佐々木薫 高島 昭
徳岡正己 永幡嘉之 森下泰治 唐土洋一
米村和繁 (以上 敬称略 五十音順)

1 ツマグロキチョウ

(1) 分布の状況

東北南部地方付近から南に、四国、九州にかけて広く分布する。県下の分布は図 1 のように、全域に広く点在し、北部、南部とも海岸付近まで生息が確認されている。

佐用、宍粟郡から朝来、氷上郡にいたる県内陸部に分布の空白域が存在するが、これらの区域での採集記録が発表されていないため、今後新しい生息地が発見される可能性は極めて高い。阪神地域に分布の集中がみられるが、記録は古いものが多く、ニュータウンの開発などで消滅した産地が多い。

(2) 生息環境の現況

食餌植物のカワラケツメイが生育する明るい草地に生息し、集落周辺の草地、田畑の畦、荒地、河

川敷などでみられる。県北部の放牧地やスキー場では大発生することがある。垂直分布は、表 1 のような標高 200m 以下の低地が中心となっている。高標高地の採集記録は但馬地域のスキー場などである。本種はあまり移動しないためか発生場所では個体数が多く、普通種のように扱われる傾向にあるが、発生地の数は限られ、また生息地は年々減少している。

(3) 採集記録

川西市平野 1♂	2-VI-1976	山本 治	2)
" 黒川(新滝道)	29-IX-1976	仲田元亮	5)
" 東睦野 観察	20-VII-1981	仲田元亮	5)
" 笹部 7exs.	2-X-1985	高橋邦明	2)
" 若宮	28-X-1979	仲田元亮	5)
" 大和	29-IV-1981	仲田元亮	5)
" 多田院	10-IX-1965	小坂利明	4)
" 西多田	19-IX-1965	小坂利明	4)
" 一の鳥居 1♂	19-IX-1948	吉坂道雄	26)
猪名川町上阿古谷 3♂	23-IX-1972	長沼二郎	2)
" 槻並(三草山)	3-X-1976	仲田元亮	5)
" 猪淵 2♂	25-IV-1979	山本 治	2)
" 柏原(大野山)	24-IX-1979	仲田元亮	5)
" 内馬場	12-IV-1981	小坂利明	4)
" 栃原(大谷)	23-IX-1988	小坂利明	4)
三田市藍本 1♀	23-VII-1970	高橋邦明	2)
" 上相野 3♂3♀	17-VII-1977	高橋邦明	2)
宝塚市清荒神 3♀	22-IV-1978	木村雅英	2)
" 大原野 1ex. (目)	15-IV-1978	杠 隆史	2)
" 切畑	10-X-1978	—	54)
" 西部	12-IX-1979	—	54)
" 香合新田	24-IX-1979	—	54)
西宮市上甲東園 1♀	4-VII-1971	山本 治	2)
芦屋市芦屋川上流 3♂2♀	1-X-1983	西 隆広	7)
神戸市			
東灘区御影町 1♀	5-VII-1951	吉坂道雄	25)
灘区伯母野山付近 1♀	17-IV-1968	杠 隆史	6)
" 上野通 多数(目) 秋	1964	桑田正明	
中央区諏訪山公園		—	45)

須磨区車の大池 1♂	19-IX-1964	三木 進 49)
垂水区清水ヶ丘 1♀	23-XI-1960	大東康人
西区押部谷町木津 1♀	22-X-1992	青木陽一 9)
” 伊川谷町前開 1♂	15-X-1970	青木陽一 9)
” 岩岡町印路 1♂	17-VIII-1986	近藤伸一
北区道場町生野 2♂3♀	14-X-1977	近藤伸一
明石市松蔭新田 3♂	1-V-1961	尾崎 勇
” 太寺 1♂	15-IX-1983	森本 輝 40)
加古川市志方町 3exs.	5-IX-1982	墨谷 健 40)
” 志方町氷室 2exs.	29-V-1983	近藤伸一
三木市大村 1♀	25-X-1986	永幡嘉之 28)
” 志染中 1♂	23-VI-1990	芝 直幸 28)
小野市小野町 1♂1♀	22-IV-1962	尾崎 勇
加西市北条町一乗寺 1♂	15-IX-1963	尾崎 勇
” 法華山 1♂	26-IV-1931	山本広一 25)
西脇市出合町 1♀	24-IV-1983	近藤伸一
八千代町笠形山	15-VI-1958	猪俣・岡本23)
黒田庄町門柳 1ex.	11-IV-1981	高島 昭
姫路市西蒲田 1♂	24-VI-1981	広畑政巳
” 書写山 4♂1♀	13-IX-1959	岩村 巖
” 打越 1♂	17-VI-1986	広畑政巳
” 飾磨区		桑名 誠 51)
福崎町神谷 3♂1♀	5-X-1986	広畑政巳
市川町上牛尾半瀬 2♂	5-X-1998	広畑政巳

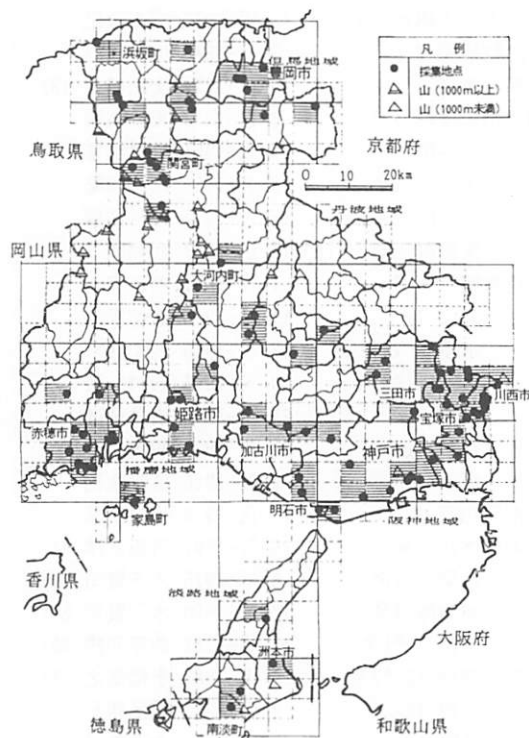


図1 ツマグロキチョウの県内分布

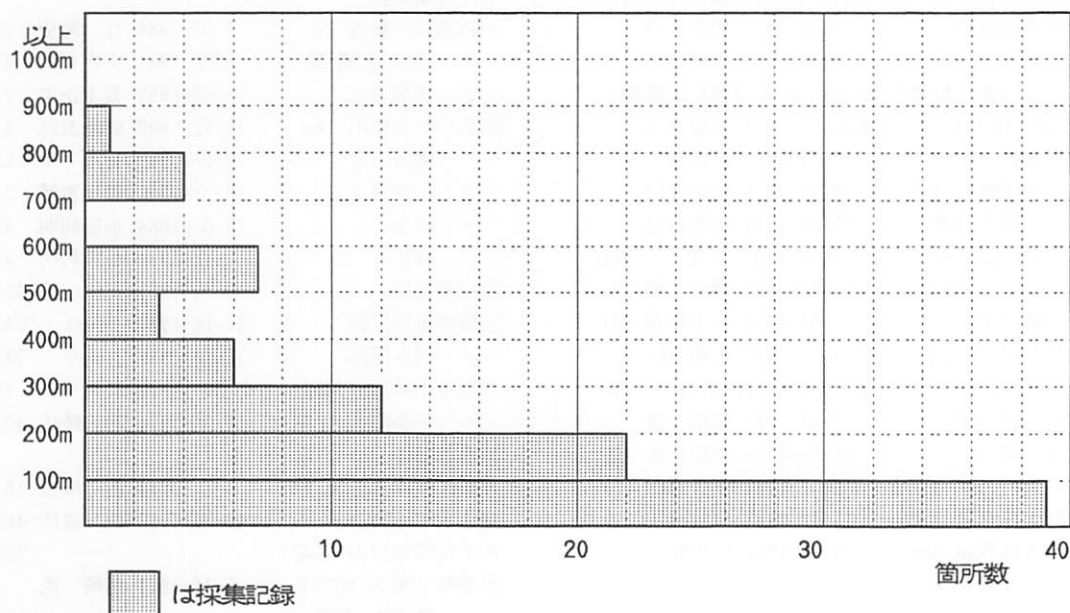


表1 ツマグロキチョウの垂直分布

大河内町大田池 1♂	23-IX-1976	広畑政巳
夢前町熊部 1♀	3-V-1985	広畑政巳
家島町本島	30-IX-1979	上田尚志 48)
相生市川原町 1♂	3-IX-1971	米村和繁
" 大谷町 1♂	2-VII-1956	米村和繁
" 天神山 1♀	8-X-1956	米村和繁
" 池ノ内 2♂1♀	17-X-1962	米村和繁
" 矢野町三濃山 1♂	17-IX-1967	豆鞆周二
赤穂市尾崎 1♂	4-X-1963	西垣憲治
" 丸山 1♂	11-X-1963	西垣憲治
" 加里屋 1♂2♀	23-IX-1965	勝川 剛
" 大津 1♂	10-X-1965	岩村 巖
" 富原 1♂	23-IX-1972	岩井信彦
" 目坂 1♂	23-IX-1972	船曳俊男
" 周世 1♂	12-X-1986	広畑政巳
上郡町柏野 1♂	24-IX-1978	米村和繁
豊岡市板江 1♀	16-X-1991	宮垣友洋 31)
" 妙楽寺 1♂	8-V-1975	木下賢司 33)
" 河梨峠 1♀	12-XI-1980	木下賢司 33)
" 福田 4♂1♀	15-VI-1982	前平照雄 33)
日高町神鍋 13♂2♀	14-VIII-1988	永幡嘉之 8)
" 名色 lex.	9-VIII-1987	近藤伸一
出石町鳥居 1♀	30-VIII-1979	木下賢司 33)
但東町中山 1♂	8-IX-1978	木下賢司 33)
香住町奥佐津 1♂	12-VIII-1947	山本広一 25)
温泉町美原高原 1♂	9-VII-1978	広畑政巳
" 丹土 1♂	5-VIII-1992	永幡嘉之
" (但馬牧場公園) lex.	8-X-1994	近藤伸一
浜坂町城山 lex.	上旬-X-1992	永幡嘉之
関宮町葛畑 1♂	12-IX-1986	近藤伸一
" 大笹鉢北 1♂	26-VII-1981	広畑政巳
" 東鉢伏 1♀	27-VI-1979	広畑政巳
" 大久保 1♂	7-VIII-1967	宮武 26)
" 別宮 2♂2♀	15-VII-1980	福井丈嗣 33)
" 轟 2♂	16-XI-1980	木下賢司 33)
大屋町若杉 2♂3♀	11-V-1975	広畑政巳
" 杉が沢高原 2♂2♀	29-IX-1991	近藤伸一 8)
生野町板原 1♂	13-VII-1967	尾崎 勇
洲本市千草 1♂	11-VII-1966	奥野修久 15)
津名町大町 1♀	2-X-1964	登日邦明 15)
三原町大日ダム 1♂	1-IV-1968	登日邦明 15)
" 神代杜家 lex.	27-VIII-1977	近藤伸一

2 サカハチチョウ

(1) 分布の状況

北海道、本州、四国、九州の山地に広く分布する。県下の分布は図2のように、県西部から北部にかけて分布し、東播磨、阪神西部から丹波地域にかけて空白域がある。1950年代以降に阪神東部から北摂に至る地域で生息が確認され、近年には西 隆広氏によって六甲山南東部で生息が確認された。住吉川上流部では継続して発生が確認されており、分布を西に拡大する傾向があり、今後の推移を注目したい。丹波地域は十分な調査がなされていない区域で、新しい生息地が発見される可能性は高い。淡路島では生息が確認されていない。

(2) 生息環境の現況

低山地から山地の広葉樹林を生息場所とし、主な食餌植物であるコアカソが生育する溪流沿いや林道などでよくみかける。垂直分布は表2のように高地から低地まで分布しするが、100mから500mぐらいの高さに生息地が多い。県北部では低地にも生息しているが、南部では山地のチョウで、やや標高の高い場所に生息地が集中する。

(3) 採集記録

川西市妙見新滝 2♂	5-V-1968	杠 隆史 2)
" 黒川(新滝道)	5-V-1981	小坂利明 4)
" 笹部 lex.	15-VIII-1969	富士正生 2)
猪名川町大野山 lex.	15-VII-1990	鍋島五郎 3)
" 槻並 1♀	29-IV-1989	有田 斉 3)
" 仁部 1♀	28-V-1995	森地重博 3)
" 杉生	13-V-1984	小坂利明 4)
" 肝川	1-VII-1984	小坂利明 4)
三田市乙原	9-VI-1981	吉田 豊 42)
宝塚市足洗川谷	27-IX-1987	— 54)
" 西谷西部	25-IV-1980	— 54)
芦屋市山芦屋町芦屋川 1♀	22-IX-1979	西 隆広 7)
" 三条町 1♀	8-V-1994	西 隆広 46)
神戸市		
東灘区住吉川上流 1♂	4-IX-1994	西 隆広 46)
灘区六甲山頂 1♂	22-VIII-1992	西 隆広 46)
八千代町笠形山 多産		— 23)
加美町三国岳 4♂2♀	5-V-1973	尾崎 勇
" 奥荒田 多産		— 23)
姫路市広峰山 1♂	9-V-1982	広畑政巳

市川町上牛尾寺家 1♂	30-IV-1978	広畑政巳
" 上牛尾半瀬 1♂1♀	16-VII-1984	広畑政巳
" 下牛尾河内 1♂1♀	12-IX-1998	広畑政巳
" 下瀬加茂地 1♂	12-IX-1998	広畑政巳
" 下瀬加戸安 1♀	12-IX-1998	広畑政巳
神崎町越知 1ex.	29-V-1981	近藤伸一
" 千ヶ峰山麓 2♂1♀	12-VII-1964	大東康人
大河内町砥峰 1♂	9-VIII-1981	広畑政巳
" 川上口 1♂	17-V-1974	森下泰治
夢前町雪彦山 1♂	3-V-1980	広畑政巳
" 佐中 1♀	26-VIII-1981	広畑政巳
" 熊部 1♂	3-V-1983	広畑政巳
" 河原口 6♂1♀	14-V-1967	中浜 潔
安富町大河弁獄 1♂	8-VII-1978	広畑政巳
" 三坂 1♂	27-IV-1996	大東康人
山崎町蔦沢 1♂	31-V-1968	岩村 巖
" 与位 1ex. (目)	28-VII-1996	近藤伸一
" 野々隅原(牧場) 1♀	17-VII-1994	大東康人
一宮町西公文 3♂1♀	20-V-1968	岩村 巖
" 上岸田 2♂	21-V-1968	岩村 巖
" 福知溪谷 1♂1♀	15-VII-1984	近藤伸一
" 小原 1♂	27-V-1975	岩村 巖
" 志倉(樺の木林道) 1ex.	16-VI-1985	近藤伸一
波賀町音水 1♂	11-V-1975	広畑政巳
" 赤西 1♂1♀	10-V-1981	広畑政巳
" 道谷 1♂	3-X-1982	広畑政巳
" 東山高原 1ex.	20-VII-1986	近藤伸一
" 平桑 1♂	18-V-1980	近藤伸一
" 戸倉スキー場 1♂1♀	1-VI-1996	大東康人
千種町千種 1♂	14-VII-1973	尾崎 勇
相生市矢野町小河 1♀	22-VII-1984	広畑政巳
" " 能下 1♀	23-IV-1967	中浜 潔
" " 瓜生 1♀	5-V-1976	中浜 潔
" " 三濃山 1♂1♀	19-VII-1981	広畑政巳
赤穂市加里屋駅裏 1♂	23-IV-1972	松村邦正
" 高雄 1♀	1-V-1973	松川
上郡町大杉野 1♂	2-VI-1963	岩村 巖
" 金出地 1♂	1-V-1981	高島 昭
上月町樺坂 1ex.	14-VIII-1981	高島 昭
" 皆田 1♂1♀	8-V-1994	大東康人
佐用町青木 1♂	23-VI-1963	岩村 巖
" 上石井 2♂	16-V-1981	高島 昭
" 海内 1♂	23-VI-1963	岩村 巖
" 奥海 2♂	27-VII-1980	高島 昭
" 日名倉山 1♂	14-VII-1968	岩村 巖

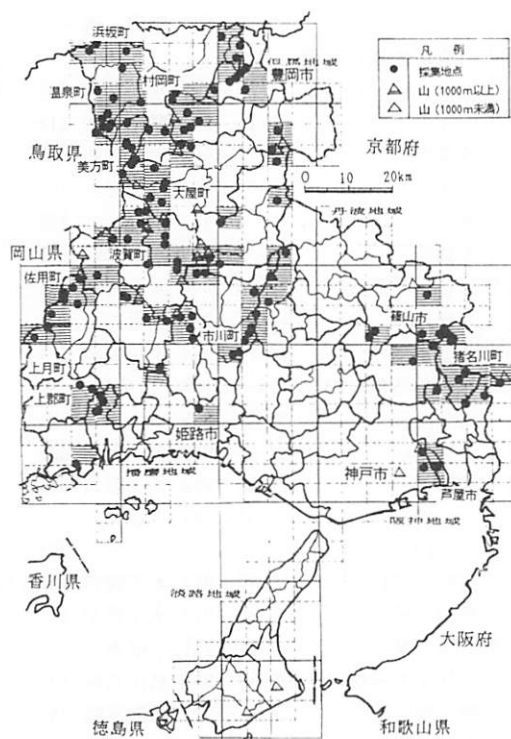


図2 サカハチチョウの県内分布

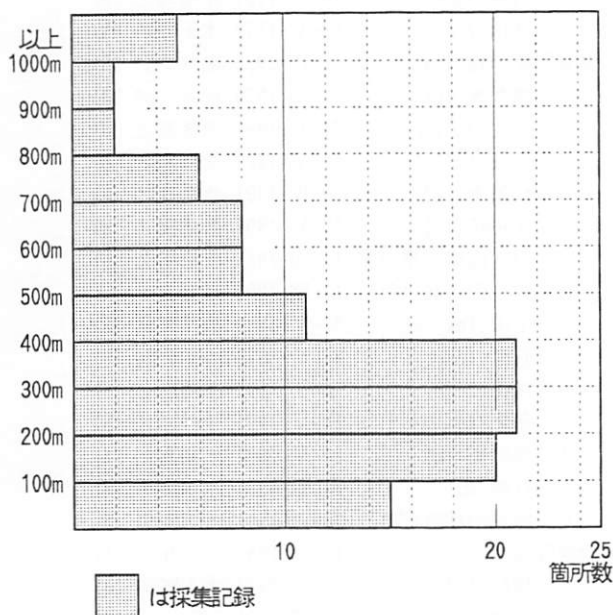


表2 サカハチチョウの垂直分布

佐用町平谷 2exs.	22-VII-1961	尾崎 勇
豊岡市目坂奈佐森林公園		
1♂1♀	7-VII-1993	宮垣友洋 30)
" 栃江 1♂	29-IV-1994	宮垣陽次 31)
" 妙楽寺 1♂	13-IV-1968	木下賢司 33)
" 宮井	9-VII-1972	遠藤知二 39)
" 滝	1-X-1972	遠藤知二 39)
" 下鶴井	5-V-1973	足立義弘 39)
城崎町来日岳林道(撮)	17-VII-1994	木下賢司 8)
" 湯島 1♂	19-V-1989	近藤伸一
竹野町阿金谷 2exs.	17-IV-1964	小崎茂樹 33)
日高町蘇武岳名色林道2♂	18-V-1983	近藤伸一 8)
" 阿瀬溪谷 1♂1♀	20-VII-1995	— 20)
" 金谷 1♂	23-VI-1963	木下賢司 33)
" 稲葉 1♂	12-V-1980	木下賢司 33)
" 田ノ口 1ex. (目)	2-V-1988	近藤伸一
" 三川山		— 36)
出石町桐野 1♂1♀	10-VII-1967	木下賢司 33)
" 奥山 1♂	9-V-1977	木下賢司 33)
美方町秋岡 1♀	19-V-1991	永幡嘉之 8)
" 小代スキー場	20-VI-1981	島田真輔 34)
" 鍛冶屋	4-VII-1981	島田真輔 34)
" 美方高原 1ex. (目)	9-VII-1978	広畑政巳 37)
村岡町板仕野 1♂	18-V-1995	木下賢司 8)
" 丸味 1♂	19-V-1991	永幡嘉之 8)
" 耀山 1♂	12-V-1978	木下賢司 33)
温泉町肥前畑 1ex.	1-VII-1983	福井丈嗣 33)
" 霧ヶ滝 1ex.	2-V-1979	福井丈嗣 33)
" 中辻 3♂1♀	24-V-1992	永幡嘉之 8)
" 千谷 1♂	12-V-1992	永幡嘉之 8)
" 仁連寺 1♂	20-IV-1991	永幡嘉之 8)
" 岸田花口 2♂	22-V-1992	永幡嘉之 8)
" 扇ノ山畑ヶ平 1♀	13-VII-1988	永幡嘉之 8)
" 扇ノ山 1ex. (目)	13-VII-1988	近藤伸一
" 上山 1ex.	23-V-1980	福井丈嗣 33)
" 菅原 1ex.	24-V-1978	福井丈嗣 33)
浜坂町城山 1ex.	6-V-1992	永幡嘉之 8)
" 藤尾 1ex.	18-V-1991	永幡嘉之 8)
" 奥諸寄 1♂	21-V-1992	永幡嘉之 8)
八鹿町日畑(撮)	24-VII-1994	木下賢司 8)
" 妙見山林道(撮)	20-VII-1991	木下賢司 8)
大屋町大谷 2♂	18-V-1980	近藤伸一 8)
" 横行 1♂	4-V-1974	木下賢司 33)
" 天滝 1♂	31-VII-1981	高島 昭
" 杉が沢高原 2♂	23-V-1984	前平照雄 8)

関宮町葛畑 1♂1♀	23-V-1981	近藤伸一 8)
" 氷ノ山越付近 1♀	6-VII-1987	永幡嘉之 8)
" 鉢伏山山頂 1♂	23-VII-1964	大東康人 8)
" 鉢伏高原	24-VII-1975	— 54)
和田山町竹ノ内 1ex.	8-V-1983	黒井和之 33)
山東町栗鹿 1♂	7-V-1977	木下賢司 33)
朝来町佐中 1♂	21-VII-1997	近藤伸一
生野町段ヶ峰 1♀	9-VII-1961	岩村 巖
" 栃原 2♂1♀	15-V-1975	石井為久
篠山市鈔市ダム 1♀	24-VII-1997	杠 隆史 3)
" 後川奥 1ex.	27-VII-1993	鍋島五郎 3)
" 後川上 1♀	10-V-1997	鍋島五郎 3)
" 箆坊 1♂	5-VII-1980	無量井忠吉 3)
" 後川新田 1♀	29-VI-1997	鍋島五郎 3)
" (丹南町)住山 1♂	10-V-1998	— 22)
" 今田町四斗谷 1♂	21-V-1996	— 18)

3 イチモンジチョウ

(1) 分布の状況

北海道、本州、四国、九州の平地から山地にかけて広く分布する。次種のアサマイチモンジと生息域が似ており、図3のように、県下の広い範囲に分布しているが、淡路島では生息が確認されていない。

本種は個体数の多いチョウであったが、近年なぜか減少が著しく、見かけることが少なくなった。特に低地でみられるのは、次種のアサマイチモンジであることが多い。

(2) 生息環境の現況

集落からやや奥まった広葉樹林を生息場所とし、スイカズラ属の生育する森林の林縁、タニウツギ属の生育する溪流沿い、林道などで活動する。垂直分布は表3のように300m以下が多い。県北部では低地にも生息するが、南部ではやや標高の高い場所が分布の中心となる。

(3) 採集記録

生野町段ヶ峰 1♀	9-VII-1961	岩村 巖
川西市一の鳥居 1♂	5-VI-1966	畦 定子 1)
" 多田 3exs.	29-VI-1966	鴻池義一 1)
" 笹部 1ex.	5-VII-1971	富士正生 1)
" 妙見新滝 1♂	14-VI-1969	杠 隆史 1)
" 西多田	11-VI-1966	小坂利明 4)

川西市大和	3-VIII-1980	仲田元亮	4)
" 芋生	31-VII-1982	小坂利明	4)
猪名川町妙見初谷 3exs.	9-VI-1987	森本 輝	41)
" 鎌倉	14-VIII-1984	小坂利明	4)
" 栢原	30-VI-1984	小坂利明	4)
" 堂床山 1ex. (目)	21-VII-1997	高橋邦明	3)
" 三草山 1♂	11-VI-1988	桑田正明	3)
" 仁部 1♂2♀	25-VI-1994	森地重博	3)
" 木間生 1♂	5-VI-1994	森地重博	3)
" 内馬場	27-VI-1976	仲田元亮	4)
" 柏原(大野山)	8-VI-1980	小坂利明	4)
" 仁頂寺	15-VI-1980	森地重博	4)
" 槻並	6-VI-1981	勝屋 潤	4)
" 杉生新田	6-VI-1982	小坂利明	4)
" 民田 10exs.	22-VI-1995	—	56)
三田市乙原	9-VI-1981	吉田 豊	42)
" フラワタウン 3exs.	17-VI-1995	—	5)
宝塚市清荒神 1♂	17-VIII-1970	加藤信一郎	47)
" 切畑(島脇)	19-VI-1982	小坂利明	4)
" 西谷西部	26-VII-1976	—	54)
" 香合新田	25-VII-1977	—	54)
芦屋市奥山蛇谷 1♂	5-VI-1982	西 隆広	7)
神戸市			
六甲山 1♀	2-VII-1950	吉坂道雄	24)

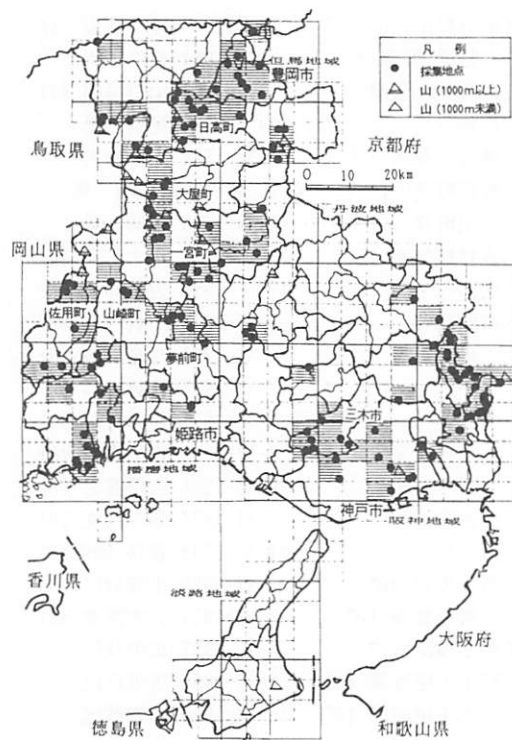


図3 イチモンジチョウの県内分布

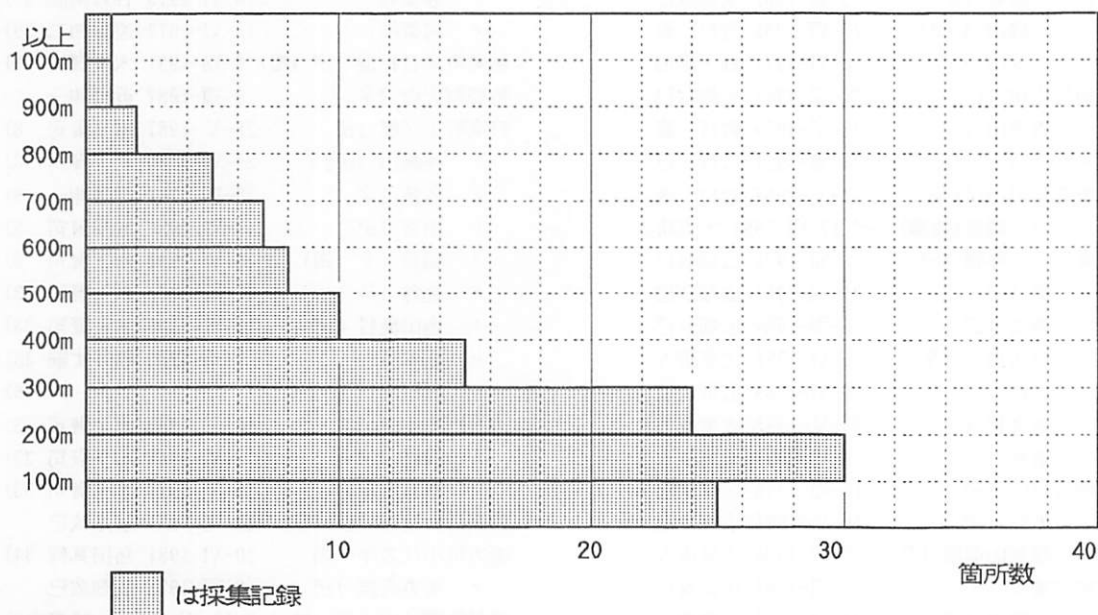


表3 イチモンジチョウの垂直分布

灘区伯母野山付近 1♂ 7-VI-1967 杠 隆史 6)
 " 上野通 多数(目) 1964 桑田正明
 中央区諏訪山公園 1♀ 10-IX-1995 山口福男 44)
 西区押部谷 1♂ 12-VI-1962 尾崎 勇
 " 樋谷町友清 1♀ 21-V-1994 大東康人
 北区有野町登山口 1♂1♀ 12-VII-1959 尾崎 勇
 " 山田町箕谷 1♀ 10-VII-1960 尾崎 勇
 " 森林植物園 1♂ 6-VI-1965 三木 進 49)
 " 淡河町中山 1♂ 17-V-1997 近藤伸一
 三木市興治 -VI-1977 小倉 滋 50)
 " 小林 -VI-1977 小倉 滋 50)
 " 脇川 -VI-1977 小倉 滋 50)
 " 大谷 -VI-1977 小倉 滋 50)
 " 大村 1♀ 8-VI-1986 永幡嘉之 28)
 " 戸田 1♂ 20-VI-1988 永幡嘉之 28)
 " 本町 3-VI-1976 高橋久夫 50)
 西脇市高松 24-V-1959 猪俣・岡本23)
 姫路市奥佐見 4♂ 1-VI-1980 広畑政已
 " 御立北山 1♂ 1-VII-1979 苦木隆幸 43)
 福崎町七種山 1♂ 5-VII-1987 広畑政已
 市川町上牛尾寺家 1♂ 26-VII-1998 広畑政已
 " 下牛尾河内 1♂ 16-VIII-1998 広畑政已
 " 上瀬加御室 1♂ 22-VIII-1998 広畑政已
 " 上牛尾岩戸 1♂ 22-VIII-1998 広畑政已
 大河内町砥峰 1♂ 9-VIII-1981 広畑政已
 " 峰山 4♂3♀ 23-VII-1962 岩村 巖
 " 深山 2♂ 8-VI-1975 森下泰治
 夢前町佐中 1♂ 26-VIII-1981 広畑政已
 " 雪彦山 1♂ 25-V-1959 岩村 巖
 新宮町下7'原 1♂ 30-VIII-1981 広畑政已
 山崎町薦沢 9♂1♀ 31-V-1968 岩村 巖
 " 野々隅原(牧場) 1♂ 17-VII-1994 大東康人
 安富町大河弁獄 1♂ 8-VII-1978 広畑政已
 " 関 1♂ 21-VIII-1982 広畑政已
 一宮町福知 1♂ 5-VIII-1984 広畑政已
 " 福知白口 1♀ 6-VI-1998 大東康人
 " 志倉 1♂ 16-VI-1985 広畑政已
 " 阿舍利 1♂ 23-V-1998 大東康人
 " 溝谷 1♀ 6-VI-1998 大東康人
 波賀町東山 1♂ 16-VII-1978 広畑政已
 " 道谷 1♂ 16-VI-1985 広畑政已
 " 藤無山湿原 1♀ 30-VI-1995 大東康人
 千種町鷹巣 1♂ 12-VII-1981 広畑政已
 相生市三濃山 1♂ 24-VI-1995 近藤伸一
 " 陸光明山 1♀ 20-VI-1973 松村邦正

赤穂市上飯屋 1♂ 20-VI-1963 西垣憲治
 " 木津 1♂ 6-VII-1969 粉引敏彦
 " 尾崎 2♂ 4-VI-1972 松村邦正
 " 加里屋駅裏 1♂ 27-VII-1973 松村邦正
 " 目坂 1♀ 2-VI-1973 松村邦正
 " 坂越 1♂ 21-VI-1973 岩井信彦
 " 周世 1♂ 12-VII-1973 岩井信彦
 上郡町赤松 1♂ 16-IX-1985 広畑政已
 上月町久崎 2♀ 24-VI-1962 岩村 巖
 " 上秋里 7exs. 24-VI-1995 — 56)
 三日月町三日月 4♂1♀ 17-VI-1962 岩村 巖
 " 三原 3♀ 2-VI-1963 岩村 巖
 佐用町若州 2♂1♀ 15-VI-1980 広畑政已
 " 上石井 5♂ 11-VII-1961 岩村 巖
 " 日野 1♂ 4-VI-1997 大東康人
 " 口長谷 1♂ 31-V-1979 高島 昭
 " 奥海 1♂ 27-VII-1980 高島 昭
 豊岡市目坂奈佐森林公園
 1♀ 29-VII-1993 宮垣友洋 30)
 " 伊賀谷 1♂ 26-VIII-1992 宮垣友洋 31)
 " 栃江 1♀ 4-VIII-1993 宮垣友洋 31)
 " 三開山 1♂ 15-VI-1972 木下賢司 33)
 " 瀬戸 1ex. 4-VI-1982 福井丈嗣 33)
 " 高屋(金山) 1♂ 23-V-1982 前平照雄 33)
 " 妙楽寺 16-VI-1973 谷角素彦 39)
 " 河梨峠 18-VI-1972 遠藤知二 39)
 城崎町来日林道 1♂ (撮) 8-VIII-1991 木下賢司 8)
 竹野町大森 2♀ 9-VIII-1987 近藤伸一
 日高町上ノ郷 1♂ 28-V-1987 木下賢司 8)
 " 神鍋山 2♂2♀ 29-VI-1990 木下賢司 8)
 " 名色 2♀ 9-VIII-1987 近藤伸一 8)
 " 山宮 1♂ 5-VI-1991 木下賢司 8)
 " 稲葉 1♀ (撮) 6-VI-1994 木下賢司 8)
 " 金谷 1♀ 25-VI-1963 木下賢司 33)
 " 金山鹿村 2♂ 11-VI-1966 木下賢司 33)
 " 栃本 1ex. 9-VI-1985 福井丈嗣 33)
 " 三川山 — 36)
 出石町奥山 1♂ 10-V-1995 木下賢司 8)
 " 桐野 2♂ 8-VI-1965 木下賢司 33)
 " 水石 1♂ 31-V-1977 木下賢司 33)
 村岡町大笹(鉢北) 1♂ 26-VII-1981 広畑政已
 美方町小代スキー場 20-VI-1981 島田真輔 34)
 " 美方高原 1♂ 9-VII-1978 広畑政已
 温泉町扇ノ山小ズッコ 1♂ 13-VIII-1988 永幡嘉之8)
 " 肥前畑 2exs. 4-VI-1983 黒井和之 33)

温泉町上山高原	36)
浜坂町城山(目)	28-VIII-1993 永幡嘉之 32)
八鹿町妙見山	— 36)
大屋町杉ヶ沢 1♂	28-VI-1976 木下賢司 33)
" 天滝 2♂	31-VII-1981 高島 昭
" 横行 1♂	18-VI-1983 高島 昭
和田山竹ノ内 1♀	16-VI-1995 木下賢司 8)
朝来町神子畑 1♂	6-VIII-1955 山本広一 24)
" 岩屋観音 lex.	11-VI-1981 福井丈嗣 33)
山東町迫間 1♂(撮)	16-VIII-1992 近藤伸一
生野町銀山湖 1♀	18-VIII-1974 森下泰治
" 枋原 2♂	8-VI-1975 森下泰治
篠山市丸山 1♂	24-VIII-1997 杠 隆史 3)
" 弥十郎岳 lex.	9-VI-1991 高橋邦明 3)
" 笹坊 2♂	20-VIII-1995 森地重博 3)

4 アサマイチモンジ

(1) 分布の状況

国内では本州だけに分布する。県下の分布域は図4のように、前種イチモンジチョウと同様、広い範囲に分布するが、アサマイチモンジの方がやや暖地に適応している。丹波地域が空白になっているのは記録の発表がないためで、生息している可能性は極めて高い。淡路島では生息が確認されていない。

近年大都市や市街地周辺の林で個体数が増加しているようである。

(2) 生息環境の現況

食餌植物のスイカズラが分布する低山地や平野部の林縁草地、林道などが生息場所で、イチモンジチョウより明るい場所を好む。垂直分布は表4のように200m以下に生息地が多く、高くなるほど減少する。集落周辺では本種の方がイチモンジチョウより優勢となる。神戸市西区岩岡町及びこの周辺地域では、アサマイチモンジだけが分布する。

(3) 採集記録

川西市一の鳥居 lex.	8-VI-1966 畦 定子 1)
" 一麻 2exs.	26-VII-1966 当麻信彦 1)
" 多田 3exs.	6-VI-1967 鴻池義一 1)
" 笹部 1♂	8-VI-1969 杠 隆史 1)
" 妙見新滝 1♀	13-VI-1975 杠 隆史 1)
" 虫生	19-V-1966 小坂利明 4)

川西市西多田	23-VII-1968 小坂利明 4)
" 横路	26-VII-1970 仲田元亮 4)
" 芋生	1-VIII-1976 仲田元亮 4)
" 黒川 lex.	16-VII-1996 — 18)
猪名川町大野山 1♂	2-VI-1984 長沼二郎 3)
" 杉生新田 1♂	22-VI-1980 森地重博 3)
" 三草山 lex.	26-VII-1989 鍋島五郎 3)
" 仁部 1♂1♀	25-VI-1994 森地重博 3)
" 木間生 1♀	5-VI-1994 森地重博 3)
" 内馬場	27-VI-1976 仲田元亮 4)
" 槻並	11-VII-1982 小坂利明 4)
" 枋原(大谷)	25-VIII-1984 小坂利明 4)
" 肝川 1♂	19-VII-1998 — 21)
" 民田 2exs.	22-VI-1995 — 56)
三田市乙原	9-VI-1981 吉田 豊 42)
" フワ-カン 5exs.	-1994 — 55)
宝塚市清荒神 1♂	20-VII-1975 加藤信一郎 47)
" 妙見初谷	15-VI-1975 — 54)
" 烏ヶ脇	16-IX-1979 — 54)
" 香合新田~中村間(目)	13-VI-1978 54)
" 波豆~三田市木器間 1♂1♀	28-V-1977 54)
芦屋市山芦屋町芦屋川 1♀	17-VIII-1987 西 隆広 7)
神戸市	
東灘区御影町 1♂	2-VI-1951 吉坂道雄 24)
灘区伯母野山付近 1♂	20-V-1972 杠 隆史 6)
中央区諏訪山公園	— 45)
" 市ヶ原 1♂1♀	18-VII-1965 三木 進 49)
西区押部谷 1♂1♀	12-VI-1962 尾崎 勇
" 岩岡町 1♂2♀	7-VII-1985 近藤伸一
" 伊川谷町大山寺 2♀	28-VII-1961 大東康人
北区山田町箕谷 2♂	28-VI-1959 尾崎 勇
" " 山の街 3♂1♀	24-VII-1960 尾崎 勇
稲美町草谷 1♀	6-X-1984 近藤伸一
加古川市志方町中才 1♂	19-VI-1983 広畑政巳
" " 氷室 1♂	29-V-1983 近藤伸一
三木市大村 1♂	31-V-1986 永幡嘉之 28)
" 恵美須 1♂	25-VII-1988 芝 直幸 28)
" 興治 1♂2♀	8-VI-1986 永幡嘉之 28)
" 本町	31-V-1976 高橋久夫 50)
小野市青野原 lex.	9-VI-1985 近藤伸一
西脇市比延	29-V-1959 猪俣・岡本 23)
姫路市下伊勢 1♂	1-VI-1980 広畑政巳
" 奥佐見 1♂	1-VI-1980 広畑政巳
" 書写山 1♂	15-VI-1959 岩村 巖
" 打越 2♀	12-VII-1987 広畑政巳

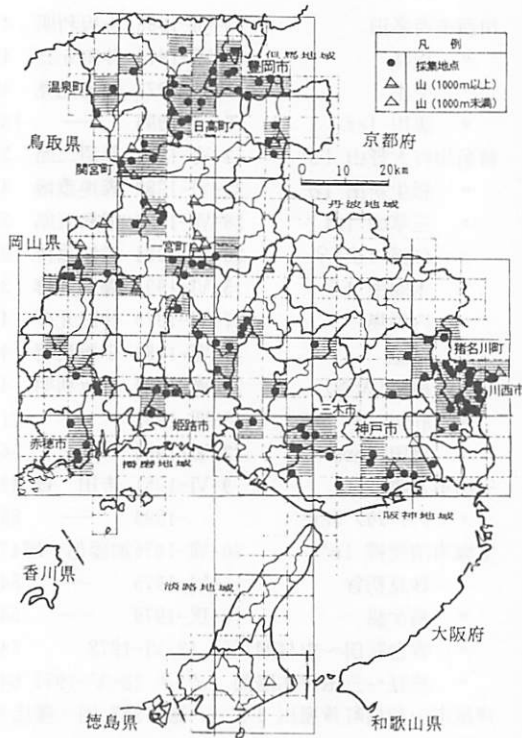


図4 アサマイチモンジの県内分布

姫路市南山田 1ex.	19-VII-1980	近藤伸一
福崎町七種山 1♂	14-VII-1978	広畑政巳
〃 南田原 1♂	15-VII-1981	広畑政巳
市川町上牛尾寺家 1♂	26-VII-1998	広畑政巳
〃 下牛尾河内 1♂	16-VIII-1998	広畑政巳
〃 〃 市場 1♀	22-VIII-1998	広畑政巳
〃 下瀬加茂地 1♂	16-VIII-1998	広畑政巳
〃 奥 2♂	6-VI-1980	近藤伸一
大河内町川上 1♂	8-VI-1975	広畑政巳
〃 砥峰 1♀	5-IX-1982	広畑政巳
〃 峰山 3♂	23-VII-1960	岩村 巖
夢前町雪彦山 1♀	26-VIII-1981	広畑政巳
太子町上太田 1♂	8-VI-1975	岩村 巖
山崎町薦沢 1♂1♀	11-VI-1968	岩村 巖
一宮町福知 2♂	1-VII-1969	尾崎 勇
〃 志倉 1♂	16-VI-1985	広畑政巳
〃 志倉(樫の木林道) 1ex.	16-VI-1985	近藤伸一
波賀町引原(目)	30-VIII-1980	松尾隆人 52)
〃 道谷 1♂	16-VI-1985	広畑政巳
千種町鷹巣 1ex.	2-VI-1985	近藤伸一
相生市三濃山 1♂	19-VII-1981	広畑政巳
〃 能下 1♂	31-V-1981	広畑政巳
赤穂市春日 1♂	8-VII-1979	広畑政巳
〃 上飯屋 1♀	25-VII-1962	西垣憲治

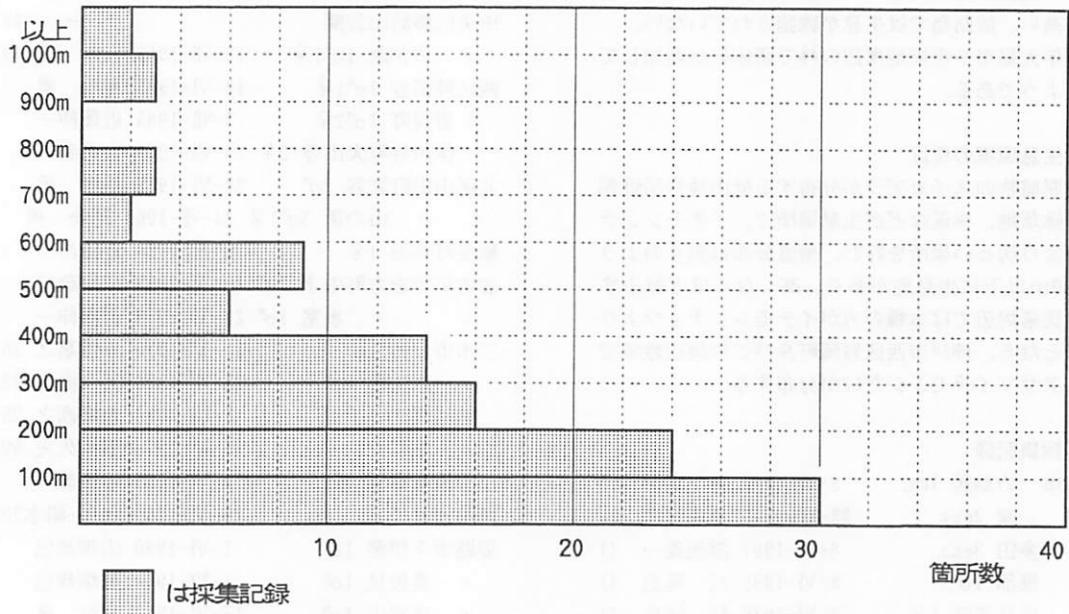


表4 アサマイチモンジの垂直分布

赤穂市木津 1♂	9-VII-1969	粉引敏浩
" 富原 1♂	22-VII-1973	船曳俊宏
上郡町大杉野 1♂	2-VI-1963	岩村 巖
上月町秋里 2♂	17-VII-1967	尾崎 勇
佐用町若州 1♂	15-VI-1980	広畑政巳
" 日名倉山 1♂	16-VII-1967	岩村 巖
" 奥海 1ex.	27-VII-1980	高島 昭

豊岡市目坂奈佐森林公園

1♀	25-VI-1994	宮垣友洋 30)
" 伊賀谷 1♀	4-IX-1989	宮垣友洋 31)
" 橋江 1♂	15-IX-1993	宮垣陽次 31)
" 奥野 1♀	31-V-1965	木下賢司 33)
" 上佐野	—	36)
" 加陽	10-VI-1963	友田 39)
" 矢吹山	9-VI-1968	吉田 39)
" 宮井	9-VII-1972	遠藤知二 39)
" 河谷	25-V-1974	中野 39)
城崎町来日林道 1♂ (撮)	8-VII-1991	木下賢司 8)
日高町山宮 1♂ (撮)	5-VI-1991	木下賢司 8)
" 稲葉 1♀ (撮)	6-VI-1994	木下賢司 8)
" 蘇武岳 1♂	26-VI-1978	福井文嗣 33)
" 金谷 1♂	3-VII-1977	木下賢司 33)
" 名色 1♂	11-VI-1984	前平照雄 33)
" 阿瀬溪谷	3-VII-1977	谷角素彦 37)
" 三川山	—	36)
出石町奥山 1♀	15-VI-1977	木下賢司 33)
" 桐野 2♀	8-VI-1977	木下賢司 33)
香住町大槻 1♂	5-VI-1988	近藤伸一 8)
村岡町大笹 1♀ (撮)	23-VII-1991	木下賢司 8)
温泉町丹戸 1♀	24-V-1992	永幡嘉之 8)
" 扇ノ山小ズッコ 1ex.	16-VI-1991	永幡嘉之 8)
" 檜尾 1ex.	4-VI-1985	黒井和之 33)
" 岸田川	—	36)
八鹿町妙見山 1♀ (撮)	8-VII-1991	木下賢司 8)
関宮町葛畑 2♂	13-VII-1984	近藤伸一 8)
" 福定 2♂	15-VII-1988	永幡嘉之 8)
" 氷ノ山	—	36)
和田山竹ノ内 1♂	21-VI-1977	木下賢司 33)
生野町板原 2♂1♀	8-VI-1975	森下泰治

5 コムラサキ

(1) 分布の状況

北海道、本州、四国、九州の平地から山地にかけ

て広く分布する。図5のように、県下の広い範囲に分布している。丹波地域の分布空白域は充分な調査がなされていない区域である。淡路島でも近年生息が確認された。

人為的環境に対する適応力があり、食餌植物が生育していれば大都市の公園や街路樹、河川敷でも生息する。

(2) 生息環境の現況

本種は食餌植物であるヤナギ科植物が生育する河川、溪流、湿地や池の周辺などの湿度が高い場所を生息地とする。垂直分布は表5のように、標高100m以下の低地に集中しているが、高地の湿原や溪流も生息地である。伊丹市の昆陽池のように大都市の中にある公園内にも生息している。

(3) 採集記録

川西市山下	7-VI-1964	岡田 4)
" 東睦野(一の鳥居)	17-VII-1964	岡田 4)
" 多田院	3-VII-1966	小坂利明 4)
" 笹部 1♂	13-VI-1970	杠 隆史
" 大和	24-IX-1979	小坂利明 4)
" 若宮	19-VI-1982	小坂利明 4)
" 鼓ヶ滝 1ex.	26-VII-1969	鍋島五郎 1)
" 西多田 1ex.	7-VI-1968	当麻信彦 1)
" 多田 2exs.	17-VII-1967	鴻池義一 1)
" 東多田 1♂	8-VI-1968	藤田弘忠 1)
" 東谷 1♂	23-VI-1949	吉坂道雄 24)
猪名川町杉生 1♂	4-IX-1997	宗像精三郎 3)
" 清水	18-VI-1978	小坂利明 4)
" 上阿古谷(三草山)	26-VI-1973	勝屋 潤 4)
" 上野 1♀	21-IX-1997	— 16)
三田市乙原	9-VI-1981	吉田 豊 42)
" フワ-クワン 6exs.	-1994	— 55)
宝塚市清荒神 1♂1♀	16-VII-1979	加藤信一郎 47)
" 西谷地区	28-VII-1979	山本 54)
" 波豆~三田市木器間	4-VI-1977	— 54)
伊丹市昆陽池 30幼虫	9-I-1983	近藤伸一
" 緑ヶ丘 2exs.	17-VI-1995	— 56)
芦屋市芦屋町芦屋川 1♀	8-VII-1980	西 隆広 7)
西宮市門戸荘 1♂	8-VI-1969	信濃宏之 10)
" 上ヶ原 1ex. (目)	18-IX-1997	— 16)
" 椋本町 1♂	中甸-VII-1965	吉屋 修
神戸市		
六甲山 1♂	28-VI-1959	尾崎 勇

東灘区御影町 1♀	14-VII-1954	吉坂道雄 24)
灘区伯母野山付近 1♂	29-V-1969	杠 隆史 6)
〃 上野通 多数(目)	1964	桑田正明
中央区諏訪山公園	—	45)
〃 市ヶ原 1♀	6-IX-1963	三木 進 49)
兵庫区烏原水源地 1♂	31-V-1959	尾崎 勇
北区山田町山の街 3♂	1-VI-1961	尾崎 勇
〃 道場町生野 1ex. (目)	7-VI-1997	— 16)
明石市明石公園 2♂	3-VIII-1960	尾崎 勇
〃 藤江 1♀	20-IX-1977	尾崎 勇 53)
〃 大蔵谷東山西山 1♂	30-VII-1964	大東康人
加古川市志方町氷室 1♀	10-VI-1984	近藤伸一
〃 〃 広尾 1♂	10-VI-1984	近藤伸一
高砂市時光寺町 1♂	28-VI-1981	近藤伸一
三木市大村 1♂	25-VI-1987	永幡嘉之 28)
〃 本町	1-VI-1977	高橋久夫 50)
〃 戸田 1♂	6-VI-1988	永幡嘉之 28)
〃 正法寺 1♂	1-VIII-1988	芝 直幸 28)
〃 岩宮	-VII-1977	小倉 滋 50)
〃 鳥町	-VII-1977	小倉 滋 50)
〃 志染中	-VII-1977	小倉 滋 50)
小野市下来住町 1♂	11-VI-1932	山本広一 24)
西脇市鹿野	24-V-1959	猪俣・岡本23)
姫路市広畑 1♂2♀	15-IX-1983	山本健一

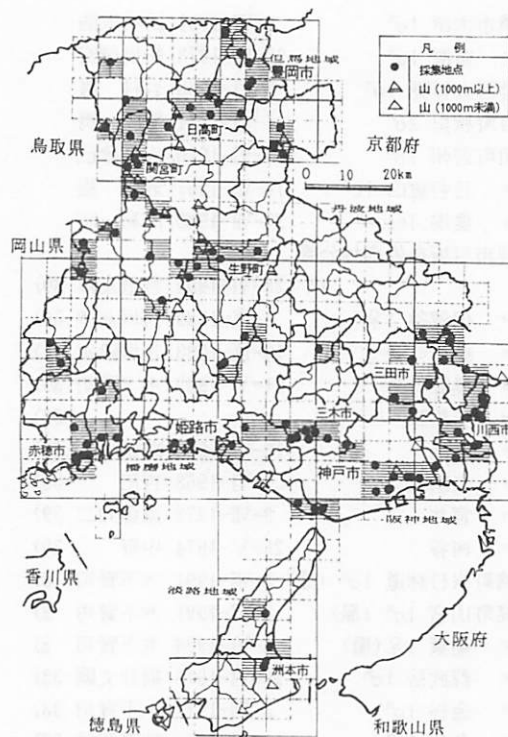


図5 コムラサキの県内分布

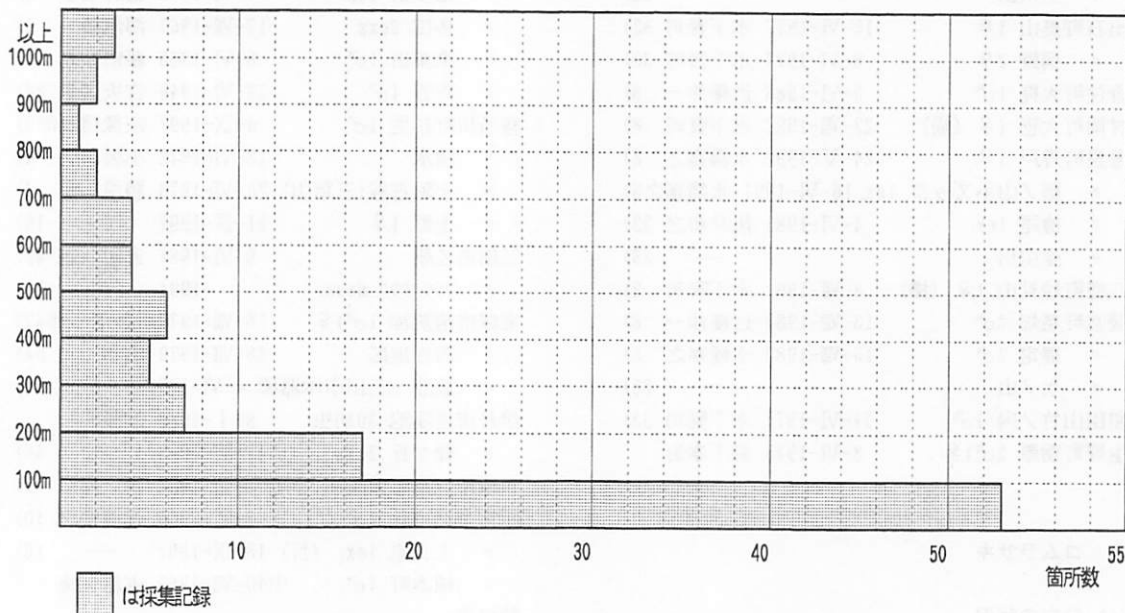


表5 コムラサキの垂直分布

姫路市飾磨区	桑名 誠 51)
福岡町井ノ口 2♂	29-V-1975 石井為久
" 新 1♂	22-VII-1975 森下泰治
市川町下牛尾河内 1♀	20-VI-1993 広畑政巳
大河内町砥峰 2♂	2-VII-1979 近藤伸一
" 峰山 1♂	17-VII-1982 近藤伸一
一宮町須行名 1幼虫	15-III-1987 広畑政巳
" 福知溪谷 1♀	15-VII-1984 近藤伸一
波賀町東山 1♂	16-VII-1978 広畑政巳
" 坂ノ谷林道 1♂	7-IX-1986 広畑政巳
" 赤西溪谷 12♂	6-VII-1995 — 20)
" 藤無山湿原 2♂	30-VI-1996 大東康人
千種町鍋ヶ谷 5幼虫	25-XI-1984 広畑政巳
相生市三濃山 1♂1♀	9-VI-1968 尾崎 勇
" 天下台 1♀	23-VI-1962 岩村 巖
" 佐方 1♂	31-VII-1962 滝井邦興
赤穂市目坂 1♂1♀	15-VI-1972 粉引敏彦
" 坂越春日 1♀	15-VII-1972 松村邦正
" 加里屋駅裏 1♀	26-VII-1972 松村邦正
" 上飯屋 3♂	1-VI-1973 松村邦正
" 坂越小山 3♂	2-VI-1973 松村邦正
" 富原 3♂	4-VII-1973 船曳俊彦
上月町久崎 1♂	24-VI-1962 岩村 巖
" 金屋 3exs.	8-X-1978 広畑政巳
佐用町日名倉山 2♂	16-VII-1967 岩村 巖
豊岡市三坂	— 36)
" 下鶴井	1-IX-1968 足立義弘 39)
" 神武山	30-V-1967 生物部 39)
" 妙楽寺	31-V-1972 遠藤知二 39)
城崎町来日 1♂	5-VII-1976 木下賢司 33)
竹野町阿金谷 2♀	16-VI-1964 木下賢司 33)
" 須谷 3♂1♀	18-VII-1963 小崎茂樹 33)
日高町上ノ郷 1♀	7-VI-1987 木下賢司 8)
" 八代 1♂	10-VI-1985 木下賢司 8)
" 名色林道 1♂	7-VII-1991 木下賢司 8)
" 十戸 3♂1♀	29-V-1982 前平照雄 33)
" 八代(大岡山) 1♂	10-VI-1985 木下賢司 33)
出石町奥山(茗荷谷) 1♂	18-VI-1978 広畑政巳
" 桐野谷 1♂	8-VI-1977 木下賢司 35)
村岡町龍山 1♂	8-VII-1978 木下賢司 33)
美方町鍛冶屋	4-VII-1981 島田真輔 34)
温泉町後山 1♂	14-VI-1991 永幡嘉之 8)
" 扇ノ山畑ヶ平 1♂	11-IX-1994 大東康人 8)
" 美原 1ex.	19-VI-1983 黒井和之 33)
関宮町福定 2♂	15-VII-1988 永幡嘉之 8)

関宮町氷ノ山東尾根 1♂	6-VII-1987 永幡嘉之 8)
" 鉢伏高原 1♂	10-VII-1980 — 54)
大屋町大屋川上流 1♀	2-VII-1997 大東康人
和田山糸井溪谷 1♂	18-VI-1978 広畑政巳
生野町段ヶ峰 3♂1♀	9-VII-1961 岩村 巖
" 銀山湖 1♂	18-VII-1967 尾崎 勇
" 黒川 1幼虫	24-III-1985 近藤伸一
" 栃原 1♀	4-VII-1981 近藤伸一 8)
篠山市後川奥 1♀	27-VII-1993 鍋島五郎 3)
" 箆坊 2♂	13-IX-1980 森地重博 3)
洲本市宇原 1♂	11-VII-1990 菊池宏美 11)
" 安乎町北谷 1♀	7-VI-1993 堀田 久 12)
" 池内 1♂	8-VI-1993 谷川大海 14)
津名町大町畑 ♂前翅	21-VI-1993 登日邦明 3)

6 アオバセセリ

(1) 分布の状況

本州、四国、九州の山地に広く分布する。アオバセセリの食餌植物は、スミナガシと同じアワブキ科の植物で、県下の分布もスミナガシと同様に広いが、生息場所は限られる。淡路島にも分布している。

(2) 生息環境の現況

淡路島では食餌植物が常緑のヤマビワで、常緑広葉樹林の林縁、山道などでみられる。本州側では、落葉広葉樹林を主な生息地とし、落葉のアワブキ、ミヤマハハソが生育する林縁、林間、山道などでみられ、♂は山頂でも見かける。垂直分布は低地から700m以下付近までが多い。

(3) 採集記録

川西市妙見山 1♀	-VII-1967 和田幸夫 1)
" 笹部	17-V-1970 仲田元亮 4)
" 大和	25-VII-1980 仲田元亮 4)
" 妙見新滝 1ex.	8-VII-1968 杠 隆史 1)
" 黒川 5幼虫	27-IX-1997 — 19)
猪名川町大野山 数頭	12-VII-1990 鍋島五郎 3)
三田市藍本 1♀	14-VII-1968 高橋邦明 29)
" 上青野 1幼虫	6-VII-1997 — 16)
" 本庄 1♀	14-VII-1968 高橋邦明 2)
" 乙原 2幼虫	— 19)
宝塚市切畑	13-VII-1988 — 54)
" 普明寺(目)	10-VII-1975 — 54)

西宮市高松町 1ex.	23-VIII-1969	山田英男 47)
芦屋市城山 2♂	6-VI-1976	西 隆広 7)
神戸市		
六甲山 1♂	5-VI-1951	吉坂道雄 25)
摩耶山		三木 進 49)
灘区伯母野山付近 1♂	1-VI-1968	杠 隆史 6)
” 青谷 1ex.	3-VI-1966	三木 進 49)
北区道場 5幼虫	17-IX-1983	有田 斉 2)
” 山田町山の街 1♀	24-VII-1960	尾崎 勇
三木市志染中	-IX-1978	小倉 滋 50)
” 安福田	-IX-1978	小倉 滋 50)
加美町三国岳 多数	2-V-1959	猪俣・岡本23)
市川町上牛尾半瀬 1♂	14-VIII-1980	広畑政巳
大河内町川上 1♂	8-VI-1975	広畑政巳
” 長谷 1♂	18-V-1975	石井為久
” 深山 3♂	8-VI-1975	石井為久
” 上小田 1♀	26-V-1968	尾崎 勇
” 砥峰高原 1♂	17-VIII-1982	近藤伸一
夢前町熊部 1♂	3-V-1985	広畑政巳
” 雪彦山 2♂	16-V-1967	米村和繁
新宮町二柏野 1♂	29-IV-1964	岩村 巖
山崎町蔦沢 3♂1♀	23-V-1975	岩村 巖
” 上の下 1♂	10-V-1995	大東康人
安富町安志 3♂1♀	13-V-1964	尾崎 勇
一宮町千町 2♂	21-V-1967	米村和繁
” 志倉 幼虫	16-VI-1985	近藤伸一
” 福知 幼虫	5-VII-1987	広畑政巳
” 公文 6♂	20-V-1968	岩村 巖
” 上岸田 1♀	21-V-1968	岩村 巖
” 小原 1♂	27-V-1975	岩村 巖
” 倉床 1♀	18-V-1975	尾崎 勇
” 藤無山林道 1♂1♀	5-V-1998	大東康人
波賀町赤西溪谷 4♂1♀	18-V-1975	広畑政巳
” 音水 2♂	24-V-1968	岩村 巖
” 日ノ原 2♂	24-V-1968	岩村 巖
相生市大谷町天ヶ台 1♂	11-VII-1956	米村和繁
” 矢野町三濃山 1♀	9-VIII-1957	唐土洋一
” 矢野町二ツ木 1♂	29-IV-1965	岩村 巖
赤穂市尾崎 1♂	-IX-1962	山本康彦
上郡町大山寺 1♂	20-VIII-1967	唐土洋一
” 梅谷 2♂1♀	27-VIII-1967	中浜 潔
上月町須山 1♂	19-V-1963	岩村 巖
佐用町平福 1♂	30-IX-1980	高島 昭
” 上石井 1♂	23-IX-1981	高島 昭
” 奥海 3♂3♀	16-V-1981	高島 昭

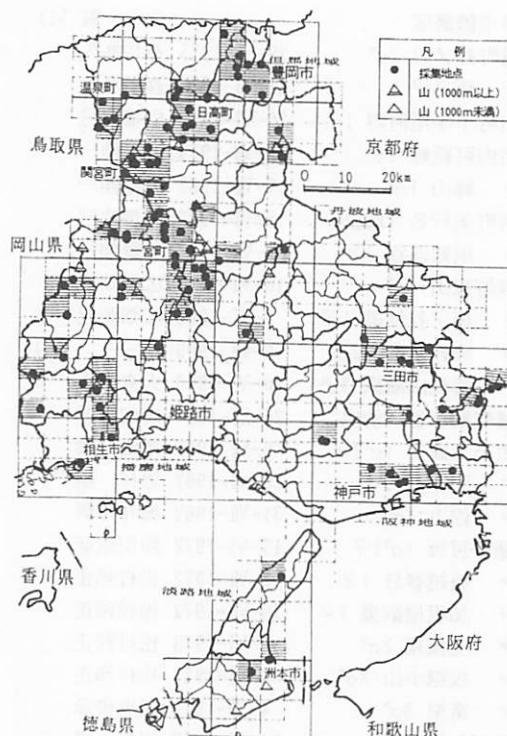


図6 アオバセセリの県内分布

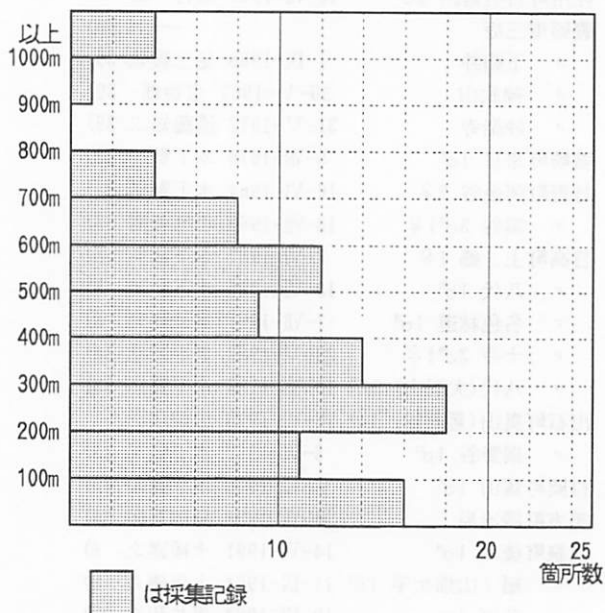


表6 アオバセセリの垂直分布

豊岡市板江 1♀	14-V-1994	宮垣陽次 31)
" 三開山 1♂	22-V-1963	木下賢司 33)
" 河梨峠 1♂	14-V-1966	木下賢司 33)
" 妙楽寺	22-V-1973	谷角素彦 39)
" 滝	5-V-1968	吉田 39)
" 下鶴井	20-VI-1971	足立義弘 39)
城崎町来日 1♂	14-V-1975	木下賢司 33)
竹野町阿金谷 1ex.	25-IV-1964	小崎茂樹 33)
日高町稲葉 2exs.	31-VII-1953	小崎茂樹 33)
" 稲葉三川山山麓 1♀	24-VII-1994	大東康人
" 金谷 1♂	17-V-1964	木下賢司 33)
" 金山麓村 1♂	16-V-1982	前平照雄 33)
" 名色林道 1♀	31-V-1979	福井丈嗣 33)
" 大岡(大岡山) 2♂	14-V-1980	木下賢司 33)
" 森山	—	36)
" 阿瀬溪谷	31-VII-1977	谷角素彦 37)
" 三川山	—	36)
" 妙見山	—	36)
出石町桐野 1♂	1-V-1968	木下賢司 33)
村岡町耀山 1♀	12-VI-1978	木下賢司 33)
" 大笹 終令幼虫	9-X-1984	近藤伸一
温泉町切畑 幼虫	30-VII-1981	広畑政巳
" 肥前畑 1ex.	4-V-1983	黒井和之 33)
" 扇ノ山 1ex.(目)	13-VII-1988	近藤伸一
" 海上 1ex.(目)	13-VII-1988	近藤伸一
" 霧ヶ滝 1ex.(目)	13-VII-1988	近藤伸一
関宮町外野 1♂	20-V-1962	岩村 巖
" 福定 1ex.(目)	14-VII-1988	近藤伸一
" 大久保 1♂	9-VII-1967	宮武 27)
" 鉢伏山 1♂	7-VII-1967	宮武 27)
" 氷ノ山	—	36)
" 東鉢伏 1♂	3-VII-1980	近藤伸一
大屋町藤無山 1♂	5-VI-1979	福井丈嗣 33)
" 須留ヶ峰 1♂	6-VI-1983	福井丈嗣 33)
" 天滝 幼虫	15-IX-1984	近藤伸一
" 横行 1♀	18-VI-1983	高島 昭
和田山竹ノ内(糸井谷) 1♂	16-V-1978	木下賢司 33)
生野町板原 4♂	8-VI-1975	森下泰治
篠山市藤岡ダム 1♀	24-VII-1997	杠 隆史 3)
" 今田町四斗谷 1♀	25-V-1996	— 18)
洲本市鮎屋 1♀	19-VII-1990	菊地宏美 11)
" 三熊山 1♀	23-VII-1977	近藤伸一
" 山手 1丁目 1ex.	27-VII-1977	近藤伸一
津名町常陸寺山 1ex.(目)	11-VII-1970	登日邦明 15)

<参考文献>

- 1) 大阪昆虫同好会(1981) 北摂の昆虫(1) 蝶類
- 2) 大阪昆虫同好会(1989) 北摂の蝶 大阪昆虫同好会(宝塚市)
- 3) 大阪昆虫同好会(1998) 北摂の昆虫(2)
- 4) 小坂利明(1994) 猪名川流域の蝶 詩画工房・大阪
- 5) 仲田元亮(1982) 能勢の昆虫(蝶の部) 自刊
- 6) 杠 隆史(1982) 六甲山系の蝶 Crude(23):67~73
- 7) 西 隆広(1984) 芦屋市の蝶 てんとうむし(9):28-38
- 8) 木下賢司・近藤伸一・大東康人・永幡嘉之(1996) 但馬地域の産蝶目録Ⅱ IRATSUME(20):66~86
- 9) 青木陽一(1997) 神戸市の蝶 蝶研フィールド12(5):4-12
- 10) 堀田 久(1969) 甲陵中学付近の注目すべき蝶 甲陵生物(4):4-12
- 11) 菊地宏美(1991) 淡路島での蝶類採集録 PARNASSIUS(37):1-2
- 12) 堀田 久(1993) 洲本市安乎町でコムラサキを採集 PARNASSIUS(39)10
- 13) 登日邦明(1993) 津名町大町でコムラサキの前翅を拾う PARNASSIUS(39)9
- 14) 谷川大海(1993) コムラサキ梢上を滑翔 PARNASSIUS(39):7
- 15) 登日邦明(1974) 淡路島の蝶相(1) 佳香蝶26(98):9~15
- 16) 蝶研出版編集部(1997) 1997年蝶類採集情報 蝶研サロン(124):14~22
- 17) 蝶研サロン編集部(1997) 1997年蝶類採集情報 蝶研サロン(127):8-11
- 18) 蝶研出版編集部(1996) 1996年蝶類採集情報 蝶研サロン118 号付録
- 19) 蝶研出版編集部(1997) 1997年蝶類採集情報 蝶研サロン(130) 付録
- 20) 蝶研出版編集部(1996) 蝶類採集情報・総集編 蝶研出版・茨木市
- 21) 蝶研サロン編集部(1998) 1998年蝶類採集情報(8) 蝶研サロン(137):12-22
- 22) 蝶研サロン編集部(1998) 1998年蝶類採集情報(5) 蝶研サロン(135):14-24
- 23) 猪俣涼一・岡本 清(1960) 多可・西脇地方の昆

- 虫(蝶類) 兵庫生物 4(1):24-28
- 24) 山本広一・吉坂道雄(1960) 兵庫県蝶類目録(3)
兵庫生物 4(1):37-44
- 25) 山本広一・吉坂道雄(1958) 兵庫県産蝶類目録
(1) 兵庫生物 3(4):228 ~236
- 26) 日浦 勇(1969) 日本列島の蝶
大阪市立自然博物館収蔵資料目録第1集
- 27) 日浦 勇(1970) 日本列島の蝶
大阪市立自然科学博物館収蔵資料目録第2集
- 28) 永幡嘉之(1993) 三木市内における蝶の採集記録
きべりはむし 21(1):10~22
- 29) 高橋邦明(1988) 北摂の蝶の記録
のせ(163):1096
- 30) 宮垣友洋(1995) 奈佐森林公園における蝶・トン
ボの記録 IRATSUME(19):22~25
- 31) 宮垣友洋(1995) 豊岡市で採集した蝶・トンボ
IRATSUME(19):26~35
- 32) 永幡嘉之(1994) 浜坂町城山初秋の蝶
IRATSUME(18):44-45
- 33) 木下賢司・前平照雄・福井丈嗣(1986) 但馬地域
の蝶類目録 IRATSUME(10):55~95
- 34) 島田真輔(1982) 美方町の蝶
IRATSUME(6):25~29
- 35) 木下賢司(1979) 床ノ尾山の蝶
IRATSUME(3):20~32
- 36) 高橋 匡(1979) 但馬地方昆虫目録(予報第1報)
IRATSUME(3):40~58
- 37) 広畑政巳(1979) 美方高原7月上旬の蝶
IRATSUME(3):38~39
- 38) 谷角素彦(1978) 日高町金山の蝶
IRATSUME(2):11~20
- 39) 遠藤知二ほか(1975) 豊岡市周辺の蝶
兵庫県自然保護協会但馬支部研究紀要1(1)
- 40) 京都大学蝶類研究会(1987) 日本産蝶類239種類
の記録(上) SPINDA(2):2~40
- 41) 京都大学蝶類研究会(1989) 日本産蝶類239種類
の記録 補遺 SPINDA NOUV(4):27~44
- 42) 吉田 豊(1981) 三田市乙原地区の蝶
てんとうむし(7):43
- 43) 苦木隆幸(1982) 夏季採集大会報告
ひろおび(6):39
- 44) 山口福男(1996) 諏訪山公園の蝶(追加その1)
きべりはむし 23(1):22~26
- 45) 山口福男(1995) 諏訪山公園の蝶
きべりはむし 23(1):22~26
- 46) 西 隆広(1994) 六甲山域の蝶数種について
きべりはむし 22(2):49~50
- 47) 加藤恒一郎(1981) 宝塚市荒神山のチョウ
きべりはむし 9(2):8~15
- 48) 上田尚志(1980) 家島群島の昆虫(1)
きべりはむし 8(2):21~27
- 49) 三木 進(1979) 六甲山系(西部)の蝶
きべりはむし 7(1):2~7
- 50) 小倉 滋・高橋久夫(1978) 三木市内の蝶につい
て きべりはむし 6(1.2):8~16
- 51) 桑名 誠(1979) 姫路市飾磨区の蝶相
てんとうむし(5):13
- 52) 相坂耕作(1980) 夜間灯火に飛来した蝶14種
てんとうむし(6):36
- 53) 尾崎 勇(1979) 兵庫県南部のコムラサキ4化に
ついて ひろおび(4):35~36
- 54) 宝塚市教育委員会(1992) 宝塚の昆虫類 I
- 55) 服部 保ほか(1997) 三田市フラワータウンにお
ける蝶類群集からみた植生の自然性評価
植生学会誌(14)47~60
- 56) 服部 保ほか(1997) 蝶類群集による自然性評価
の方法 人と自然(8)41~52

(HIROHATA MASAMI 姫路市白鳥台3-11-8)

(KONDO SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

県 関 係 文 献 紹 介

○ 大森 要 虫は友だち -思い出さまざま- 1998

B6. 180p. 自刊。(神戸新聞総合印刷刊)

著者大森 要氏は神戸生まれで神戸新聞社会部記者を経て編集委員などを務められた方。

子どもの頃から大の虫好きで、現役時代休日や出勤前のわずかな時間を利用して、自宅の庭で昆虫の生態を観察してこられたことがらを中心に、虫についての話とともに虫に関連してのいろいろのことが軽快な調子で語られていて、肩の凝らない気持ちよい読み物になっている。

虫が好きでないとこの様な本としてのまとめは出来ない。久方振りに楽しく読ませて頂いた。

本屋では売っていないと思うので、私は神戸市垂水区千鳥ガ丘3丁目14の17(電話078-707-6819)大森 要サンに電話連絡して一冊送料とも1,640円にてわけて頂いた(1999年1月23日神戸新聞紙上にも紹介文がのっている)。(T).

寄 贈

西宮市上甲東園の法西 浩氏より同氏著"兵庫県 of 蝶, 温暖化への適応"(昆虫と自然Vol.33, No.14: 24-25, 1998) 別冊一部の寄贈を受けました。(T).

県 関 係 ・ 学 会 誌 ・ 同 好 会 誌 ・ 連 絡 誌

(X・1998～Ⅲ・1999)

姫昆サロンニュース(姫路昆虫同好会連絡誌) No.131(X・1998)

ハーモニー(人と自然の博物館ニュース) No.23(X・1998), No.24(Ⅱ・1999), No.25(Ⅲ・1999)

自然とともに(ひょうご環境創造協会) 第42号(X・1998), 第43号(XII・1998)

エコひょうご(ひょうご環境創造協会) No.9(秋号)(X・1998), No.10(冬号)(XII・1998)

兵庫陸水生物ニュース(兵庫陸水生物研究会) No.15(X・1998), No.16(Ⅲ・1999)

Crude(大阪昆虫同好会々誌) No.42(XI・1998)

のせ(大阪昆虫同好会連絡誌) 27(10)(X・1998), 27(11)(XII・1998), 27(12,13), 28(1)(Ⅰ・1999), 28(2)(Ⅱ・1999)

PARNASSIUS No.47 (XII・1998)

混蟲ずかん(但馬むしの会連絡誌) No.64 (XII・1998), No.65 (Ⅱ・1999)

兵庫生物ニュース(兵庫県生物学会) No.36 (Ⅰ・1999)

交 換 誌

みちしるべ(岡山昆虫談話会々誌) 創刊号(Ⅳ・1984～第26号(XII・1998), 苫田高校跡地環境調査報告書(Ⅲ・1995)

ホシザキグリーン財団研究報告 第2号(XI・1998)

ホシザキグリーン財団ニュース No.5,6,7,9,10(XII・1997～X・1998)

FUTAO(フタオ会々誌) No.27,28(X・1998), 28,29(XII・1998)

ゆらぎあ(鳥取昆虫同好会倉吉支部) No.16(XII・1998)

KURAKON(倉敷昆虫同好会連絡誌) No.44(Ⅱ・1999)

編 集 後 記

また春がやってきました。会員の皆様も目当ての昆虫たちの観察に、忙しくフィールドを駆け巡っておられることでしょう。

さて、きべりはむし第27巻第1号ができましたのでお届けします。今回は、連載の「まとめもの」記事を中心とした質の高い内容となりました。高橋氏からはオサムシとタマムシの続編が届きました。広畑氏と近藤氏の共著による兵庫県産蝶類分布資料は14回目となり、これではほぼ兵庫県内の主な蝶の分布は一望できたことになります。編集子の一人高島も前回からはじめた兵庫県の蛾について2編掲載させていただいています。

このような「まとめもの」が発表されるということは、言い換えれば兵庫県の昆虫相の解析が進んでいる証拠ではありますが、短期間、少人数で成し得るものでなく、これまで本会会員をはじめとする県内の多くの昆虫愛好家の努力の賜物であると思います。そのような業績の発表の場として本誌の果たす役割は大きいことを改めて再認識してしています。

また、木下氏より自宅周辺でのキリガ類の年次別時期別発生消長の分析、山口氏からは職場である諏訪山公園を定点としたトンボの観察記録が寄せられました。毎日何気なく見ている昆虫たちでも、観察と記録の方法次第で大変貴重なデータに変身するものです。

このような現場での観察記録や注目種の採集記録の速報なども、同好会誌の生命線であるといえます。本誌の編集方針として「観察・採集記録の発表」と「昆虫相のまとめ」を二本柱としていきたいと思いますので、今後ともご協力の程をお願いいたします。

なお、前回お知らせしていました高橋寿郎氏著による「日本産コガネムシ類分類目録」は、現在編集の最終段階となっております。入手御希望の方はもうしばらくお待ち下さい。

今回の「きべりはむし」の発行は11月です。原稿締切は1999年9月末日とします。今夏の採集成果の発表の機会として御活用下さい。

(編集担当 近藤伸一・高島 昭)

きべりはむし 第27巻 第1号

1999年5月25日発行

発行：兵庫昆虫同好会

〒652-0054 神戸市兵庫区氷室町1丁目44 高橋寿郎方
振替 01170-3-26646

編集：近藤伸一・高島昭

原稿送付先 〒671-2201 姫路市書写2542-2 高島昭宛

印刷：岩峰社・東京

目 次

兵庫県におけるオサムシの分布(2)	
兵庫県甲虫相資料・348	高橋寿郎 1
市川町瀬加地区におけるクロコノマチヨウの記録	
.....	広畑政巳 8
兵庫県のタマムシ(3)	
兵庫県甲虫相資料・349	高橋寿郎 9
池田市北部のキリガ類	木下修一 16
兵庫県のキノコヨトウ亜科とタバコガ亜科	
兵庫県産蛾類分布資料・11	高島 昭 22
兵庫県のカレハガ上科とカイコガ上科	
兵庫県産蛾類分布資料・12	高島 昭 28
記録から見た兵庫県の甲虫相	
兵庫県甲虫相資料・350	高橋寿郎 40
私の昆虫採集記	
兵庫県甲虫相資料・357	高橋寿郎 41
今年も越冬していたウラナミシジミ	広畑政巳 47
諏訪山公園のトンボ	山口福男 48
ヤマトエンマコガネを探して下さい	
兵庫県甲虫相資料・361	高橋寿郎 49
兵庫県産蝶類分布資料(14)	
一分布域が比較的広い蝶6種の記録—	
(ツマク ¹ ・ロキチョウ ² ・サカハチョウ ³ ・イモシジ ⁴ ・アサマイモシジ ⁵ ・コムラサキ ⁶ ・アオハ ⁷ ・セリ)	
.....	広畑政巳・近藤伸一 50
県関係文献紹介.....	65
県関係学会誌・同好会誌・連絡誌(Ⅲ・1998～Ⅸ・1998).....	65
交 換 誌	66
会 員 異 動	66